

茨城県教育財団文化財調査報告第105集

常陸那珂有料道路事業地内
埋蔵文化財調査報告書

山崎遺跡

平成7年9月

茨城県道路公社
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第105集

常陸那珂有料道路事業地内
埋蔵文化財調査報告書

やまざき
山崎遺跡

平成7年9月

茨城県道路公社
財団法人 茨城県教育財団

序

ひたちなか市では、北関東地域の新しい物流拠点としての常陸那珂港建設工事や区画整理事業等が進められています。このような状況の中、茨城県道路公社は、現在、日本道路公団によって工事が進められている東水戸道路と結ぶ、県道常陸那珂港南線の一部である常陸那珂有料道路事業を進めています。この工事予定地内には埋蔵文化財包蔵地である山崎遺跡が確認されています。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県道路公社から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け、平成6年4月から平成6年9月まで発掘調査を実施しました。

本報告書は、山崎遺跡の発掘調査における調査成果を収録したものです。本書が学術的な研究資料としてはもとより、教育・文化向上の一助としても広く活用されますことを希望いたします。

なお、発掘調査から報告書の刊行にあたり、委託者である茨城県道路公社からいただいた多大な御協力に対し、心より御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、ひたちなか市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導・御協力いただいたことに、衷心より感謝の意を表します。

平成7年9月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 橋本 昌



山崎遺跡遠景



山崎遺跡全景

例 言

- 1 本書は、平成6年4月から9月まで、茨城県道路公社の委託により、財団法人茨城県教育財団が実施したひたちなか市部田野字山崎3321番4ほかにある山崎遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 山崎遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

理 事 長		磯 田 勇 橋 本 昌	昭和63年6月～平成7年3月 平成7年4月～
副 理 事 長		小 林 秀 文 中 島 弘 光	平成6年4月～ 平成7年4月～
専 務 理 事		中 島 弘 光	平成5年4月～平成7年3月
常 務 理 事		一 木 邦 彦	平成7年4月～
事 務 局 長		藤 枝 宣 一 齋 藤 紀 彦	平成4年4月～平成7年3月 平成7年4月～
埋 蔵 文 化 財 部 長		安 藏 幸 重	平成5年4月～
埋 蔵 文 化 財 部 長 代 理		河 野 佑 司	平成6年4月～
企 業 管 理 課	課 長	水 飼 敏 夫	平成4年4月～
	課 長 代 理	根 本 達 夫	平成7年4月～(平成6年4月～平成7年3月係長)
	主 任 調 査 員	海 老 澤 稔	平成6年4月～
経 理 課	課 長	小 幡 弘 明	平成5年4月～
	主 査	鈴 木 三 郎	平成7年4月～(平成5年4月～平成7年3月課長代理)
	課 長 代 理	大 高 春 夫	平成7年4月～(平成6年4月～平成7年3月係長)
	主 任	小 池 孝	平成7年4月～
	主 事	軍 司 浩 作	平成5年4月～
調 査 課	課長(部長兼務)	安 藏 幸 重	平成5年4月～
	調 査 第 三 班 長	根 本 廣 弘	平成6年度
	主 任 調 査 員	矢ノ倉 正 男	平成6年4月～平成6年9月調査
	調 査 員	宮 崎 修 士	平成6年4月～平成6年9月調査
整 理 課	課 長	山 本 静 男	平成7年4月～
	主 任 調 査 員	宮 崎 修 士	平成7年4月～平成7年9月整理・執筆・編集

- 3 本書で使用した記号等については、凡例を参照されたい。
- 4 本書の作成にあたり、遺物について、いわき市教育文化事業団の櫻村友延氏、福島県立博物館主任学芸員森幸彦氏、学芸員田中敏氏、菊地芳朗氏に御指導いただいた。

5 発掘調査及び整理に際して、御指導・御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

6 遺跡の概略

ふりがな	ひたちなかゆりょうどうろじぎょうちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ						
書名	常陸那珂有料道路事業地内埋蔵文化財調査報告書						
副書題	山崎遺跡						
巻次							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告						
シリーズ番号	第105集						
編著者名	宮崎修士						
編集機関	財団法人 茨城県教育財団						
所在地	〒310 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL029-225-6587						
発行年月日	1995(平成7)年9月30日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
やまざきいせき 山崎遺跡	いちはな 茨城県ひたちな しへたのあがき か市部田野字山 ざき 崎3321番4	ひたちなか市 -082210	36度 22分 35秒	140度 34分 50秒	19940401～ 19940930	10,380㎡	常陸那珂有 料道路事業 に伴う事前 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
山崎遺跡	集落跡	縄文時代			縄文式土器片、石器 石製品		古墳時代の堅穴住 居跡から十王台式 土器と五領式土器 が出土した。
		弥生時代	堅穴住居跡	1軒	弥生式土器		
		古墳時代	堅穴住居跡	34軒	土師器、須恵器、土 製品、石製品、金属 製品		
			土坑	4基			
			溝	2条			

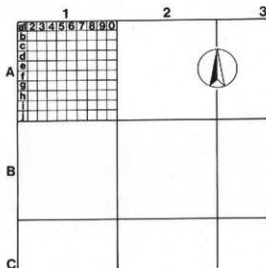
凡 例

- 1 山崎遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅱ系を原点とし、X軸+41,800m、Y軸+67,080mの交点を基準点(A1a)とした。

大調査区は、この基準点から東西・南北にそれぞれ40m平行移動して、一辺40mの大調査区を設定した。さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m方眼の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA・B・C……、西から東へ1・2・3……とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。

小調査区も同様に北から南へa、b、c……j、西から東へ1、2、3……0とし、名称は大調査区の名称を冠し、「A1a1区」、「B2b2区」のように呼称した。



- 2 遺構・遺物・土層に使用した記号は、以下のとおりである。

遺構	住居跡-S I	土坑-S K	堀・溝-S D	ピット-Pt	
遺物	土器-P	土製品-D P	石器・石製品-Q	金属製品-M	拓本土器-T P
土層	攪乱-K	鹿沼バミース-K P			

- 3 遺構・遺物の実測図中の表示は、以下のとおりである。



● 土器 □ 石器・石製品 ★ 土製品 △ 金属製品

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

- 5 遺構・遺物実測図の作成方法及び掲載方法については、以下のとおりである。

- 各遺構の実測図は、60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。
- 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々にスケールで表示した。
- 「主軸方向」は、炉・竈をとおる軸線あるいは南北の柱穴を結ぶ軸線を主軸とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。（例 $N-10^{\circ}-E$ 、 $N-10^{\circ}-W$ ）
なお、[] を付したものは推定である。
- 土器の計測値は、A-口径 B-器高 C-底径 D-高台・脚部径 E-高台・脚部高とし、単位はcmである。

なお、現存値は () で、推定値は [] を付して示した。

第1図 調査区呼称方法概念図

目 次

序

例言

凡例

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 遺跡	11
第1節 遺跡の概要	11
第2節 基本層序	11
第3節 遺構と遺物	12
1 弥生時代の遺構と遺物	12
(1) 竪穴住居跡	12
2 古墳時代の遺構と遺物	15
(1) 竪穴住居跡	15
(2) 溝	116
3 その他の遺構と遺物	118
(1) 土坑	118
(2) 遺構外出土遺物	120
第4節 まとめ	123

插 图 目 次

第 1 图	调查区称呼方法概念图	第 34 图	第 14 号住居跡実測・出土遺物位置图	46
第 2 图	周辺遺跡分布图	第 35 图	第 14 号住居跡出土遺物実測图(1)	47
第 3 图	山崎遺跡調査区割图	第 36 图	第 14 号住居跡出土遺物実測・拓影图(2)	48
第 4 图	山崎遺跡遺構配置图	第 37 图	第 15 号住居跡実測图	50
第 5 图	基本土層图	第 38 图	第 15 号住居跡出土遺物実測・拓影图	51
第 6 图	第 17 号住居跡実測图	第 39 图	第 16 号住居跡実測图	52
第 7 图	第 17 号住居跡出土遺物実測・拓影图	第 40 图	第 18 号住居跡実測图(1)	53
第 8 图	第 1 号住居跡実測图	第 41 图	第 18 号住居跡竈実測图(2)	54
第 9 图	第 1 号住居跡出土遺物実測图	第 42 图	第 18 号住居跡出土遺物実測图(1)	55
第 10 图	第 2 号住居跡実測图	第 43 图	第 18 号住居跡出土遺物実測图(2)	56
第 11 图	第 2 号住居跡出土遺物実測图	第 44 图	第 18 号住居跡出土遺物実測・拓影图(3)	57
第 12 图	第 3 号住居跡実測图(1)	第 45 图	第 19 号住居跡実測图	59
第 13 图	第 3 号住居跡出土遺物位置图 ・竈実測图(2)	第 46 图	第 19 号住居跡出土遺物実測图(1)	61
第 14 图	第 3 号住居跡出土遺物実測图(1)	第 47 图	第 19 号住居跡出土遺物実測・拓影图(2)	62
第 15 图	第 3 号住居跡出土遺物実測・拓影图(2)	第 48 图	第 20 号住居跡実測图	64
第 16 图	第 4 号住居跡実測图	第 49 图	第 20 号住居跡出土遺物実測图(1)	65
第 17 图	第 5 号住居跡実測图	第 50 图	第 20 号住居跡出土遺物実測・拓影图(2)	66
第 18 图	第 5 号住居跡出土遺物実測・拓影图	第 51 图	第 21 号住居跡実測图	67
第 19 图	第 6 号住居跡実測图	第 52 图	第 22 号住居跡実測图	69
第 20 图	第 6 号住居跡出土遺物実測・拓影图	第 53 图	第 22 号住居跡出土遺物実測图(1)	70
第 21 图	第 7 号住居跡実測・出土遺物実測 ・竈実測图	第 54 图	第 22 号住居跡出土遺物実測・拓影图(2)	71
第 22 图	第 7 号住居跡出土遺物実測图(1)	第 55 图	第 23 号住居跡実測图	73
第 23 图	第 7 号住居跡出土遺物実測・拓影图(2)	第 56 图	第 23 号住居跡出土遺物実測・拓影图	74
第 24 图	第 8 号住居跡出土遺物実測图	第 57 图	第 24 号住居跡実測图	76
第 25 图	第 8 号住居跡実測图	第 58 图	第 24 号住居跡出土遺物実測图(1)	77
第 26 图	第 9 号住居跡実測图	第 59 图	第 24 号住居跡出土遺物実測・拓影图(2)	78
第 27 图	第 10 号住居跡実測・出土遺物位置图	第 60 图	第 25 号住居跡実測图	80
第 28 图	第 10 号住居跡出土遺物実測图(1)	第 61 图	第 25 号住居跡出土遺物実測・拓影图	82
第 29 图	第 10 号住居跡出土遺物実測图(2)	第 62 图	第 26 号住居跡実測图	84
第 30 图	第 11 号住居跡実測图	第 63 图	第 26 号住居跡出土遺物実測图	85
第 31 图	第 12 号住居跡出土遺物実測图	第 64 图	第 27 号住居跡実測图(1)	87
第 32 图	第 12 号住居跡実測图	第 65 图	第 27 号住居跡竈実測图(2)	88
第 33 图	第 13 号住居跡実測图	第 66 图	第 27 号住居跡出土遺物実測图	89
		第 67 图	第 28 号住居跡実測图	90
		第 68 图	第 28 号住居跡出土遺物実測图	91

第69図	第29号住居跡実測図	93	第79図	第33号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)	107
第70図	第29号住居跡出土遺物実測・拓影図	94	第80図	第34号住居跡実測図	109
第71図	第30号住居跡実測図	95	第81図	第34号住居跡出土遺物実測・拓影図	110
第72図	第30号住居跡出土遺物実測・拓影図	97	第82図	第35号住居跡実測・竈実測図	112
第73図	第31号住居跡実測図	98	第83図	第35号住居跡出土遺物実測図(1)	114
第74図	第31号住居跡出土遺物実測図	99	第84図	第35号住居跡出土遺物実測図(2)	115
第75図	第32号住居跡実測図	101	第85図	第1・2号溝実測図	117
第76図	第32号住居跡出土遺物実測図	102	第86図	第1・2・3・4号土坑実測図	118
第77図	第33号住居跡実測図	104	第87図	遺溝外出土遺物実測図(1)	121
第78図	第33号住居跡出土遺物実測図(1)	106	第88図	遺溝外出土遺物実測・拓影図(2)	122

表 目 次

表1	山崎遺跡周辺遺跡一覧表	6	表3	山崎遺跡土坑一覧表	125
表2	山崎遺跡住居跡一覧表	125			

写真図版目次

P L 1	第17号住居跡全景 第17号住居跡遺物出土状況	第25号住居跡土層セクション	
P L 2	第3号住居跡全景 第3・4号住居跡遺物出土状況	P L 10	第27号住居跡全景 第27号住居跡遺物出土状況 第27号住居跡竈全景
P L 3	第7号住居跡全景 第7号住居跡遺物出土状況	P L 11	第28号住居跡全景 第28号住居跡遺物出土状況
P L 4	第10号住居跡全景 第10号住居跡遺物出土状況	P L 12	第33号住居跡全景 第33号住居跡遺物出土状況
P L 5	第14号住居跡遺物出土状況 第14号住居跡土層セクション	P L 13	第34号住居跡全景 第34号住居跡遺物出土状況
P L 6	第18号住居跡全景 第18号住居跡竈全景	P L 14	第35号住居跡遺物出土状況 第35号住居跡竈遺物出土状況
P L 7	第19号住居跡全景 第19号住居跡遺物出土状況	P L 15	第17・1～3号住居跡出土遺物
P L 8	第22号住居跡全景 第22号住居跡遺物出土状況	P L 16	第3号住居跡出土遺物
P L 9	第25号住居跡全景 第25号住居跡遺物出土状況	P L 17	第3・5～7号住居跡出土遺物
		P L 18	第7号住居跡出土遺物
		P L 19	第7・8・10・12・14号住居跡出土遺物
		P L 20	第14・15号住居跡出土遺物

P L 21 第18・19号住居跡出土遺物
P L 22 第18～20号住居跡出土遺物
P L 23 第20・22号住居跡出土遺物
P L 24 第22～24号住居跡出土遺物
P L 25 第24～26号住居跡出土遺物
P L 26 第26～30号住居跡出土遺物
P L 27 第29～32号住居跡出土遺物

P L 28 第32・33号住居跡出土遺物
P L 29 第33～35号住居跡出土遺物
P L 30 第35号住居跡・遺構出土遺物
P L 31 遺構出土土器・出土石製品
P L 32 出土石製品・土製品
P L 33 出土金属製品・遺構外出土土器

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

ひたちなか市の常陸那珂地区では、すでに国内初の安全運転教育総合施設である安全運転中央研修所が平成3年5月に開所したり、広域的レクリエーション需要に対処する国営ひたち海浜公園の一部が平成3年10月に開園したのをはじめ、北関東地域の新たな物流拠点としての常陸那珂港建設工事や区画整理事業等が急ピッチで進められている。

また、北関東3県を直結し、均衡ある高速交通ネットワークを形成する北関東自動車道は、平成5年11月に3区間56kmについて、日本道路公団に対し工事の施行命令が出された。北関東自動車道の一部については、一般国道6号東水戸道路として昭和60年度事業化し、平成9年度完成を目的に建設省及び日本道路公団が工事を進めている。このような状況のなか、常陸那珂地区と東水戸道路とを直線的に接続するために県道常陸那珂港南線は極めて重要な位置付けがされている。そこで、県道常陸那珂港南線の一部を改築し有料化するための本事業「常陸那珂有料道路事業」が実施されることとなった。

平成5年12月、事業主体者である茨城県道路公社は茨城県教育委員会と共に工事区域の現地踏査を行い、埋蔵文化財の存在を確認した。平成6年1月、茨城県教育委員会は、茨城県道路公社と工事区域内の埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、山崎遺跡の一部と考えられる10,380㎡について、発掘調査による記録保存の措置を講ずることとなった。そして、その調査機関として茨城県教育財団が紹介された。

財団法人茨城県教育財団は、平成6年4月1日付で茨城県道路公社と埋蔵文化財発掘調査の業務委託契約を締結し、平成6年4月1日から平成6年9月30日まで山崎遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

山崎遺跡の発掘調査は、平成6年4月1日から平成6年9月30日までの6か月にわたって実施した。以下、調査の経過について、その概要を月ごとに記述する。

- 4月 7日に調査エリアの現地踏査を行い、それをもとに調査計画を作成した。8日に現場事務所を開設し、13日から作業員を投入した。14日に遺跡の清掃をして、15・18日に試掘のためのグリッドを設定し、19日から試掘を始めた。
- 5月 前月に引き続き試掘を行い、10日に調査区の試掘を終了した。調査区南部は表土が薄く土量が少ないので、人力で表土除去を始め、16日には調査区南部の表土除去が終了した。遺構確認作業を始め、住居跡11軒と溝1条を確認し、17日から調査区南部の遺構調査を開始した。
- 6月 調査区南部の遺構調査を継続しながら、6日からは重機により調査区北側の表土除去を始め、8日から調査区北側表土除去終了区の遺構確認作業を始めた。重機による表土除去作業と並行して行っていた南部の遺構調査が10日に終了し、作業員は、全員表土除去の土運搬の仕事に入った。16日に土運搬路及びその周辺を除き表土除去が終了し、22日に土運搬路部の表土除去が終了した。表土除去と並行して行っていた遺構確認作業を24日まで続け、24軒の住居跡と溝1条を確認した。全体で住居跡35軒、溝2条、土坑4基が確認され、出土遺物等から古墳時代の集落跡であることが分かり、27日から

調査区中央から北側の遺構調査を開始した。

- 7 月 前月に引き続き遺構調査を継続し、第27, 33, 35号住居跡で竈を確認した。
- 8 月 調査区中央から北側の遺構の調査を継続し、竈を残して、28日に遺構調査を終了した。29日からは遺跡南側土捨場付近の第2号住居跡の拡張部と第27, 33, 35号住居跡の竈調査を開始した。
- 9 月 竈及び第2号住居跡の調査が6日に終了し、7日に遺跡と遺跡周辺の航空写真撮影をした。8日から補足調査に入り、13日には概ね調査を終了し、17日に現地説明会を実施して一般に遺跡を公開した。27日に遺跡の全測図作成と安全対策が終了し、30日に全調査を終了した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

山崎遺跡は、茨城県ひたちなか市部田野字山崎3321番4ほかに所在している。

ひたちなか市は平成6年11月1日に旧勝田市と旧那珂湊市が合併して誕生した。当遺跡は、旧那珂湊市中心市街地から北西に約5kmのところ^に位置している。旧那珂湊市は、県の東側約160kmにおよぶ太平洋に面する海岸線のほぼ中央に位置しており、古くから気候、産業、交通などの面で、この海の影響を大きく受けてきた地域である。面積は25.64km²で、北は東海村、西は旧勝田市と隣接し、南は、茨城県のほぼ中央を蛇行しながら東流する那珂川に面し、大洗町と隣接している。

旧中心市街地は市域の南東端部にあり、14世紀以降漁港として発展し、現在は多くの水産関連施設を有している。那珂川・中丸川河口沿いは、水田地帯が広がり、台地部は畑、山林、住宅群が散在している。近年は、工業団地や国営ひたち海浜公園といったレクリエーション施設も建設され、常陸那珂港建設工事や区画整理事業等も進められている。

地形的に見ると、海岸線から西には那珂台地^が広がり、台地下は那珂川、中丸川流域の稲作地^が広がる沖積低地(標高5m)が展開している。中丸川の支流に本郷川^があり、旧勝田市北東部から向野、本郷の狭小な支谷を縫うように南下し、右岸には三反田台地(標高18~20m)が広がっている。

那珂台地は、海進による広い海域の形成とその後の海退によって離水した海面を主体とする台地である。那珂台地の北部と南部は台地主軸部より低く、那珂川低地に沿う南部では標高15~32mで、東に行くにしたがい標高が低くなっている。土地分類基本調査・那珂湊(国土調査)では当遺跡が所在する地域を南部の微高地部としている。地層は分級のよい砂層の上に1~2mの厚さの関東ロームが覆っている。

山崎遺跡は、国道245号線が南北に、県道中根・平磯・磯崎線が東西に走っており、その交叉するやや西側の本郷川左岸の那珂台地南縁部(標高29~31m)に位置している。当遺跡の面積は10,380m²で、調査前の現況は畑地であったが、遺跡の所在する地域を常陸那珂有料道路が通る予定であり、周辺は、今後交通網もさらに整備され、開発等で大きく変貌を遂げるものと思われる。

参考文献

茨城県教育財団 「一般県道水戸那珂湊線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 沢田遺跡」

「茨城県教育財団文化財調査報告第95集」 1995年3月

茨城県 「土地分類基本調査 那珂湊」 1991年3月

那珂湊市鷹ノ巣遺跡発掘調査会 「那珂湊市鷹ノ巣遺跡」 1994年3月

第2節 歴史的環境

山崎遺跡周辺の台地から那珂川河口方面には各時代の遺跡が多数散在しており、時代は旧石器時代から中世まで確認されている。

旧石器時代の遺物は西原遺跡<15>、向野遺跡、後野遺跡、君ヶ台遺跡<35>、道理山遺跡<64>から出土している。

縄文時代草創期・早期の遺跡は少なく、向野遺跡^{へたのむら}、部田野猪遺跡<18>などが知られているが、前期になると遺跡数は増加し、道理山遺跡<64>、小川遺跡<30>などに貝塚が形成される。中・後期は上ノ内遺跡<11>、宮前遺跡<10>、大田房遺跡<68>、君ヶ台遺跡<35>があり、晩期では、柳沢遺跡<70>などがあげられる。

弥生・古墳時代の遺跡については次のとおりである。

弥生時代の遺跡は、縄文時代遺跡の占地向向にはほぼ一致し、那珂川河口北側と那珂川と中九川の沖積地（標高3～5m）に面した台地の縁辺部に散在する。古い時期の遺物は、部田野猪遺跡<18>、八幡ノ上遺跡<32>などから出土しているが、遺跡数は非常に少ない。

中期の遺跡は、旧那珂湊市域では、柳沢遺跡<70>、道理山遺跡<64>などで調査されたことがある。いずれも発掘を伴う重要な遺跡であり、中期の墓制研究上における好資料として注目されている⁽⁸⁾。この時期の集落跡はまだ確認されていない。旧勝田市域では、中九川水系の栗師台遺跡、長堀遺跡、東石川新堀遺跡、下高埴遺跡など小規模な遺跡がある。本郷川水系では、指洗遺跡⁽⁹⁾<47>、馬渡本郷台遺跡が確認されている⁽⁷⁾。

後期になると遺跡数が著しく増加し、旧那珂湊市域では、那珂川下流左岸の那珂台地上に、富士の上遺跡<33>、八幡の上遺跡<32>、北山の上遺跡など大規模な集落が形成されるようになる。富士の上遺跡<33>では、主として昭和24年と26年に、那珂湊の鎮守権原神社境内内の集落跡の一部が調査されており、これまでに弥生時代後期の住居跡3軒、古墳時代の住居跡5軒が確認されている。八幡の上遺跡<32>からは、弥生時代後期の遺構・遺物のほか多時代にわたる遺構・遺物が確認されている⁽⁸⁾。北山の上遺跡の南に隣接する山の上遺跡出土の弥生土器は、昭和14年に山内清男氏によって十王台式土器として提唱されている。旧勝田市域の東中根大和田遺跡<42>は、東中根台地に形成された中期から後期初頭にかけての集落遺跡であり、那珂川流域における弥生時代後期初頭の東中根式土器の標式遺跡として有名である。住居跡からは多量の炭化米が確認されており、この時期の稲作農耕の拡大を裏付けている。

後期後半になると那珂川左岸の台地に、天神山遺跡、堀口遺跡などの大規模な集落が出現する。これらの遺跡の台地下は、水田農耕のために利用したと考えられる沖積低地が展開することから、谷津田の稲作から那珂川流域の沖積地へ、肥沃な土地を求めて進出したことを示している。

古墳時代の遺跡は中九川兩岸の台地に多く確認されている。中九川左岸では、東中根清水遺跡<41>、東中根大和田遺跡<42>、笠谷古墳群<49>があり、中九川右岸の三反田台地上には三反田観塚遺跡⁽¹⁰⁾<50>、三反田遺跡<54>、上高井遺跡<55>、原山遺跡<56>、下高井遺跡<57>、前方遺跡<60>がある。三反田遺跡<54>の竪穴住居跡からは、住居跡覆土および床面から、土師器と混在して南関東最終末の弥生土器が出土し、弥生文化の終末から五領文化への移行に関して問題を提示している⁽¹⁰⁾。本郷川水系では、本郷川と中九川が交わる沖積地に面した本郷川左岸の台地縁辺部に鷹ノ巣遺跡<16>があり、五領式土器が主体となる住居跡から、在来の土器に混じて東海系の外来土器が出土している。土器の交流関係を考える上での新知見となりうる遺跡といえる⁽¹¹⁾。当遺跡西側に隣接する部田野山崎遺跡I<20>では、昭和63年に山崎地区工業開発に係る発掘調査が行われ、縄文・弥生時代の土坑と古墳時代の竪穴式住居跡が確認されている⁽¹²⁾。古墳時代の住居跡は32軒報告されており、住居跡から十王台式土器と五領式土器が出土するなど、規模、土器の出土状況等、当遺跡と性格上多くの共通性をもっている。

本郷川右岸の東中根の台地上に後期の前方後円墳の虎塚古墳<46>があり、石室内部には彩色壁画が描かれている。この地方の7世紀前半の盟主的古墳と考えられる。虎塚古墳の北側の南東に面する台地の崖面には、十五郎穴横穴<48>があり、群集墓が、8世紀後半から9世紀以降まで営まれていた⁽¹³⁾と考えられている。

*文中の遺跡名に付した〈 〉内の番号は、表1及び第1図中の番号に対応する。

注

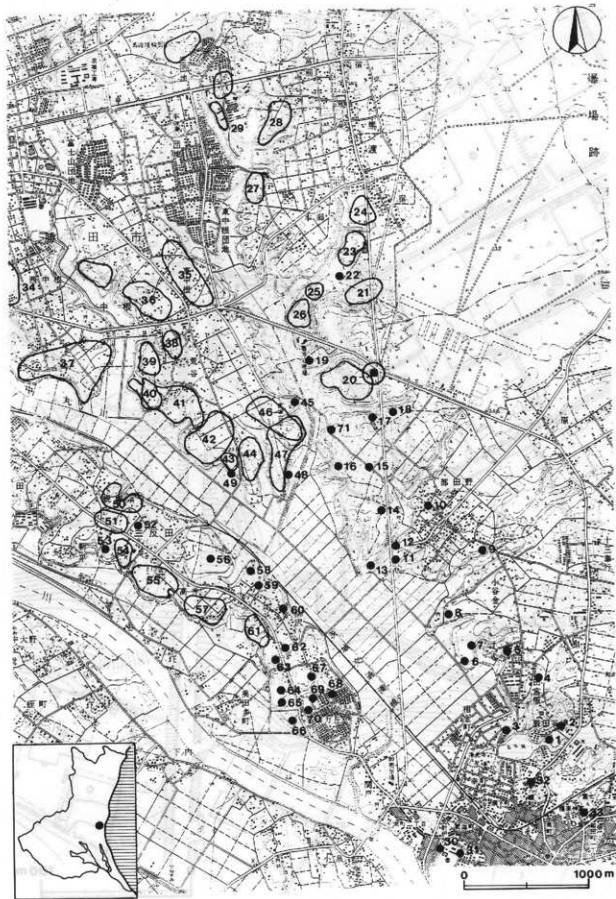
- (1) 勝田市文化スポーツ振興公社 「向後遺跡群」 1989年3月
- (2) 勝田市教育委員会 「後野遺跡」 1976年12月
- (3) 勝田市教育委員会 君ヶ台遺跡調査団編 「君ヶ台遺跡調査報告書」 1980年3月
- (4) 那珂湊市教育委員会 「那珂湊市遺跡分布調査報告書」 1988年10月
- (5) 茨城県 「茨城県史料 考古資料編 弥生時代」 1991年3月
- (6) 勝田市教育委員会 「指洗遺跡群発掘調査報告書」 1990年3月
- (7) 勝田市史編纂委員会 「勝田市史」 1981年9月
- (8) 那珂湊市教育委員会 「八幡遺跡試掘調査報告書」 1989年1月
- (9) 勝田市教育委員会 「三反田規塚発掘調査報告書」 1983年3月
- (10) 茨城県勝田市教育委員会 「三反田遺跡群調査報告書」 1978年3月
- (11) 那珂湊市鷹ノ巣遺跡発掘調査会 「那珂湊市鷹ノ巣遺跡」 1994年3月
- (12) 那珂湊市山崎遺跡群発掘調査会 「那珂湊市那田野山崎遺跡」 1990年3月
- (13) 茨城県 「茨城県史料 考古資料編 古墳時代」 1974年3月

参考文献

- 茨城県 「茨城県資料 考古資料編 先土器・縄文時代」 1979年3月
茨城県教育委員会 「茨城県遺跡地図」 1990年3月

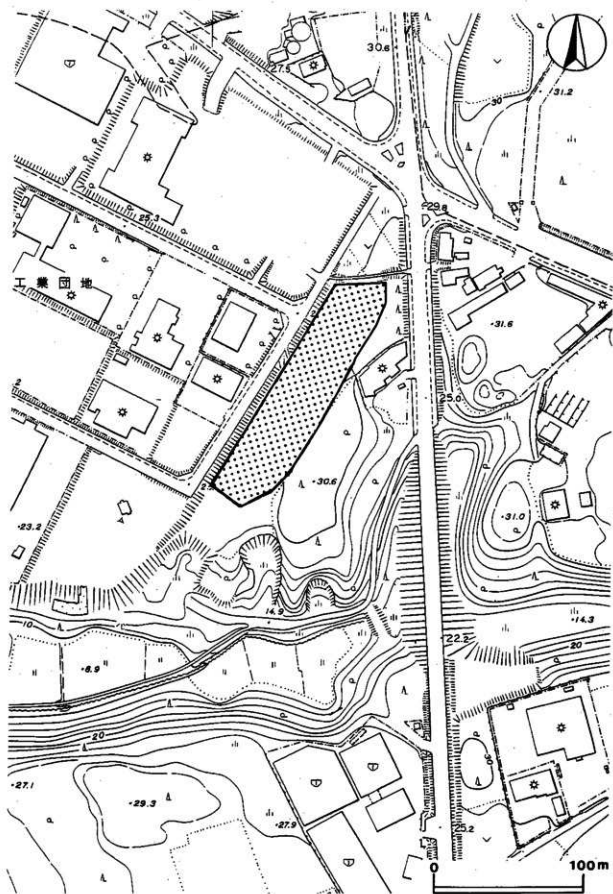
表1 山崎遺跡周辺遺跡一覧表

図中 番号	遺跡名	県遺跡 番号	遺跡の時代				図中 番号	遺跡名	県遺跡 番号	遺跡の時代				
			旧	縄	弥	古				奈 ・ 平	中 世	旧	縄	弥
1	鍛冶屋窪遺跡	449		○	○	○	37	西中根遺跡	489		○			
2	神敷台遺跡	448			○	○	38	野沢前遺跡	487			○		
3	館山横穴	468				○	39	東中根堂山遺跡	2693			○		
4	田宮原遺跡Ⅱ	4169		○	○		40	中根城跡	4186					○
5	田宮原遺跡Ⅰ	450		○	○		41	東中根清水遺跡	485			○	○	○
6	新堤横穴群	469				○	42	東中根大和田遺跡	3668		○	○	○	○
7	新堤遺跡	4170		○	○		43	笠谷遺跡	484		○	○		
8	小谷金遺跡	451		○	○	○	44	館出遺跡	3202		○	○	○	○
9	部田野古墳群	470				○	45	下原遺跡	4191		○			
10	宮前貝塚	3659		○			46	虎塚古墳群	498				○	
11	上ノ内貝塚	452		○			47	指洪遺跡	3201		○	○	○	○
12	部田野横穴	471				○	48	十五郎穴横穴群	497					○
13	尼ヶ林遺跡	4166		○	○	○	49	笠谷古墳群	499				○	
14	宮後遺跡	3660		○	○	○	50	三反田蜆塚遺跡	475		○	○	○	
15	西原遺跡	4165	○				51	蜆塚西貝塚	4196		○			
16	鷹ノ巣遺跡	453				○	52	天王前遺跡	4192				○	○
17	部田野猪遺跡Ⅲ	4176		○	○		53	三反田古墳群	493				○	
18	部田野猪遺跡Ⅰ・Ⅱ	455		○	○		54	三反田遺跡	2697		○	○		
19	山崎遺跡	456		○			55	上高井遺跡	4193				○	○
20	部田野山崎遺跡Ⅰ	4173		○	○	○	56	原山遺跡	3661		○	○	○	
21	西並木下遺跡	4242		○	○	○	57	下高井遺跡	474		○	○	○	
22	馬渡古墳群	503				○	58	宮前古墳群	3662				○	
23	前原C遺跡	4241				○	59	坂ノ上遺跡	3665			○	○	
24	西下宿南遺跡	4239				○	60	前方遺跡	3664			○	○	
25	前原B遺跡	4240			○	○	61	鍛冶屋窪遺跡	3670				○	○
26	前原A遺跡	4235		○	○		62	御所ノ内遺跡Ⅰ	3666			○	○	
27	北之内遺跡	4243			○		63	御所ノ内遺跡Ⅱ	4168			○	○	
28	馬渡中宿西遺跡	4244			○	○	64	道理山遺跡	4178		○	○	○	○
29	後谷津遺跡	4237				○	65	道理山貝塚	462		○	○		
30	小川貝塚	459		○			66	道理山古墳群	473				○	
31	北山ノ上遺跡	458		○	○	○	67	寺脇遺跡	4167		○	○	○	
32	八幡ノ上遺跡	446		○	○	○	68	大田房遺跡	3663		○	○	○	
33	富士の上遺跡Ⅰ	442		○	○	○	69	寺前古墳	472				○	
34	中根中区古墳群	4187				○	70	柳沢十二所遺跡	461		○	○	○	
35	君ヶ台遺跡	486		○	○	○	71	茨洪遺跡	454		○	○		
36	石光遺跡	4181		○	○	○	◎	山崎遺跡(当遺跡)				○	○	○

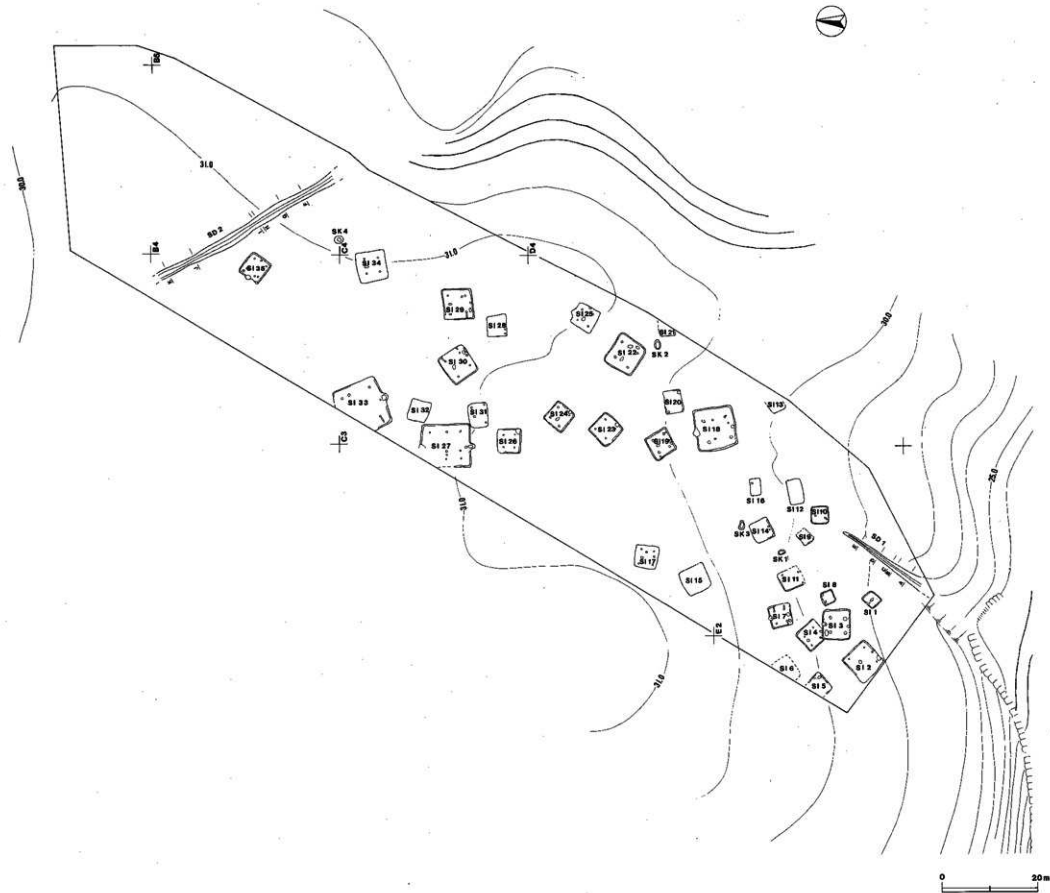


第2図 周辺遺跡分布図

国史館編纂部編纂 国史館



第3図 山崎遺跡調査区割図



第4圖 山崎遺跡遺構配置圖

第3章 遺跡

第1節 遺跡の概要

山崎遺跡は、ひたちなか（旧那珂湊）市部田野町の、中丸川の支流である本郷川左岸の那珂台地南縁部（標高29～31m）に所在する。調査面積は10,380㎡で、古墳時代前期から古墳時代後期の集落跡である。

今回の調査によって確認された遺構は、弥生時代の堅穴住居跡1軒、古墳時代の堅穴住居跡が、前期28軒、後期6軒の計34軒、土坑4基、溝2条である。

遺物は、遺物収納箱（60×40×20cm）に33箱出土している。縄文時代の遺物は、縄文式土器深鉢片、块状耳飾り、石鎌、石斧、凹石が出土している。弥生時代の遺物は、弥生式土器（壺）が出土し、古墳時代の遺物は、土師器の坏・高坏・器台・埴・甕・壺・埴、須恵器（高坏）、土玉、紡錘車、勾玉、支脚、石製模造品、切子玉、砥石、凹石、白石、赧石、磨石、石皿、鎌、刀子が出土している。

第2節 基本層序

山崎遺跡の中央部（D2h区）にテストピットを設け、深さ2mまで掘り下げ、土層の堆積状況を観察した。テストピットは9層に分かれ、1層は耕作土層、2層は漸位層、3～5層はソフトローム層、6層はハードローム層、7層は鹿沼バミス層、8・9層はハードローム層である。

1層 灰褐色 ローム粒子、耕作土を含み、白色火山灰粒子が少量混じっている。粘性は弱く、

締まりは強い。厚さは10～15cmである。

2層 明褐色 炭化粒子を微量、ローム粒子を多量、微細軽石粒子を少量含む。粘性はややあり、指で強く押してへこむ程度の締まりがある。厚さは15～20cmである。

3層 明褐色 炭化粒子を微量、ローム粒子を多量、白色微細軽石粒子をごく微量含む。粘性

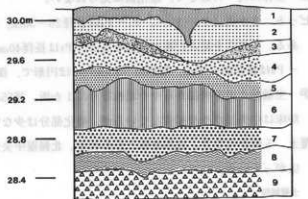
はややあり、2層と同じ程度の締まりがある。厚さは10～15cmである。

4層 明褐色 ローム粒子を多量、炭化粒子をごく微量含む。粘性はややあり、締まりは強い。厚さは20～25cmである。

5層 褐色 ローム粒子を多量、炭化粒子をごく微量含む。粘性はややあり、指で強く押してもへこまない程度の締まりがある。厚さは30～40cmである。

6層 明褐色 ローム粒子を多量に含む。粘性は強く、締まりは極めて強い。他の層に比べ、やや黒みを帯びている。厚さは20～25cmである。

7層 だいたい色 ローム粒子を多量、白色微細軽石粒子を多量含む。粘性は強く、締まりは極めて強い。厚さは20～30cmである。



第5図 基本土層図

8層 明褐色 粘性はやや強く、締まりは極めて強い。部分的に締まりが弱いところがあり、移植こてで突き刺すとぼろぼろに崩れる。厚さは20～25cmである。

9層 明褐色 粘性はやや強く、締まりは極めて強い。厚さは20～25cmである。

第3節 遺構と遺物

当遺跡では、35軒の竪穴住居跡（弥生時代後期1軒，古墳時代前期28軒，古墳時代後期6軒）を確認した。弥生時代の住居跡は遺跡の中央よりやや西側に位置し，古墳時代の住居跡は遺跡中央から南西側に集中している。これらの住居跡は，重複し合っているものはほとんどなく，遺構の遺存状態は比較的良好である。

以下，確認した住居跡の特徴や主な出土遺物について記載する。

1 弥生時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

第17号住居跡（第6図）

位置 調査区南西部，D2gs区。

規模と平面形 長軸4.90m，短軸4.85mの隅丸方形で，壁はやや外側に膨らんでいる。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は20～35cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体に均一の硬さで，硬化面は見られない。

ピット 8か所（P₁～P₈）。P₁～P₄は長径26～36cm，短径20～28cmの楕円形で，深さ68～70cmの主柱穴である。主柱穴を結んだ線は方形となる。P₅は長径40cm，短径30cmで，深さ45cmの出入り口施設である。P₆～P₈は長径28～50cm，短径24～36cmのほぼ円形で，深さは25～30cmである。性格は不明である。

炉 主軸線上の中央部からやや北西寄りに1か所。径55cm程の円形で，床面を20cm掘り込んだ地床炉である。炉床は中央部がやや赤変しているが，硬化部分は少ない。

覆土 5層からなり，自然堆積と思われる。北側壁中央から住居外に向けて，黒色土が約1mほど半円形状に広がっている。

土層解説

1 黒色 焼土粒子極少量，ローム粒子少量

2 黒褐色 ローム粒子少量，小石少量

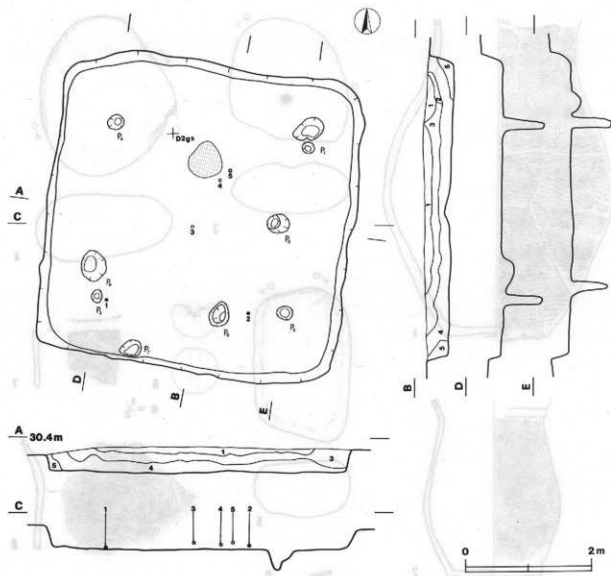
3 黒色 ローム粒子極少量

4 黒褐色 ローム大ブロック中量，中ブロック少量，小ブロック少量，粒子中量

5 黒褐色 炭化粒子少量，ローム大ブロック少量

遺物 1，2の弥生式土器の広口壺は南西コーナー部付近と南東部中央の床面から，ほぼ完形で出土している。北西部の炉の周辺からは石が出土している。その他，覆土上層から流れ込みと思われる土器器片が出土している。

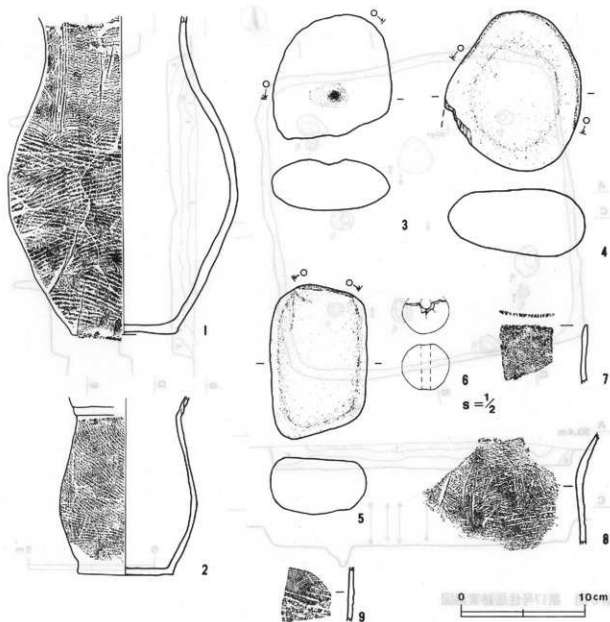
所見 床面からはほぼ完形の十王台式土器（広口壺）が2点出土し，他の遺物が覆土中からの出土であることから，本跡は弥生時代後期の住居跡と思われる。



第6図 第17号住居跡実測図

第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第7図 1	広口壺	B(25.5)	上げ底。胴部は底部から内彎して立ち上がり、頸部から口縁部にかけては外反する。胴部中に最大径をもつ。頸部は、唇周数5本で、スリット手法により縦区画され、波状文が充填されている。頸部と胴部は、唇周数5本で、横走波状文により区画されている。胴部には、厚体が附加条2條（附加1条）の縄文が施され、縄文は羽状構成をとる。底部布目紋。	砂粒・石英・スコリア・雲母 にふい殻色 普通	P99 P.L15 80% 体部外面黒付着 二次火熱痕 南西部体面
	弥生式土器	D 8.2			
2	広口壺	B(14.4)	頸部一口縁部欠損。平底。胴部は底部から内彎して立ち上がり、頸部から口縁部にかけては外反する。胴部中心位よりやや下に最大径をもつ。頸部には隆起線が2本貼られている。胴部には縄文が施されている。厚体は、附加条2條（附加1条）である。	砂粒・石英・雲母 スコリア 灰褐色 普通	P100 P.L15 70% 体部外面黒付着 二次火熱痕 南部置土下層
	弥生式土器	C 7.6			



第7図 第17号住居跡出土遺物実測・拓影図

大塚町第17号住居跡出土遺物実測・拓影図

図版番号	器種	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)				
第7図3	凹石	10.1	9.4	4.2	618.1	黑色片岩	覆土下層	Q22	
4	嵌石	12.8	10.9	5.5	886.0	砂岩	覆土下層	Q73	P.L.32
5	嵌石	12.3	7.7	4.6	894.3	砂岩	覆土下層	Q74	P.L.31

図版番号	器種	計測値					出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第7図6	土玉	3.8	3.8	—	0.8	28.8	覆土中	DP3	P.L.32

2 古墳時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡 (第8図)

位置 調査区南端部, E2i₂区。

規模と平面形 長軸3.37m, 短軸2.29mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-45°-W

壁 壁高は10-24cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦である。北から東側にかけて硬化面が見られる。ロームに黒色土が混じっており, 全面貼り床である。

ピット 1か所 (P₁)。長径20cm, 短径15cmの楕円形で, 深さ12cmの出入り口施設と思われる。

炉 主軸線上の中央部からやや北寄りと南寄りの2か所で確認されている。炉₁の平面形は, 長径114cm, 短径40cmの長楕円形で, 床面を8cm掘り込んだ地床炉である。炉床は全体が赤変しており, 中央部が特に硬化している。

炉₂の平面形は, 長径34cm, 短径30cmの楕円形で, 全体に赤変しているが, 硬化面はない。

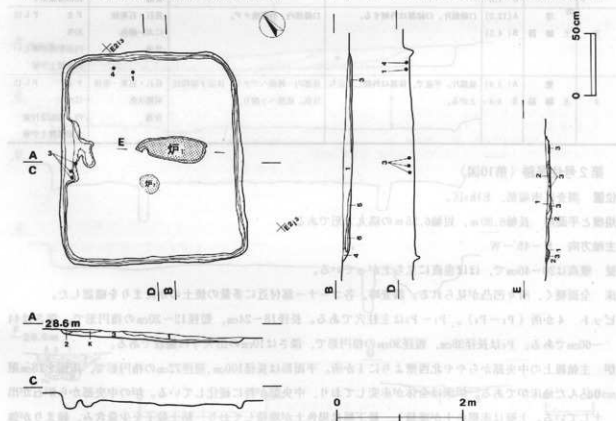
炉₁土層解説

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土小ブロック少量, 炭化粒子極少量, ローム粒子極少量 | 2 暗赤褐色 焼土中ブロック少量, 小ブロック中量, 炭化粒子極少量 |
| 少量 | 3 赤褐色 焼土粒子少量 |

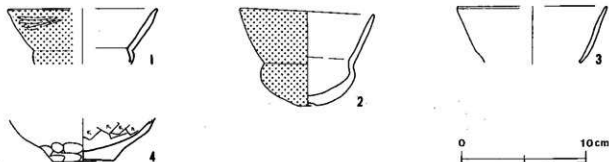
覆土 上層に黒褐色土が厚く堆積しており, 下層に褐色土が堆積している。全体に締まりが強い。自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量, 白色粒子少量 | 4 褐色 ローム粒子極少量, 白色粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量, KF微量 | 5 暗褐色 ローム粒子極少量, 炭化物極少量, 白色粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物極少量, 白色粒子少量 | 6 褐色 ローム中ブロック少量, 小ブロック少量, 粒子中量 |



第8図 第1号住居跡実測図



第9図 第1号住居跡出土遺物実測図

遺物 北西部壁付近中層から土師器片が6点とまって出土している。1の土師器の甕の底部は北東壁付近の覆土中層から出土し、3の土師器の埴の口縁部は北西部壁付近の覆土中から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から、古墳時代前期の住居跡である。

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9図 1	埴 土師器	A[12.0] B(4.5)	口縁部片。口縁部と体部の境は断面形が「く」の字状で、口縁部は外傾する。	口縁部内面横ナデ。外面横位ヘラ磨き。外面赤彩。	長石・石英・雲母 ぶい橙色 普通	P 3 5% 器変欠れ 北東部覆土中層
2	埴 土師器	A 10.8 B 7.9 C 1.5	丸底。底部中央に窪み。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。底部ヘラ磨り。	長石・雲母 橙色 普通	P 1 P L15 60% 北西部覆土中
3	埴 土師器	A[12.0] B(4.5)	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 ぶい橙色 普通	P 2 P L15 30% 内面摩滅が著しい 西部覆土下層
4	甕 土師器	A(3.4) B 4.8	底部片。平底で、体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ヘラナデ。体部下端指原圧痕。底部ヘラ磨り。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	P 4 P L15 15% 内・外面部付着 北東部覆土中層

第2号住居跡(第10図)

位置 調査区南端部、E1h9区。

規模と平面形 長軸6.80m、短軸6.55mの隅丸方形である。

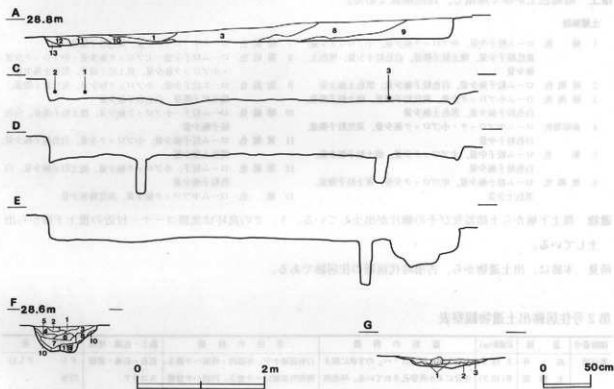
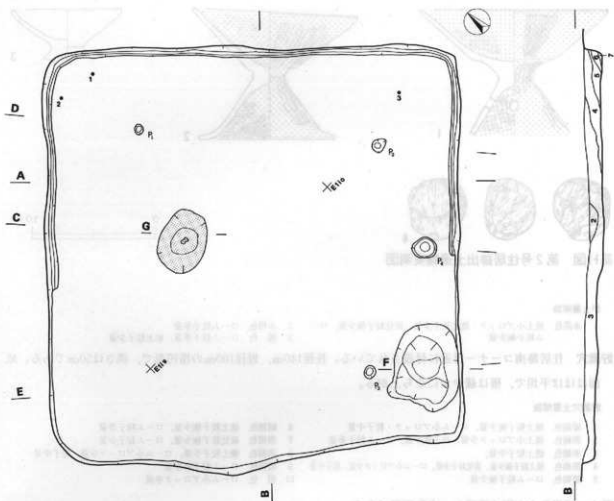
主軸方向 N-45°-W

壁 壁高は20~40cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

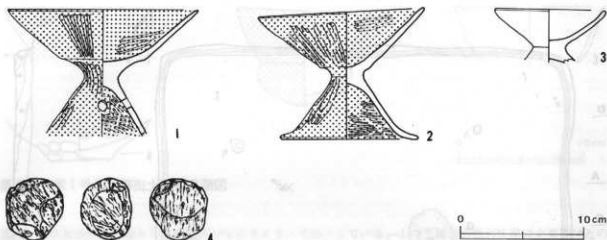
床 全面硬く、所々凹凸が見られる。調査時、各コーナー部付近に多量の焼土のかたまりを確認した。

ピット 4か所(P₁~P₄)。P₁~P₃は主柱穴である。長径18~24cm、短径12~20cmの楕円形で、深さは44~60cmである。P₄は長径38cm、短径30cmの楕円形で、深さは10cmの出入り口施設である。

炉 主軸線上の中央部からやや北西壁よりに1か所。平面形は長径100cm、短径72cmの楕円形で、床面を18cm掘り込んだ地床炉である。炉床は全体が赤変しており、中央部が特に硬化している。炉の中央部から灰石が出土している。上層は赤褐色土が堆積し、最下層は褐色土が堆積しており、粘土粒子を少量含み、締まりが強い。



第10图 第2号住居跡実测图



第11図 第2号住居跡出土遺物実測図

炉土層解説

- 1 赤黒色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子少量、ローム粒子極少量
 2 赤褐色 ローム粒子多量
 3 褐色 ローム粒子多量、粘土粒子少量

貯蔵穴 住居跡南コーナー付近に付設されている。長径140cm、短径100cmの楕円形で、深さは50cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子極少量、ローム小ブロック・粒子中量
 2 黒褐色 焼土小ブロック少量、粒子極少量、ローム粒子少量
 3 赤褐色 焼土粒子中量
 4 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子少量、ローム小ブロック少量、粒子中量
 5 暗褐色 ローム粒子極少量
 6 暗褐色 焼土粒子極少量、ローム粒子多量
 7 黒褐色 炭化粒子極少量、ローム粒子少量
 8 黒褐色 焼土粒子少量、ローム小ブロック少量、粒子中量
 9 暗褐色 ローム粒子極少量
 10 褐色 ローム小ブロック中量

覆土 暗褐色土が厚く堆積し、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、中ブロック極少量、小ブロック少量、炭化粒子少量、焼土粒子微量、白色粒子少量、黒色土極少量
 2 暗褐色 ローム粒子極少量、白色粒子極少量、黒色土極少量
 3 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量、焼土粒子微量、白色粒子極少量、黒色土極少量
 4 極暗褐色 ローム中ブロック・小ブロック極少量、炭化粒子微量、白色粒子中量
 5 褐色 ローム粒子中量、大ブロック少量、焼土粒子極少量、白色粒子極少量
 6 黒褐色 ローム粒子極少量、中ブロック少量、焼土粒子微量、黒色土少量
 7 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
 8 黒褐色 ローム粒子少量・大ブロック極少量・中ブロック少量・小ブロック極少量、焼土粒子微量、黒色土極少量
 9 黒褐色 ローム粒子少量、小ブロック極少量、炭化粒子微量、焼土粒子微量、白色粒子極少量
 10 暗褐色 ローム粒子・小ブロック極少量、焼土粒子微量、白色粒子極少量
 11 黄褐色 ローム粒子極少量、小ブロック少量、白色粒子極少量、黒色土極少量
 12 黒褐色 ローム粒子、小ブロック極少量、焼土粒子極少量、白色粒子極少量
 13 褐色 ローム中ブロック極少量、炭化物極少量

遺物 覆土下層から土師器及びその細片が出土している。1, 2の高坏は北側コーナー付近の覆土下層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から、古墳時代前期の住居跡である。

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11図	高坏	A 15.2	胴部欠損。胴部は「ハ」の字状に開き	口唇部横ナデ。坏部内・外面へつ磨き	良石・石英・雲母	P5 P.L15
1	土師器	B(10.3) E(5.0)	中位に4か所穿孔されている。坏底部と坏部の境に接をもち、坏部は外傾して立ち上がる。	胴部外面縦段へつ磨き。内面ハケ目整形。内・外面赤彩。	赤色 普通	75% 内面黒点状刺繍痕 北部覆土下層

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11回 2	高 土 器 器	A 13.4	胴部はラッパ状に開く。耳底部と耳部の境に窪い線をもち、耳部は外傾して立ち上がる。	耳部内・外面へラ磨き。胴部外面縦位へラ磨き。内面ハケ目整形。内・外面赤彩。	長石・雲母 黄褐色 普通	P 6 P L 15 80% 内面窪点状刻摩痕 胴部内面区付着 北総覆土下層
		B 10.7				
		D 11.1				
		E 5.5				
3	器 土 器	A 8.9	胴部欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は内摩して立ち上がる。	器受部内・外面及び胴部横ナデ。	長石・雲母 にぶい藍色 普通	P 7 P L 15 45% 東総覆土下層
		B(5.0)				

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第11回4	甌石	4.9	4.6	4.0	13.0	鮮石	貯蔵穴	Q3

第3号住居跡(第12・13図)

位置 調査区南端部, E2g1区。第4号住居跡を切って北西コーナー部が重複している。

規模と平面形 長軸6.05m, 短軸5.98mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は30~50cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 竈、入り口施設付近を除き見られる。上幅6~20cm, 下幅2~6cm, 深さ6~10cmで、断面形は「U」字状である。

床 平坦で、やや硬く、遺構南側の出入り口周辺は、特に硬い。床面はロームに黒色土が混じっており、貼り床と思われる。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は主柱穴である。長径44~86cm, 短径44~82cmの円形で、深さは40~92cmである。P5は長径50cm, 短径40cmの楕円形で、深さ36cmの出入り口施設である。

竈 北壁中央部に、砂混じりの粘土で構築している。掘り方は、幅70cm, 奥行き24cmで、半円形に掘り込んでいる。両袖が残存し、火床部は平坦である。煙道は約65°で、緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- | | |
|--|---|
| 1 黒褐色 炭化粒子極少量, ローム粒子少量, 砂粒多量 | 5 褐色 炭化粒子極少量, ローム粒子少量, 砂粒多量 |
| 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・粒子少量, ローム粒子極少量, 砂粒中量 | 6 灰褐色 焼土中ブロック極少量, 炭化物極少量, ローム粒子少量, 砂粒少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土小ブロック少量, 粒子中量, ローム粒子少量, 砂粒少量 | 7 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子極少量, ローム粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 焼土中ブロック少量, 小ブロック多量, 粒子少量, ローム粒子少量 | 8 暗赤褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子極少量, ローム粒子中量 |

貯蔵穴 北西コーナー付近に付設され、長径114cm, 短径70cmの楕円形で、深さは34cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

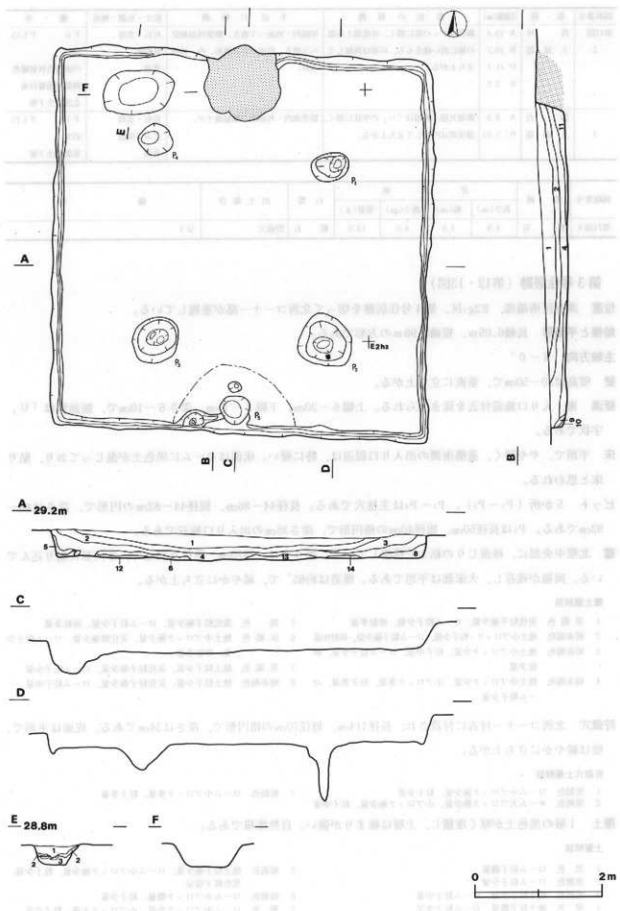
貯蔵穴土層解説

- | | |
|-----------------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム小ブロック極少量, 粒子少量 | 3 暗褐色 ローム小ブロック多量, 粒子多量 |
| 2 黒褐色 ローム大ブロック極少量, 小ブロック極少量, 粒子中量 | |

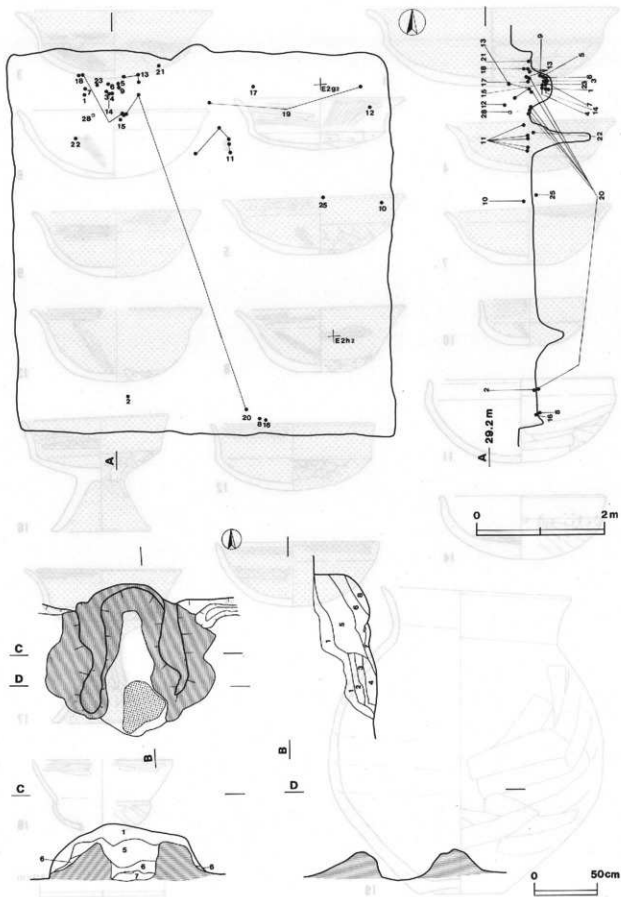
覆土 1層の黒色土が厚く堆積し、上層は締まりが強い。自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------|--|
| 1 黒色 ローム粒子微量 | 5 暗褐色 焼土粒子極少量, ローム小ブロック極少量, 粒子少量, 黒色粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 6 暗褐色 ローム小ブロック微量, 粒子少量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子中量 | 7 褐色 ローム中ブロック中量, 小ブロック少量, 粒子少量 |
| 4 黒色 焼土粒子微量, ローム粒子少量 | |

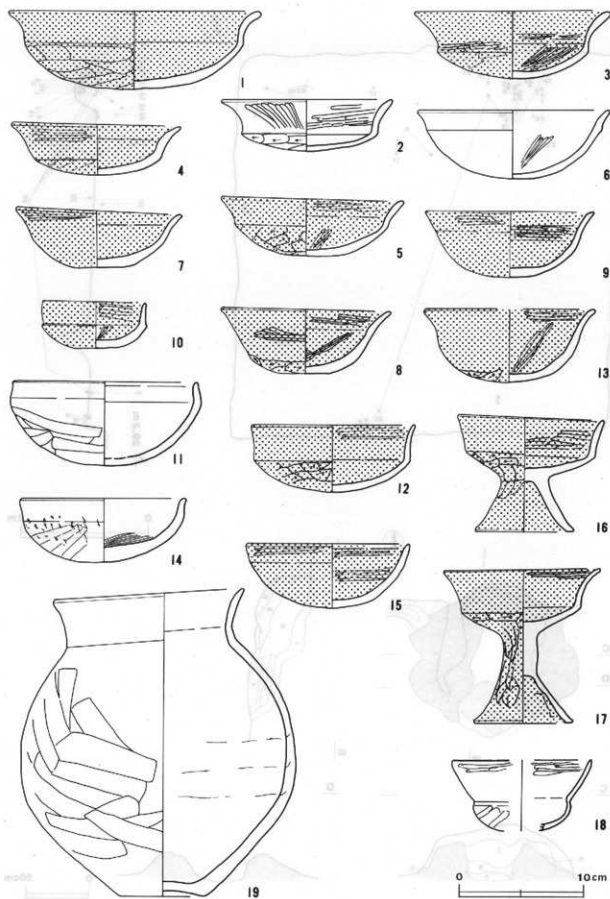


第12図 第3号住居跡実測図(1)



第13图 第3号住居跡出土遺物位置・竪実測図(2)

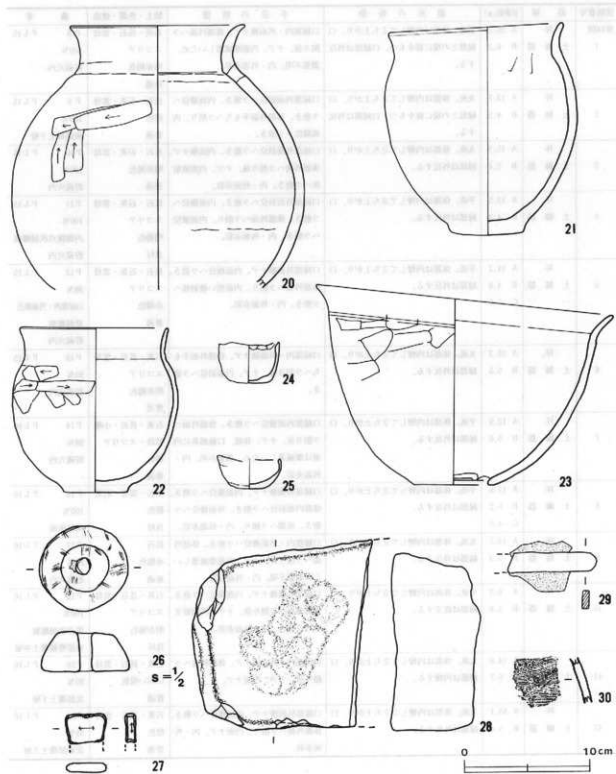
11 国史館東京分館出土資料データベース 図P1-第



第14图 第3号住居跡出土遺物実測図(1)

- | | | | |
|--------|---------------------------------|--------|--------------------------|
| 8 陶 色 | ローム小ブロック極少量, 粒子中量 | 12 褐色 | 炭化物少量, ローム大ブロック極少量, 粒子少量 |
| 9 極暗褐色 | 焼土粒子微量, ローム小ブロック微量, 粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム小ブロック極少量, 粒子少量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子少量 | 14 陶 色 | ローム小ブロック極少量, 粒子少量 |
| 11 黒褐色 | 焼土中ブロック・粒子極少量, ローム粒子極少量, 粘土粒子中量 | | |

遺物 北壁付近及び竈の周囲から、多量の土師器及びその破片が出土している。30の弥生式土器の広口壺は十王台式土器で、楕円数5本で波状文が施されている。また、両側の入り口付近からは、16の高坏の上に2の



第15図 第3号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

坏が重なった形で出土している。1, 3, 4, 5, 6の土師器の坏, 15の埴及び23の甗は貯蔵穴からほぼ完形で出土している。

所見 本跡は、北壁に竈をもつ古墳時代後期の住居跡である。

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第14例 1	土師器	A 20.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に棱をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り後、ナデ。内面摩滅著しいため、調整不明。内・外面赤彩。	石英・長石・雲母 スコリア 明赤褐色 普通	P 8 P L 15 100% 貯蔵穴内
		B 6.3				
2	土師器	A 13.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に棱をもつ。口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデへつ磨き。内面横位へつ磨き。体部外面手もちへつ削り。内面横位へつ磨き。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 9 P L 15 100% 南部覆土下層
		B 4.2				
3	土師器	A 15.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部外面横位へつ磨き。内面横ナデ。体部外面へつ削り後、ナデ。内面放射状へつ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 10 P L 15 100% 貯蔵穴内
		B 5.4				
4	土師器	A 13.5	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部外面横位へつ磨き。内面横位へつ磨き。体部外面へつ削り。内面横位へつ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 スコリア 明褐色 良好	P 11 P L 15 100% 内面斑点状刺摩痕 貯蔵穴内
		B 4.3				
5	土師器	A 14.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。内面横位へつ磨き。体部外面へつ削り。内面粗い放射状へつ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 スコリア 赤褐色 普通	P 12 P L 15 98% 口縁部内・外面斑点状刺摩痕 貯蔵穴内
		B 4.8				
		C 5.0				
6	土師器	A 15.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面手もちへつ削り後、ナデ。内面横位へつ磨き。	石英・長石・雲母 スコリア 明赤褐色 普通	P 13 P L 15 95% 貯蔵穴内
		B 5.5				
7	土師器	A 12.9	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部外面横位へつ磨き。体部外面へつ削り後、ナデ。体部、口縁部共に内面は摩滅著しいため、調整不明。内・外面赤彩。	石英・長石・小礫 雲母・スコリア 褐色 普通	P 14 P L 16 98% 貯蔵穴内
		B 5.0				
8	土師器	A 13.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。内面横位へつ磨き。体部内面横位へつ磨き。外面横位へつ磨き。底部へつ削り。内・外面赤彩。	石英・雲母・石英 褐色 良好	P 16 P L 16 100% 南部床面
		B 5.2				
		C 4.0				
9	土師器	A 13.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横位へつ磨き。体部外面へつ削り後、ナデ。内面摩滅著しいため調整不明。内・外面赤彩。	長石 赤褐色 普通	P 17 P L 16 85% 貯蔵穴内
		B 5.3				
10	土師器	A 8.3	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部外面横ナデ。内面横位へつ磨き。体部外面へつ削り後、ナデ。内面端文状へつ磨き。内・外面赤彩。	石英・長石・雲母 スコリア 明赤褐色 良好	P 18 P L 16 100% 斑点状刺摩痕 東部無積層土中層
		B 3.8				
11	土師器	A 14.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内横する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ削り後、ナデ。内面ナデ。	石英・長石・雲母 いり褐色 普通	P 19 P L 16 90% 北部覆土下層
		B 6.7				
12	土師器	A 13.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。内面横位へつ磨き。体部外面へつ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	石英・長石・雲母 褐色 普通	P 20 P L 16 55% 北東部覆土上層
		B 5.4				

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・産地	備考	
						P	L
第14図 13	土 師 器	A 13.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。内面横位へラ磨き。体部外面へラ磨り。内面斜位へラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P21	P L 16
		B 5.9				50% 北部覆土下層	
14	土 師 器	A 13.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨り。外面に削れ目。内面斜位へラ磨き。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P22	P L 16
		B 5.2				55% 内面直点状刺線痕 貯蔵穴内	
15	土 師 器	A 13.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はつまみ上げている。	口縁部内・外面横位へラ磨き。体部外面へラ磨り後、ナデ。内面へラ磨き。内・外面赤彩。	石英・長石・雲母 スコリア 褐色 普通	P15	P L 16
		B 5.2				100% 貯蔵穴内	
16	高 土 師 器	A 11.8	胴部は「ハ」の字状に開く。肩部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に使をもつ。口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。内面横位へラ磨き。肩部外面横位へラ磨り後、ナデ。肩部上位縦位へラ磨り。胴部外面縦位へラナデ。内面へラ磨り。胴部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 明赤褐色 良好	P23	P L 16
		B 9.4				95% 南部床面	
		D 7.9					
		E 4.1					
17	高 土 師 器	A 12.5	胴部はラッパ状に開く。肩部は外傾して立ち上がり、口縁部は大きく外反する。	口縁部外面横ナデ。内面横位へラ磨き。肩部外面へラ磨り後、ナデ。内面へラナデ。胴部外面縦位へラ磨り後、へラナデ。内面へラナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 スコリア 赤褐色 良好	P24	P L 16
		B 12.3				85% 肩部内面赤減	
		D 7.9					
		E 7.1					
18	土 師 器	A(11.2)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、胴部はくびれ、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面へラ磨き。体部外面へラ磨り後、ナデ。	長石・小礫 にぶい黄褐色 普通	P25	P L 16
		B(5.6)				20% 内面直点状刺線痕 北西部覆土中層	
19	土 師 器	A 15.2	上げ底。体部は内彎して立ち上がり、胴部はくびれ、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨り後、ナデ。底部に指摺圧痕。	長石・雲母・石英 褐色 普通	P26	P L 16
		B 24.6				95% 北部覆土上層	
		C 7.0					
第15図 20	土 師 器	A(13.4)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、胴部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨り後、ナデ。内面へラナデ。	石英・長石・雲母 スコリア・小礫 にぶい褐色 普通	P27	P L 16
		B(21.1)				40% 北部覆土下層と南部 覆土下層で接合	
21	土 師 器	A 13.6	平底。体部は内彎して立ち上がる。胴部はわずかにくびれ、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。胴部内面横位へラ磨り。体部外面ナデ。内面へラナデ。	長石・石英・雲母 スコリア 褐色 良好	P28	P L 17
		B 17.0				95% 北部覆土下層	
		C 5.8					
22	土 師 器	A 11.9	平底。体部は内彎して立ち上がる。胴部はわずかにくびれ、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨り後、ナデ。内面へラナデ。	長石・石英・雲母 褐色 良好	P29	P L 17
		B 13.2				95% 内面直点状刺線痕 北部覆土下層	
		C 5.1					
23	土 師 器	A 23.7	無底式。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へラ磨り後、ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P30	P L 17
		B 15.9				95% 貯蔵穴内	
24	手捏土器 土 師 器	A 6.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。口唇部は上方につまみ上げている。	内面ナデ。口縁部内面に指摺圧痕。	長石・石英・雲母 浅黄色 普通	P31	P L 17
		B 3.2				100% 覆土中	
25	手捏土器 土 師 器	A(5.0)	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	内・外面ナデ。	砂粒・雲母 明黄褐色 普通	P32	
		B 2.6				60% 東部床面	

図版番号	器種	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	重量(g)			
第15図26	紡 錘 車	4.6	4.7	0.8	66.0	石英片岩	覆土中	Q4 孔径 0.8cm P L 31
		(2.2)	3.3	0.8	10.5	砂 岩	覆土中	Q5
28	門 石	15.3	(14.5)	7.1	2,434.8	砂 岩	覆土上層	Q71

図表番号	器 種	計 測 値				材 質	出 土 地 点	備 考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第15図29	刀 子	(3.5)	(2.0)	0.3	5.1	鉄	覆土中	M1	P.L.33

第4号住居跡 (第16図)

位置 調査区南端部, E1f0区。南西コーナー部が第3号住居跡に切られ、重複している。

規模と平面形 長軸4.92m, 短軸4.75mの方形である。

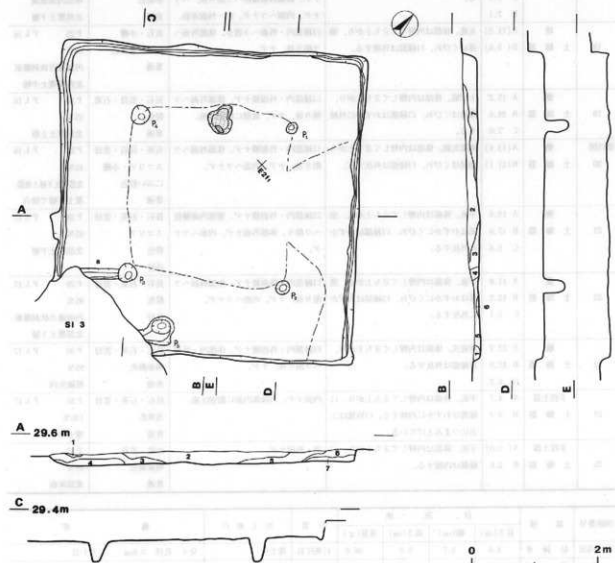
主軸方向 N-43°-W

壁 壁高は10-30cmで、北西壁が垂直に、南東壁が緩やかに立ち上がる。

壁溝 北西の壁下に一部見られる。規模は上幅16cm, 下幅6cm, 深さ6cmである。

間仕切り溝 南西壁南コーナー付近に1条(a)確認したが、壁際は第3号住居跡に切られている。長さ90cm, 上幅18cm, 下幅8cmで、断面形は「U」字状である。

床 床質はロームで平坦であり、支柱穴を結ぶ線は方形になり、その内側が硬く締まっている。



第16図 第4号住居跡実測図

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は主柱穴で、長径20~30cm、短径16~30cmの円形で、深さが32~40cmである。P₅は長径40cm、短径26cm、深さ50cmの楕円形で、出入口施設である。

炉 北西側のP₁とP₂の間に1か所。平面形は径48cmの円形で、床を6cm掘り込んだ地床炉である。炉の南東側から炉石が出土している。

覆土 中央部に黒褐色土が厚く堆積し、ロームブロックをやや多めに含んでいる。人為堆積である。

土層解説

- | | |
|---|---|
| 1 灰褐色 炭化粒子極少量、ローム小ブロック少量、白色粒子少量 | 5 褐色 焼土粒子極少量、ローム小ブロック少量、白色粒子少量、黒色土少量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子少量、ローム中ブロック・小ブロック中量、白色粒子少量 | 6 暗褐色 焼土粒子微量、ローム中ブロック極少量、小ブロック少量、白色粒子少量、黒色土少量 |
| 3 褐色 焼土粒子極少量、炭化粒子中量、ローム中・小ブロック中量、白色粒子中量、黒色土多量 | 7 褐色 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム中ブロック少量・小ブロック中量 |
| 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、白色粒子中量、黒色土中量 | |

遺物 出土遺物は少なく、北東壁付近中層から土師器片が4点出土しているだけである。

所見 本跡は、当遺跡の古墳時代前期の住居跡と規模や内部施設等が類似していることから、古墳時代前期の住居跡と思われる。

第5号住居跡 (第17図)

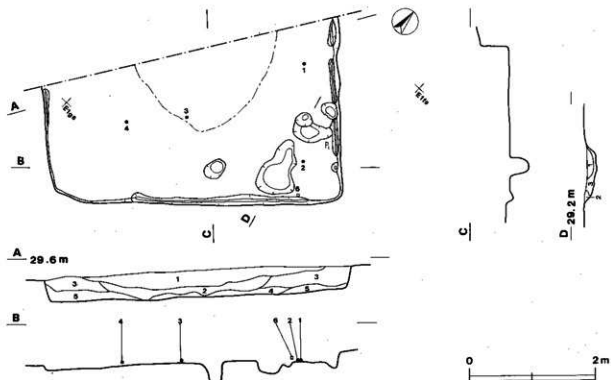
位置 調査区南西端部、Elf区。

規模と平面形 長軸4.70m、(短軸未確認)の方形状である。遺構の約2分の1が調査区外である。

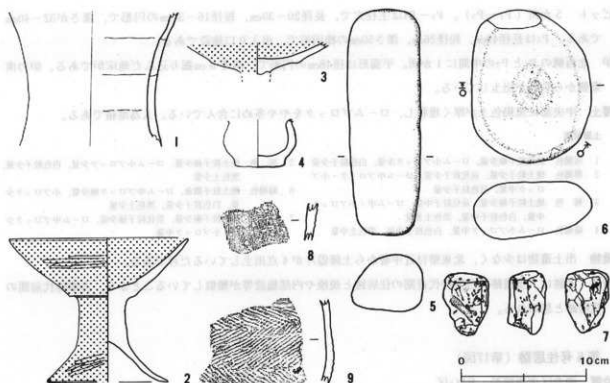
主軸方向 N-43°-E

壁 壁高は6~42cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北東部と南東部の壁下にコーナーの部分を除いて見られる。規模は、上幅16cm、下幅8cm、深さ6~10



第17図 第5号住居跡実測図



第18図 第5号住居跡出土遺物実測・拓影図

cmで、断面形は逆台形状である。

床 平坦である。中央部はロームで硬く、壁周辺はローム土に黒色土が多く混じり、軟らかい。南コーナー付近は擾乱のため確認できない。床面はロームに黒色土が混じり、貼り床と思われる。

ピット 1か所（P1）。長径26cm、短径24cmのはほぼ円形で、深さは34cmである。性格は不明である。

貯蔵穴 東コーナー付近に付設されている。平面形は長径80cm、短径36cmの不定形で、床面を34cm掘り込んでいる。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒色 ローム粒子極少量、白色粒子極少量 | 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子極少量、黒色土ブロック微量 |
| 2 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量、黒色土ブロック少量 | |

覆土 上層に極暗褐色土が、中層に黒色土が厚く堆積している。自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--|-----------------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子少量、一辺が8mm程の、黒色で方形の固い小ブロックを多量に含む。 | 3 極暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒色 ローム粒子極少量 | 4 褐色 ローム粒子多量 |
| | 5 明褐色 ローム小ブロック中量、粒子多量 |

遺物 土師器、その破片及び土製品が出土している。1の無文の弥生式土器（広口壺の頸部）は北東壁付近の床面から出土し、4の手捏土器は南部覆土下層から、3の高坏は中央部覆土下層から出土している。2の赤彩された高坏は東コーナー付近から出土している。他に、弥生式土器の破片が出土している。8の広口壺は十王台式土器で、帯歯数5本でスリット手法による縦区画が施され、波状文が横に充填されている。9は覆土中の出土で、二軒屋敷式土器の胴部片と思われる。胴部上位に帯歯文が8本横に施され、縄文は羽状構成をとる。E1d5表採と接合する。

所見 本跡は、出土遺物から、古墳時代前期の住居跡である。

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第18図 1	広口壺 弥生式土器	B(10.8)	頸部一口縁部。頸部から口縁部にかけて外反する。器形は弥生式土器の特徴をもつが、無文である。外面ヘラナダ。内面摩滅著しいため、調整不明。頸部中央に輪痕み痕。	長石・雲母 にふい黄褐色 普通	P35 10% 北部塚面

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第18図 2	高 坏 土 師 器	A 14.3 B 11.6 D 9.6 E 6.7	脚部は円柱状で、頸部は喇叭状に開く。坏底部は稜をもち、坏部は内彎して立ち上がり、上位で外傾する。	坏部内・外面横ナダ。坏底部外面ヘラナダ。内面ナダ。脚部摩滅著しいため調整不明。稜部横位ヘラナダ。坏部内外面赤形。脚部外面赤形。	長石・雲母 にふい黄褐色 普通	P33 70% 北部塚土下層
3	高 坏 土 師 器	B(1.6)	脚部欠損。坏底部に稜をもち、坏部は外傾する。	坏部外面ナダ。内面摩滅著しいため、調整不明。内・外面赤形。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P34 10% 80% 中央部塚土下層
4	手捏土器 土 師 器	B(3.9) C 3.9	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	外面ヘラナダ。内面ナダ。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P36 P L17 南部塚土下層

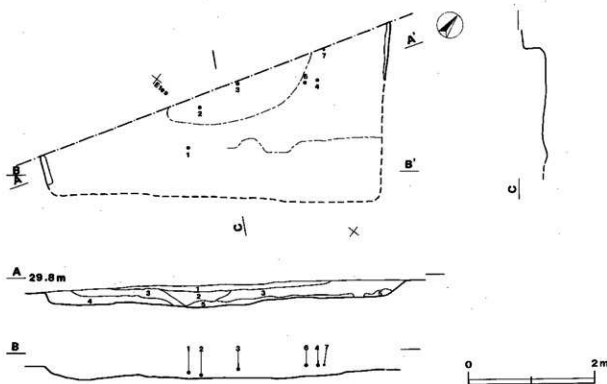
図版番号	器 種	計測値			石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)			
第18図5	磨 石	18.4	5.7	4.9	825.0	砂 岩 覆土中	Q8 P L31
6	門 石	12.5	9.6	4.6	766.4	砂 岩 覆土下層	Q66 礎石としても使用
7	軽 石	5.0	3.6	3.1	9.4	軽 石 覆土中	Q9

第6号住居跡(第19図)

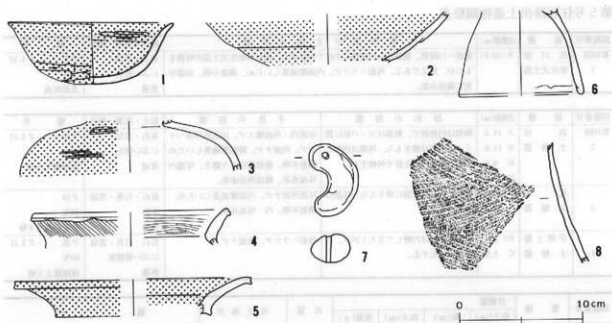
位置 調査区南西端部, Elds区。

規模と平面形 長軸5.45m(短軸未確認)で方形状と思われる。遺構の約2分の1が調査区外である。

長軸方向 N-52°-E



第19図 第6号住居跡実測図



第20図 第6号住居跡出土遺物実測・拓影図

壁 壁高は20cmで、緩やかに立ち上がる。

床 中央部はローム土に黒色土が多く混じり軟らかく、壁周辺は攪乱のため確認できない。

覆土 褐色土の上に暗褐色土が堆積している。自然堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 炭化粒子極少量、ローム粒子少量、一辺が8mm程の、
 2 黒色 焼土粒子極少量、ローム小ブロック・粒子少量、砂粒極少量
 3 暗褐色 焼土粒子極少量、ローム小ブロック少量、粒子少量
 4 褐色 ローム大ブロック、粒子中量、粘土粒子少量
 5 褐色 ローム粒子中量

遺物 覆土中層から弥生式土器片、土師器及びその破片が出土している。8は十瓦台式土器の広口壺の頸部で、縄文は羽状構成をとる。1の坏は南部の覆土下層からはほぼ完形で出土している。

所見 本跡は、出土遺物から、古墳時代前期の住居跡である。

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(㎝)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 1	土師器 坏	A 13.2	平底。体部は内壁して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部外面斜位へハ磨き。口縁部下 内面横位へハ磨き。体部外面へフナデ、 内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤色 良好	P 37 98% 由那覆土下層
		B 5.2				
2	高土師器 坏	B(4.1)	坏部片。坏部は外壁して立ち上がる。	坏部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英 浅黄褐色 普通	P 38 5% 中央部覆土下層
		B(4.2)	体部片。体部は内壁して立ち上がる。	体部外面へハ磨き。頸部内面及び体部 外面赤彩。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	P 39 5% 内面横位状刺雑灰 中央部覆土中層
4	土師器 壺	A(15.6)	口縁部片。口縁部は外反し、口唇部は わずかに外面に折り返す。	口縁部内・外面ハケ目整形。	長石・石英・スコ リア・雲母 ふい褐色 普通	P 40 5% 北那覆土中層
		B(2.3)				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 5	土 師 器	A(19.0) B(3.0)	口縁部片。口縁部は外反する。口唇部は下方につまみ出している。	口縁部内・外面黒ナデ。口唇部及び口唇部内・外面赤彩。	長石・雲母 明未褐色 普通	P41 P L17 5 % 覆土中
6	台 付 土 師 器	B(6.9) C(9.6)	舞台部片。底部近くで内彎し、下方にはほぼ垂直に下りる。脚部先端は内側に折り返す。	舞台部外面ヘラナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母 スロリア に白い黄褐色 普通	P42 P L17 5 % 内外面淡点状刺青痕 北部覆土中割

図版番号	器種	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第20図7	土 師 器	2.9	2.0	1.1	0.2	5.6	覆土中	D P 1 P L 32

第7号住居跡(第21図)

位置 調査区南部, E2d2区。

規模と平面形 長軸4.80m, 短軸4.75mの方形である。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は16~32cmで, 垂直に立ち上がる。

壁溝 東壁下から西壁下まで見られる。上幅16cm, 下幅6cm, 深さ6~10cmで, 断面形は「U」字状である。

間仕切り溝 東壁付近に2条(a, b), 西壁付近に1条(c)。長さ70~90cm, 上幅8~18cm, 下幅3~4cmで, 断面形は「U」字状である。

床 中央部が軟らかく, 平坦である。南側の出入り口周辺は, 硬化面が確認できた。調査時, 東側床面に焼土が多く確認でき, 特にP2付近は炭化材が多く確認できた。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は主柱穴である。長径28~40cm, 短径24~28cmの円形で, 深さは54~70cmである。P5は径80cmの不整形円で, 深さ35cmの入り口施設のピットである。

竈 北壁の中央に, 砂混じりの粘土で構築している。掘り方は, 幅90cm, 奥行き20cm, 平面三角状に掘り込んでいる。両袖が残存し, 火床部は平坦で, 中央に支脚が確認できた。煙道の立ち上がりは, 約60°で緩やかである。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土中ブロック少量・粒子少, 炭化粒少量, ローム粒子少
- 2 暗褐色 焼土粒子少, 炭化粒少量, ローム粒子少
- 3 赤褐色 焼土大ブロック少量・粒子多量, 炭化粒少量, ローム粒子少

貯蔵穴 南西コーナー付近に付設され, 長径68cm, 短径54cmの楕円形である。深さは36cmで, 底は皿状で, 壁はほぼ垂直に立ち上がる。

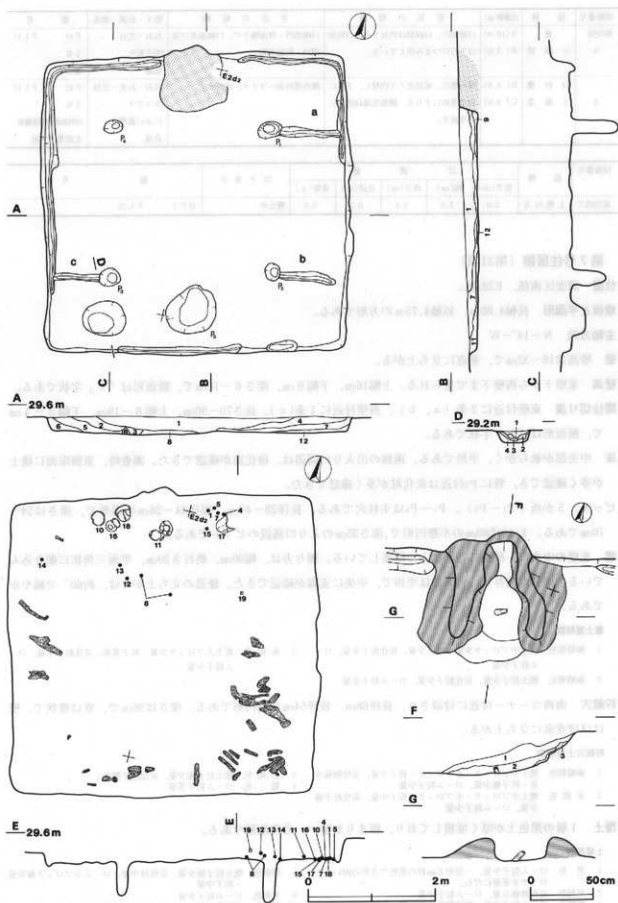
貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 焼土中ブロック・小ブロック・粒子少量, 炭化物極少量・粒子極少量, ローム粒子少
- 2 赤褐色 焼土中ブロック・小ブロック・粒子中量, 炭化粒子極少量, ローム粒子少
- 3 赤褐色 焼土粒極少量, 炭化粒子極量
- 4 褐色 ローム粒子多量

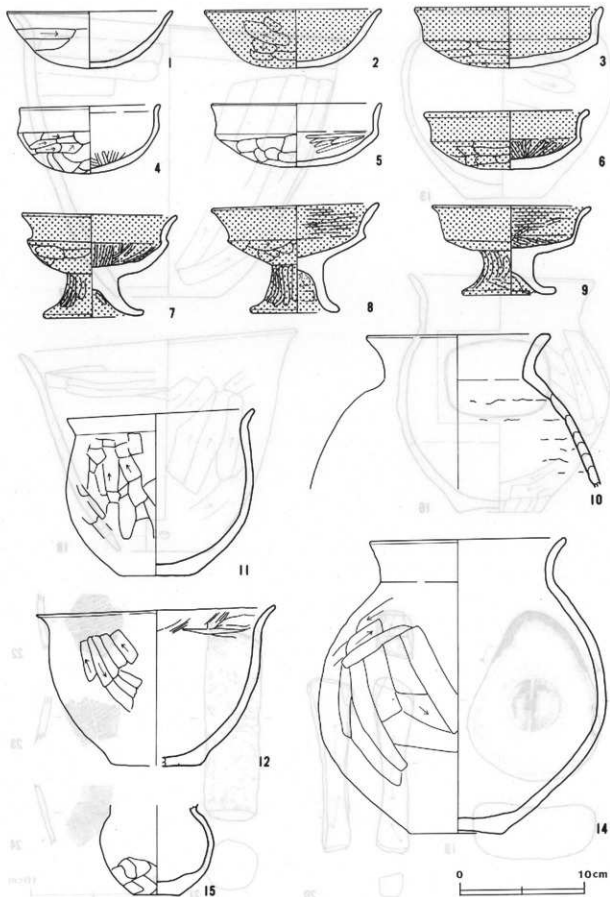
覆土 1層の黒色土が厚く堆積しており, 締まりが強い。自然堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少, 一辺が8mm程の黒色で方形の固い小ブロックを多量に含む
- 2 黒褐色 炭化物極少量, ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 粒状土極少量
- 4 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化材少量, ローム粒子中量
- 5 暗褐色 焼土粒子極少量, 炭化材中量, ローム小ブロック極少量・粒子中量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量
- 7 黒褐色 炭化材中量, ローム小ブロック極少量・粒子少量
- 8 褐色 ローム中ブロック・小ブロック中量
- 9 黒褐色 焼土小ブロック極少量, ローム粒子少量

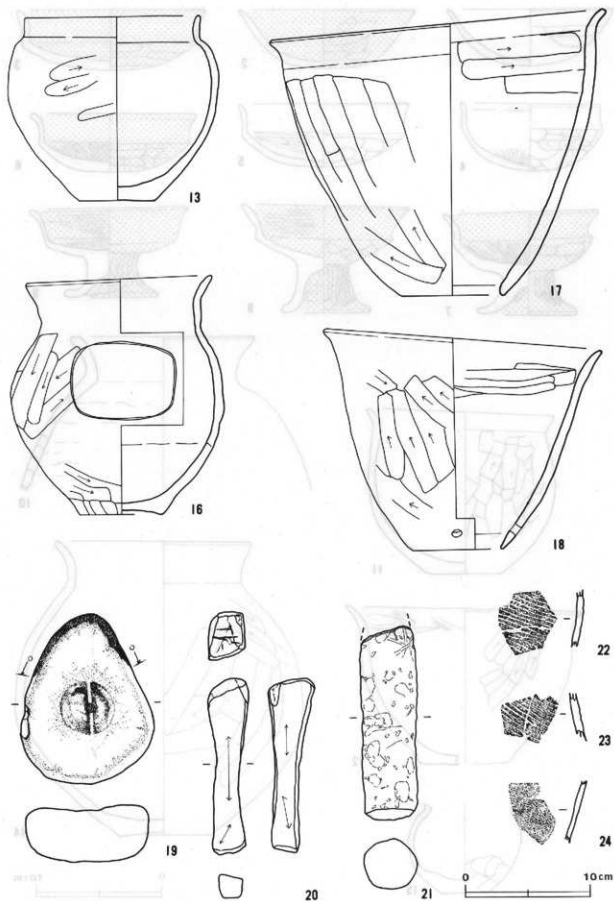


第21图 第7号住居跡実測・出土遺物実測・窺実測図



第22图 第7号住居跡出土遺物実測図(1)

図例 - 実測出土遺物実測図(1)



第23图 第7号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

- 10 暗褐色 炭化物極少量、ローム小ブロック微量・粒子少量、粘土
粒子中量
- 11 暗褐色 炭化材少量、ローム中ブロック極少量・小ブロック少量
・粒子中量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量

遺物 1, 4, 5の土師器の坏, 7の高坏, 10の壺は北部床面から, 11のほぼ完形の壺と15の小型の壺は竈内から, 16の円窓土器は竈横の床面からそれぞれ出土している。2の土師器の坏は貯藏穴からほぼ完形で出土している。弥生式土器は, 十王台式土器の広口壺の破片が3点, 覆土中から出土している。24は口縁破片で, 歯歯数5本で横に波状文が施されている。

所見 本跡は, 出土遺物から, 古墳時代後期の住居跡である。

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第22図 1	坏 土師器	A 13.3 B 4.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ割り後, ナデ。内面ナデ。	長石・雲母・小礫 石英・スコリア 赤褐色 普通	P43 P L 17 96% 北部床面
2	坏 土師器	A 14.4 B 5.0	平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ割り後, ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P44 P L 17 内面頂点状刺刺痕 貯藏穴内
3	坏 土師器	A 15.1 B 5.0	平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜をもち, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ割り。内面へつ割り後, ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・小礫 赤色 普通	P45 P L 17 85% 北部覆土中
4	坏 土師器	A 11.3 B 5.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜をもち, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ割り。内面へつ割り。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P46 P L 18 95% 底部内・外面に僅 付着 北部床面
5	坏 土師器	A 13.6 B 5.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜をもち, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位へつ割り後, ナデ。内面へつ割り。	長石・石英・雲母 スコリア 橙色 良好	P47 P L 18 80% 北部床面
6	坏 土師器	A 13.2 B 4.7 C 3.6	平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部との境に稜をもち, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位へつ割り後, へつ割り。内面へつ割り。内・外面赤彩。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P48 P L 18 85% 北部覆土下層
7	高坏 土師器	A 12.4 B 8.5 D 8.0 E 3.1	頸部はワッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。坏部と口縁部の境に弱い稜をもち。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へつ割り後, ナデ。内面へつ割り。頸部外面横位へつ割り。内面ナデ。頸部内面へつ割り。底部木葉痕。	石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P49 P L 18 98% 北部床面
8	高坏 土師器	A 13.4 B 8.7 D 7.2 E 3.8	頸部はワッパ状に開く。坏部は外傾して立ち上がり, 口縁部は外反する。坏部と口縁部の境に弱い稜をもち。	口縁部外面横ナデ。内面横位へつ割り。坏部外面へつ割り。内面横位へつ割り。頸部外面横位へつ割り。内面ナデ。頸部内面手もちへつ割り。坏部内面及び口縁部内・外面赤彩。	石英・雲母・長石 赤色 良好	P50 P L 18 95% 中央部床面
9	高坏 土師器	A 12.8 B 7.2 D 7.5 E 3.1	頸部はワッパ状に開く。坏部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。内面横位へつ割り。坏部外面へつ割り後, ナデ。頸部外面横位へつ割り後, ナデ。内面へつ割り。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 橙色 良好	P51 P L 18 90% 北部覆土下層
10	壺 土師器	A 14.7 B(12.2)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくびれ, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へつ割り。輪轆み痕を残す。	長石・石英 に灰・黄褐色 不良	P52 P L 18 40% 北部床面

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 11	壺 土師器	A 15.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・雲母 褐色 普通	P53 P.L18 95% 体部下位から底部にかけて二次火熱痕 窠内
		B 13.4				
		C 5.6				
12	壺 土師器	A 19.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。内面へラ磨き。体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P54 P.L18 80% 北部覆土下層
		B 12.9				
		C(7.4)				
第23図 13	壺 土師器	A 14.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。頸部に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・雲母 褐色 普通	P55 P.L18 70% 体部、底部内・外面 斜線痕 北部覆土下層
		B 14.8				
		C 6.0				
第22図 14	壺 土師器	A 15.7	平底。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横削りのため、調整不明。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・雲母 褐色 普通	P56 P.L18 70% 北西部覆土下層
		B 23.6				
		C 7.6				
15	小型壺 土師器	B(7.2)	口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部に弱い稜をもつ。	体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・雲母 褐色 普通	P57 P.L18 70% 体部に二次火熱痕 内面斑点状斜線痕 窠内
		C 3.4				
第23図 16	壺 土師器	A 14.8	円蓋土器。平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくびれ、口縁部は外反する。体部中位から上半分にかけて、横8.5cm、縦6.2cmの楕円形の凹窓が開けられている。(成形時)	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。体部下位に輪痕のみ。	長石・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P58 P.L18 80% 籠西側庫内
		B 19.0				
		C 6.5				
17	甗 土師器	A 27.0	無底式。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・石英・雲母 小礫 明赤褐色 普通	P59 P.L18 90% 体部内・外面部分 北部覆土下層
		B 22.8				
		C 8.3				
18	甗 土師器	A 21.8	無底式。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。体部下端に4か所穿孔。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。下位はへラ削り。	長石・石英・雲母 小礫 褐色 普通	P60 P.L19 80% 北部覆土下層
		B 17.4				
		C 6.7				

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第23図19	凹石	13.6	10.6	4.6	661.1	砂岩	覆土下層	Q10
20	甗石	14.1	2.8	1.9	157.7	石灰岩	覆土中	Q12 P.L31

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)		
第23図21	支脚	15.5	4.6	4.0	305.3	籠中	DP2

第8号住居跡(第25図)

位置 調査区南部、E2g3区。

規模と平面形 長軸2.88m、短軸2.78mの不整形である。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁は攪乱のためほとんど失われている。

壁溝 全周している。上幅12cm、下幅6cmで、深さは10cmである。北側は断面形は「U」字状であるが、南側

は擾乱のため浅い。

床 南側は擾乱が深く床面の確認は困難だが、北西側の床面はロームに黒色土が混じり軟らかい。貼り床と思われる。

炉 西コーナー付近に1か所。長径50cm、短径40cmの楕円形で、床を14cm掘り込んだ地床炉である。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量、ローム粒子少量
- 2 赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

貯蔵穴 北コーナー付近に付設されている。長径50cm、短径48cmのほぼ円形で、深さは24cmである。断面形は逆三角形形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒色 焼土小ブロック微量、ローム粒子極少量
- 2 黒褐色 焼土粒子微量、ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック極少量、粒子中量
- 4 明褐色 ローム粒子多量

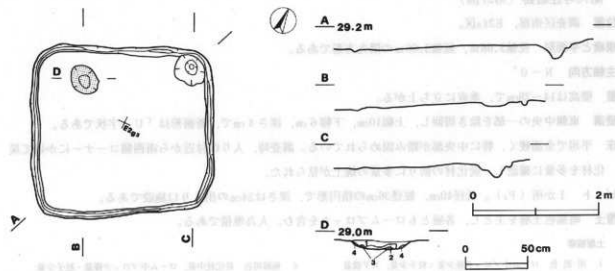


第24図 第8号住居跡出土遺物実測図

覆土 擾乱のため確認できない。

遺物 1の土師器の壺の口縁部片は貯蔵穴から出土している。

所見 本跡は、当遺跡の古墳時代前期の住居跡と規模や内部構造が類似していることから、古墳時代前期の住居跡と思われる。



第25図 第8号住居跡実測図

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	口縁部(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第24図	壺	A(11.2)	口縁部片。胴部から口縁部は「く」の字状で、口縁部は外傾する。口唇部はつまみ上げている。	口縁部外面斜位へつ磨き、内面横ナデ。	長石・石英・雲母	P.61 P.L.19
1	土師器	B(4.7)			褐色	5%
					普通	口縁部内面刺刺痕 貯蔵穴内

第9号住居跡 (第26図)

位置 調査区南部, E2e区。

規模と平面形 長軸 (3.07m), 短軸 (2.36m)

の隅丸長方形状である。

長軸方向 N-51°-E

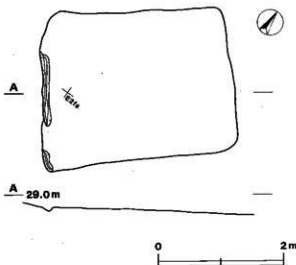
壁 壁は攪乱のため失われている。

壁溝 西コーナー部壁下にだけ見られる。上幅10cm, 下幅4cm, 深さ6cmで, 断面形は「V」字状である。北西中央にも壁溝と思われる掘り込みが見られるが, 攪乱のため壁溝としての確認はできない。

床 南側は攪乱が深く, 特に南東部は確認が難しい。

覆土 攪乱のため確認できない。

所見 本跡は, 当遺跡の古墳時代前期の住居跡と規模や内部構造が類似していることから, 古墳時代前期の住居跡と思われる。



第26図 第9号住居跡実測図

第10号住居跡 (第27図)

位置 調査区南部, E2f区。

規模と平面形 長軸3.68m, 短軸3.60mの隅丸方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は14-28cmで, 垂直に立ち上がる。

壁溝 東側中央の一部を除き周回し, 上幅10cm, 下幅6cm, 深さ4cmで, 断面形は「U」字状である。

床 平坦で全面硬く, 特に中央部が踏み固められている。調査時, 入り口付近から南西側コーナーにかけて炭化材を多量に確認し, 炭化材の回りに多量の焼土が見られた。

ピット 1か所 (P₁)。長径40cm, 短径36cmの楕円形で, 深さは24cmの出入り口施設である。

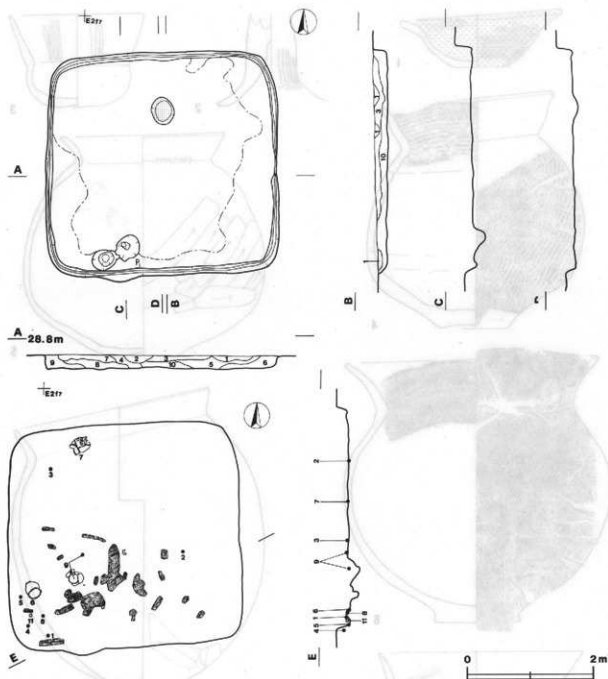
覆土 暗褐色土層を主とし, 各層ともロームブロックを含む。人為堆積である。

土層観察

- | | | | |
|-------|----------------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック極少量・粒子少量, KP微量 | 6 極暗褐色 | 炭化材中量, ローム中ブロック微量・粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック極少量・粒子中量, KP微量 | 7 褐色 | ローム大ブロック中量・中ブロック少量・小ブロック中量・粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム大ブロック極少量・中ブロック少量・小ブロック中量・粒子中量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム中ブロック微量・粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ローム中ブロック極少量・小ブロック少量・粒子少量, KP少量 | 9 暗褐色 | 焼土大ブロック微量・粒子少量, ローム粒子中量 |
| 5 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム小ブロック極少量・粒子中量, KP少量 | 10 褐色 | 焼土粒子少量, 炭化材中量, ローム小ブロック少量・粒子中量 |

遺物 3の土師器の埴は北西部床面からはは完形で出土し, 2の高坏と7, 8, 9の甕も床面から出土している。

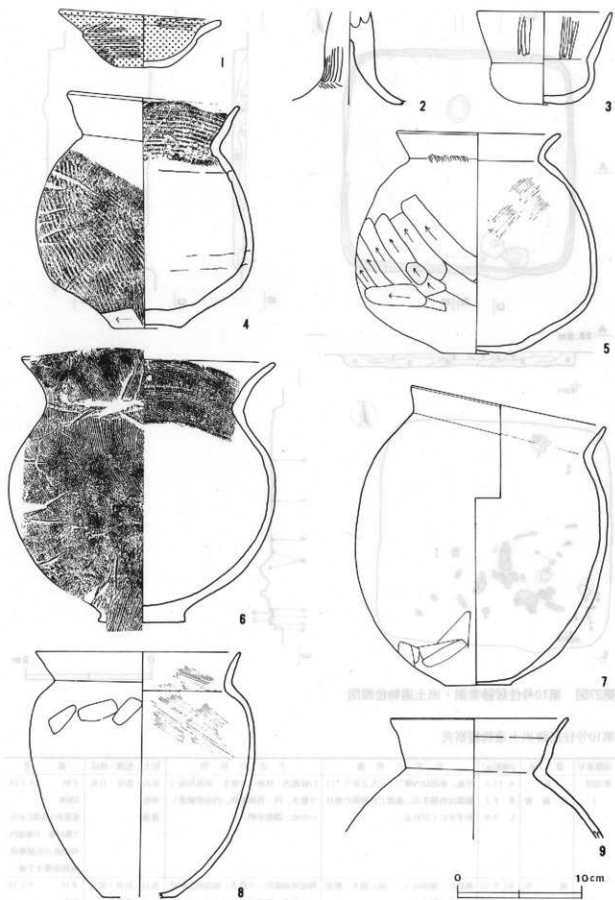
所見 調査時, 床面に多量の焼土と炭化物を確認した。覆土中にも焼土が含まれていたことから, 焼失家屋と思われる。本跡は, 遺物の出土状況等から, 古墳時代前期の住居跡である。



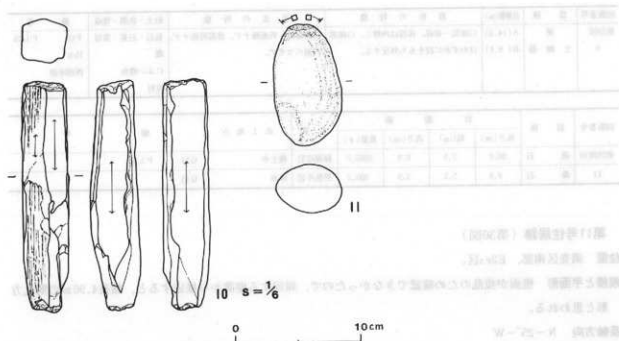
第27図 第10号住居跡実測・出土遺物位置図

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・構成	備考
第28図	土 師 器	A 13.0 B 4.7 C 3.9	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。体部と口縁部の境はわずかにきびれる。	口縁部内・外面へラ磨き。体部外面へラ磨き。内・外面赤彩。内面摩滅甚しいため、調整不明。	長石・雲母・石英 赤色 普通	P62 P L19 100% 底部から体部にかけて厚行着 口縁部内外面斑点状割離痕 南西部覆土下層
2	高 土 師 器	B(7.5) C(8.0)	脚部片。裾部はワッパ状に開き、脚部は中空で膨らむ。	脚部外面履位へラ磨き。裾部外面斜位へラ磨き。脚部内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 にふい黄橙色 良好	P70 P L19 30% 東部床面



第28图 第10号住居跡出土遺物実測図(1)



第29図 第10号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	寸法(㎝)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第29図 3	土師器	A 10.5 B 7.5	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。体部と口縁部の境はわずかにきれる。	口縁部内・外面縦穴ヘラ磨き。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 63 P L 19 90% 底部から口縁部にかけて厚付着 北西部床面
4	土師器	A 13.7 B 19.1 C 5.5	平底。体部は内彎して立ち上がり、F位に膨らみをもつ。頸部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形。体部外面ハケ目整形。底部ヘラ削り。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 64 P L 19 95% 南西部覆土下層
5	土師器	A 13.1 B 17.9 C 5.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、F位に膨らみをもつ。頸部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形後、横ナデ。体部内面ハケ目整形。体部外面ハケ目整形後、ヘラナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P 65 P L 19 90% 体部外面剥離痕 二次大熱痕 南西部覆土下層
6	土師器	A 20.3 B 21.3 C 7.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形。体部外面ハケ目整形。内面ヘラナデ。体部外面中央ハケ目がつぶれている。	長石・石英・雲母 スコリア 褐色 良好	P 66 P L 19 95% 体部と底部に剥離痕 南西部覆土下層
7	土師器	A 15.6 B 24.0 C 5.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくびれ、口縁部は外傾する。口縁部は底部に対し傾く。	口縁部外面ハケ目整形後、ナデ。内面ハケ目整形。体部外面ハケ目整形後、ナデ。一部ヘラ削り後、ナデ。内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 スコリア にぶい黄褐色 普通	P 67 P L 19 95% 体部内面剥離痕 体部、口縁部厚付着 北西部床面
8	土師器	A 16.3 B 19.7 C 6.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、上端で最大径をもつ。頸部はくびれ、口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面横ナデ。内面ハケ目整形。体部外面ヘラナデ。内面ハケ目整形。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P 68 P L 19 80% 底部二次大熱痕 口縁部、体部内面直 点状剥離痕 南西部床面

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第28図 9	甕 土 師 器	A(14.3) B(9.1)	口縁部一体部。体部は内彎し、口縁部はわずかに段をもち外反する。	口縁部内・外面糖ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 襷 にぶい褐色 良好	P 69 P L 19 15% 西部床面

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第28図10	甕 石	36.9	7.5	6.9	3385.7	緑泥片岩	覆土中	Q14 P L 31
11	甕 石	9.8	5.5	3.9	308.2	黒色片岩	床面	Q15

第11号住居跡（第30図）

位置 調査区南部，E2e3区。

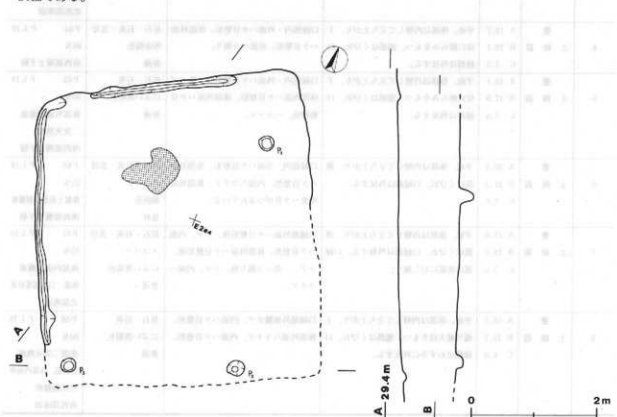
規模と平面形 壁面が攪乱のため確認できなかったので，周囲する壁溝から推定すると，輪長4.90mの隅九方形と思われる。

長軸方向 N-25°-W

壁溝 北西コーナーから南西コーナー手前にかけて見られる。上幅14cm，下幅6cm，深さ6cmで，断面形は「U」字状である。

床 床面まで攪乱されている。中央部はロームに黒色土が混じっており，貼り床と思われる。中央より北西寄りに焼土が確認でき，攪乱のため土層の確認はできなかったが，灰跡と思われる。

ピット 3か所（P₁～P₃）。P₁～P₃は支柱穴である。長径24～30cm，短径20～24cmの楕円形で，深さは14～24cmである。



第30図 第11号住居跡実測図

覆土 攪乱のため確認できない。

所見 本跡は、当遺跡の古墳時代前期の住居跡と規模や内部構造が類似していることから、古墳時代前期の住居跡と思われる。

第12号住居跡（第32図）

位置 調査区南部，E2c区。

規模と平面形 長軸4.95m，短軸3.00mの不整長方形である。

長軸方向 N-80°-E

壁 壁高は4～14cmで，緩やかに立ち上がる。

床 全面やわらかく，平坦である。

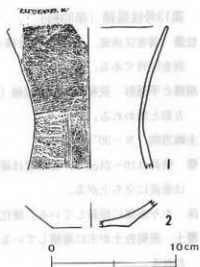
覆土 黒褐色土層が主として堆積している。粘性，締まり共になく，各層にロームブロックが含まれる。人為堆積と思われる。

土層解説

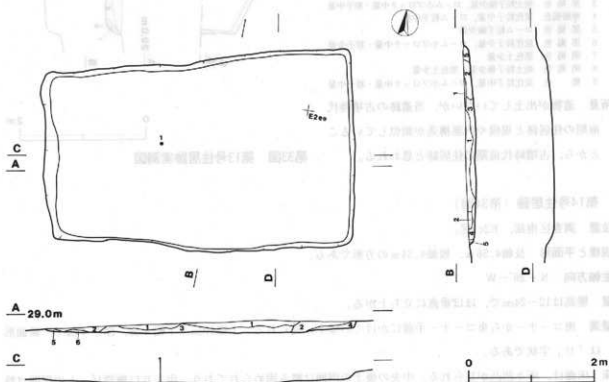
- 1 黒色 ローム粒子極少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子極少量，ローム中ブロック・小ブロック・粒子中量
- 4 黒褐色 炭化粒子少量，ローム小ブロック・粒子中量
- 5 黒色 ローム小ブロック少量・粒子極少量
- 6 褐色 炭化粒子極少量，ローム小ブロック中量・粒子極少量，黒色土少量

遺物 1の弥生式土器の広口壺の口縁部片と土師器の甕の底部片は中央部床面から出土している。

所見 本跡は，当遺跡の他の古墳時代前期の住居跡と規模や内部構造が類似していることから，古墳時代前期の住居跡と思われる。



第31図 第12号住居跡出土遺物実測図



第32図 第12号住居跡実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(m)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図	広口 壺	A(12.8)	頸部-口縁部。頸部から口縁部にかけては外反する。口唇部にキザミ目が施されている。頸部は、縞間数4本でスリット手法により縦区画され、波状文が充填されている。口縁部には、原形が附加条2條(附加1條)の縄文が施され、縄文は羽状構成をとる。内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 黒褐色 普通	P71 P L19 5% 外面係付着 中央部床面
1	弥生式土器	B(14.2)			

図録番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図	瓦	B(2.0)	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	灰石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P72 P L19 5% 中央部床面
2	土 瓦 器	C(4.0)				

第13号住居跡(第33図)

位置 調査区南部, E3d₂区。遺構の約3分の2が調査区外である。

規模と平面形 長軸3.00m, 短軸(1.82m)の不整形方形と思われる。

主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は10-24cmで, 北西壁は緩やかに, 南東壁は垂直に立ち上がる。

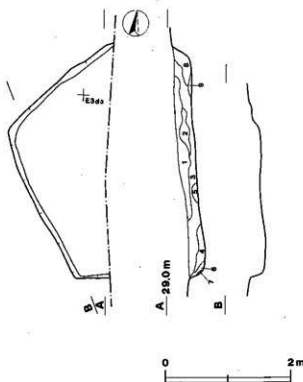
床 やや南側に傾斜している。硬化面はない。

覆土 黒褐色土が主に堆積している。自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 焼土粒子極少量, ローム小ブロック中量・粒子中量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ローム粒子極少量
- 6 黒褐色 炭化粒子少量, ローム小ブロック中量・粒子少量
- 7 明褐色 黒色土少量
- 8 明褐色 焼土粒子極少量, 黒色土少量
- 9 褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック中量・粒子中量

所見 遺物が出土していないが, 当遺跡の古墳時代前期の住居跡と規模や内部構造が類似していることから, 古墳時代前期の住居跡と思われる。



第33図 第13号住居跡実測図

第14号住居跡(第34図)

位置 調査区南部, E2c₆区。

規模と平面形 長軸4.56m, 短軸4.34mの方形である。

主軸方向 N-26°-W

壁 壁高は12-24cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南コーナーから東コーナー手前にかけての壁下に見られる。上幅10cm, 下幅4cm, 深さ4cmで, 断面形は「U」字状である。

床 床面は, 所々凹凸が見られる。中央の焼土の周囲は踏み固められており, 出入り口施設ピットの周囲は特に硬い。調査時, 焼土の周囲に炭化材が見られた。

ピット 1か所 (P₁)。径36cmの円形で、深さは18cm入り口施設である。

貯蔵穴 南コーナー付近に付設されている。径50cmの円形で、深さは40cmである。断面形は台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子極少量、粘土
2 黒褐色 焼土粒子極少量、ローム粒子極少量
3 褐色 ローム粒子少量

覆土 黒褐色土が主として堆積しており、下層にはロームブロックが含まれる。人為堆積と思われる。

土層解説

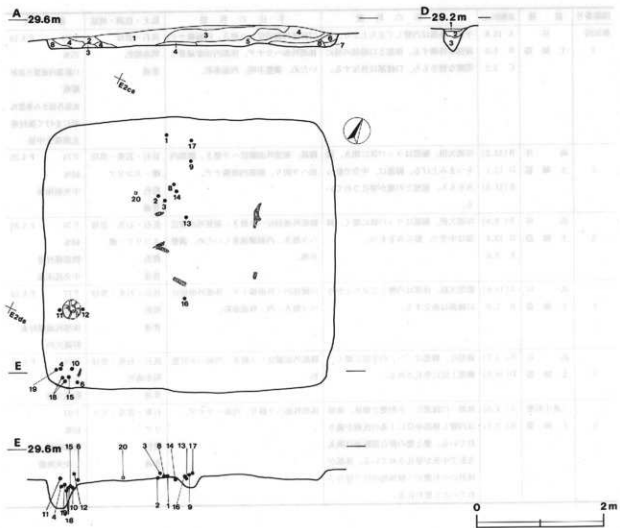
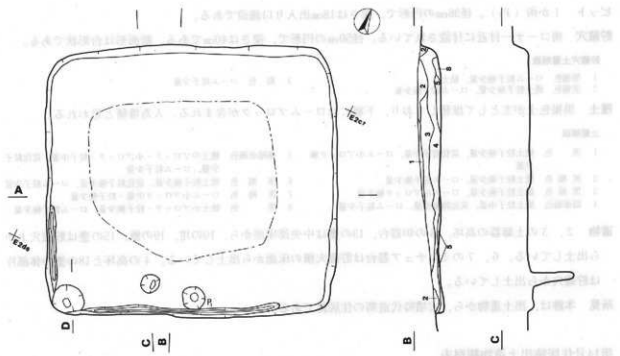
- 1 黒色 焼土粒子極少量、炭化粒子中量、ローム小ブロック極少量
2 黒褐色 焼土粒子極少量、ローム粒子少量
3 黒褐色 焼土粒子少量、ローム小ブロック少量
4 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化物極少量、ローム粒子少量
5 暗赤褐色 焼土中ブロック・小ブロック・粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子少量
6 黒褐色 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム粒子少量
7 黒褐色 ローム小ブロック中量・粒子極少量
8 黒色 焼土小ブロック・粒子極少量、ローム粒子少量

遺物 2, 3の土師器の高坏, 8の炉器台, 13の甕は中央部床面から, 10の埴, 19の甌, 15の甕は貯蔵穴上から出土している。6, 7のミニチュア器台は貯蔵穴横の床面から出土している。4の高坏と18の甕の体部片は貯蔵穴から出土している。

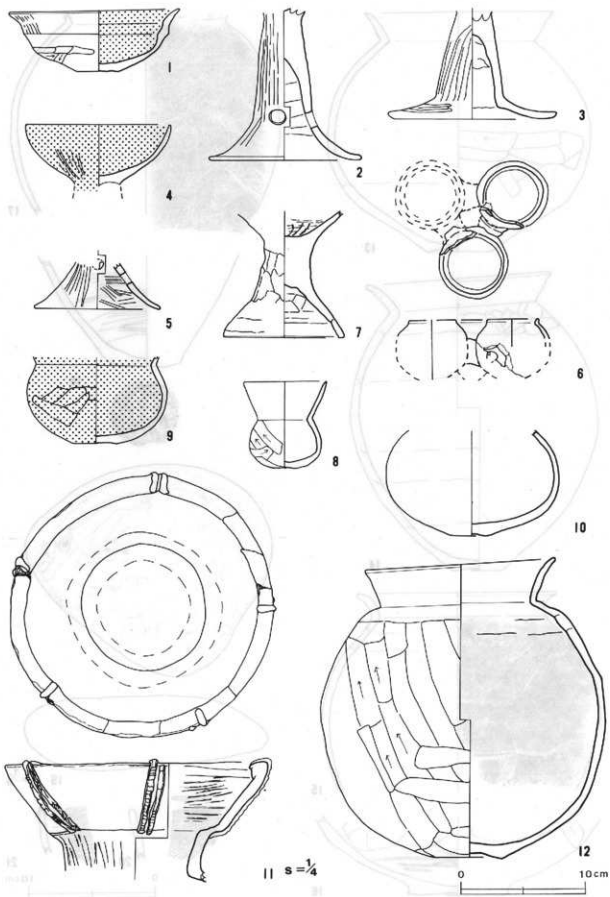
所見 本跡は、出土遺物から、古墳時代前期の住居跡である。

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第35図 1	土師器 B	A 13.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。体部と口縁部の境に明確な線をもち、口縁部は外反する。	口縁部外面斜位へラ磨き。内面横ナダ。体部外歪ヘラナダ。体部内面草履し、いため、調整不明。内面赤彩。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P73 P L19 75% 口縁部内面塗点状刺 彫痕 底部外面から体部外 面にかけて窯付着 北部覆土中層
		B 5.0				
		C 3.2				
2	高土師器 D	B(12.2)	坏部欠損。甕部はラッパ状に開き、壺をつまみ上げる。脚部は、中空で膨らみをもち、甕部との境が穿孔されている。	脚部、甕部外面縦位へラ磨き。脚部内面ヘラ削り。甕部内面横ナダ。	長石・石英・雲母 緑・スコリア 褐色 普通	P74 P L20 40% 中央部床面
		D 12.1				
		E(11.3)				
3	高土師器 B	B(8.9)	坏部欠損。甕部はラッパ状に開く。脚部は中空で、膨らみをもつ。	脚部外面斜位へラ磨き。甕部外面縦位へラ磨き。内面草履しいため、調整不明。	長石・石英・雲母 スコリア・緑 褐色 普通	P76 P L20 40% 脚部窯付着 中央部床面
		D 13.4				
		E 8.6				
4	高土師器 A	A(11.6)	脚部欠損。体部は内彎して立ち上がり口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面縦位へラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P77 P L19 35% 体部外面窯付着 貯蔵穴内
		B 5.0				
5	高土師器 B	B(3.7)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。脚部上位に穿孔される。	脚部外面縦位へラ磨き。内面ハケ目撃形。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P78 P L20 5% 貯蔵穴内
		D(10.0)				
6	三連小形甕 土師器 A	A(4.0)	体部一口縁部片。小形甕2個体。体部は内彎し体部中位に1糸の沈線が施されている。壺と甕の接合部断面は隅丸方形で中央が穿孔されている。体部が球形の小形甕が3個体部中位で接合されていたと思われる。	体部外歪へラ削り。内面ヘラナダ。	石英・雲母・スコリア 褐色 普通	P93 10% 南部床面 二次火熱痕
		B(2.1)				

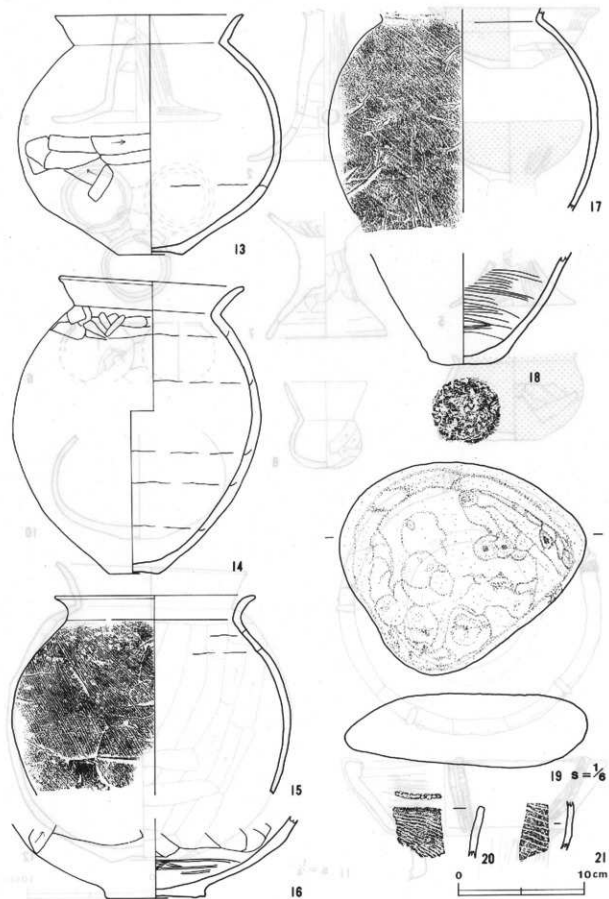


第34図 第14号住居跡実測・出土遺物位置図



第35图 第14号住居跡出土遺物実測図(1)

1:100 1:100 1:100 1:100 1:100 1:100 1:100 1:100 1:100 1:100



第36图 第14号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

計測実測出土物拓影(2) 第36图

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第35図	加蓋台 土師器	A 10.1 D 9.6 E 7.9	蓋部はやや内彎して「ハ」の字状に開く。脚部はやや膨らみをもち、器受部は外傾する。	器受部外面ナデ。内面へう磨き。脚部外面へラナデ。蓋部外面ナデ。	長石・石英・雲母 スコリア 明黄褐色 普通	P75 P L20 80% 蓋部内面割離痕。 二次大熱痕 中央部床面
8	埴 土師器	A 6.6 B 7.0 C 1.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくびれ、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P79 P L20 98% 北部床面
9	埴 土師器	B(6.9) C 3.4	口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	体部内・外面ヘラナデ。頸部内面及び体部外面赤彩。	長石・雲母 赤褐色 普通	P80 P L20 50% 底部から体部下端にかけて扉付着 貯蔵穴上
10	壺 土師器	A(8.4) B 2.2	平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面磨滅著しいため、調整不明。	長石・石英・スコリア・塵 明褐色 普通	P87 P L20 80% 二次大熱痕 南部床面
11	壺 土師器	A 28.3 B(13.2)	口縁部片。頸部と口縁部の境に段をもち、口縁部は外傾する。口唇部は内側に折り返す。口縁部に棒状浮文が2本単位で入り、キザミ目が施されている。	口縁部内・外面ヘラナデ。口唇部外面縦紋ヘラナデ。	石英・雲母・塵 淡黄色 普通	P80 P L20 20% 南部覆土下層
12	壺 土師器	A 15.2 B 23.9 C 5.3	上げ底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくびれる。口縁部は外反し、口唇部は上方へつまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内面ナデ。体部上位に輪積み痕。	長石・石英・雲母・塵 ・スコリア にぶい黄褐色 普通	P83 P L20 90% 内面斑点状割離痕 中央部床面
第36図	壺 土師器	A 15.0 B 19.3 C 5.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくびれる。口縁部は外反し、口唇部は上方へつまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。体部下端に輪積み痕を残す。	長石・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P84 P L20 90% 内面斑点状割離痕 二次大熱痕 北西部床面
14	壺 土師器	A 14.8 B 24.8 C 4.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくびれる。口縁部は外反し、口唇部は上方へつまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。体部に輪積み痕を残す。	長石・雲母 灰褐色 普通	P85 P L20 60% 底部から体部下端にかけて扉付着 貯蔵穴上
15	壺 土師器	A 16.0 B(15.9)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくびれ、口縁部は外反する。口唇部は上方へつまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形。内面横ナデ。体部上位に輪積み痕。	長石 褐色 普通	P86 P L20 40% 口縁部から体部内面にかけて扉付着 中央部床面
16	壺 土師器	B(6.4) C 7.8	平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ヘラナデ。	石英・雲母・スコリア 浅黄色 普通	P89 20% 斑点状割離痕 北部床面
17	壺 土師器	B(16.4)	体部片。体部は内彎し、体部中に最大径をもつ。	体部外面ハケ目整形後、ヘラナデ。内面ヘラナデ。	長石・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P91 30% 貯蔵穴内
18	瓶 土師器	B(9.0) C 5.4	平底。底部穿孔。体部はわずかに内彎して立ち上がる。	体部外面ナデ。内面ヘラナデ。底部に外側からの棒状工具による穿孔。	長石・雲母・塵 明赤褐色 普通	P92 P L20 20% 体部下端二次大熱痕 貯蔵穴上

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第35回19	台石	34.1	39.3	12.2	18650.0	砂岩	新製床面	Q18

第15号住居跡（第37図）

位置 調査区南西部，D213区。

規模と平面形 長軸5.90m，短軸5.60mの方形である。

主軸方向 N-26°-W

壁 壁高は12~28cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で全面軟らかく，ピットは確認できない。

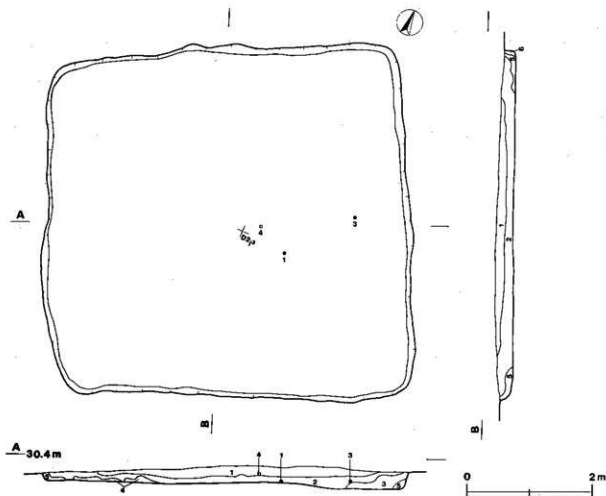
覆土 上層に黒褐色土が厚く堆積している。自然堆積と思われる。

土層解説

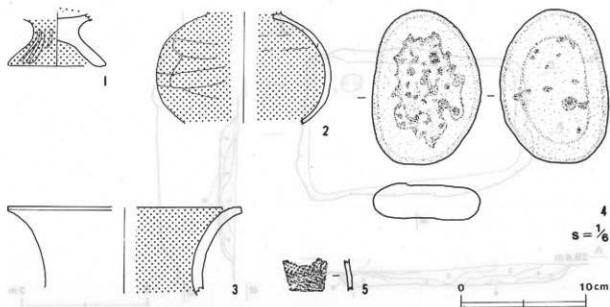
- | | | | |
|-------|-----------------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ローム中ブロック中量・小ブロック中量・粒子極少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物極少量・粒子極少量，ローム大ブロック中量・
粒子極少量 | 5 黒暗褐色 | 炭化粒子極少量，ローム中ブロック中量・粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量・粒子極少量 | 6 褐色 | ローム中ブロック・粒子中量 |

遺物 1の土師器の器台の脚部片，2の壺の体部片及び3の壺の口縁部片は覆土中から出土している。

所見 本跡は，出土遺物から，古墳時代前期の住居跡である。



第37図 第15号住居跡実測図



第38図 第15号住居跡出土遺物実測・拓影図

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色画・焼成	備考
第38図 1	器台 土器器	B(4.2) D(7.8) E(3.0)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。 器受部は外傾して立ち上がる。	脚部外面縦位へう磨き。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P96 P.L20 35% 中央部覆上下層
2	壺 土器器	B(9.1)	体部片。体部は内傾して立ち上がる。	体部外面へウナデ。内面横ナデ。輪轆み直を残す。頸部内・外面及び体部外面赤彩。	長石・石英珪 いぶい・褐色 普通	P97 P.L20 20% 体部*顔面或著しい 西部覆土中
3	壺 土器器	A(18.6) B(4.5)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内面赤彩。	石英・雲母 褐色 普通	P98 P.L20 5% 外面頂点状具離痕 内面保付着 東部覆土下層

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	調査区	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)				
第38図4	凹石	25.0	17.2	5.9	3,801.3	砂岩	覆土中層	Q19	

第16号住居跡(第39図)

位置 調査区南部, E2c区。

規模と平面形 長軸3.75m, 短軸2.30mの不整長方形である。

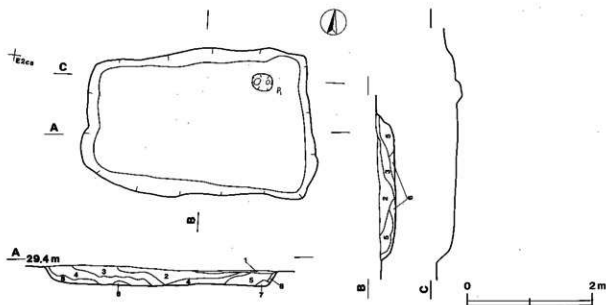
主軸方向 N-10°-E。

壁 壁高は16~20cmで、緩やかに立ち上がる。

床 全面やや硬く、平坦である。南側の出入り口周辺は特に硬い。床面はロームに黒色土が混じっており、貼り床と思われる。

ピット 1か所(Pi)。長径34cm, 短径26cmの楕円形で、深さは12cmで、性格は不明である。

覆土 黒色土を主に厚く堆積している。遺構確認時は北壁に投擲の跡が見られ、北東コーナー付近には焼土の



第39図 第16号住居跡実測図

塊と土師器片が混じって確認でき、西壁付近にはローム土が多量に見られた。人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 白色粒子少量 | 5 黒色 ローム粒子極少量 |
| 2 黒色 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム粒子極少量 | 6 黒色 焼土粒子極少量、ローム粒子極少量 |
| 3 黒褐色 焼土大ブロック中量・小ブロック少量・粒子中量 | 7 黒色 炭化粒子少量、ローム粒子中量 |
| 4 黒色 ローム粒子極少量 | 8 黒褐色 ローム中ブロック中量・粒子少量、黒色土少量 |

所見 本跡は、当遺跡の古墳時代前期の住居跡と規模や内部構造が類似していることから、古墳時代前期の住居跡と思われる。

第18号住居跡 (第40・41図)

位置 調査区南部, E3a1区。

規模と平面形 長軸8.70m, 短軸8.40mの方形である。

主軸方向 N-18°-W

壁 壁高は22-45cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 全周しており、上幅10cm, 下幅4cm, 深さ8cmで、断面形は「U」字状である。

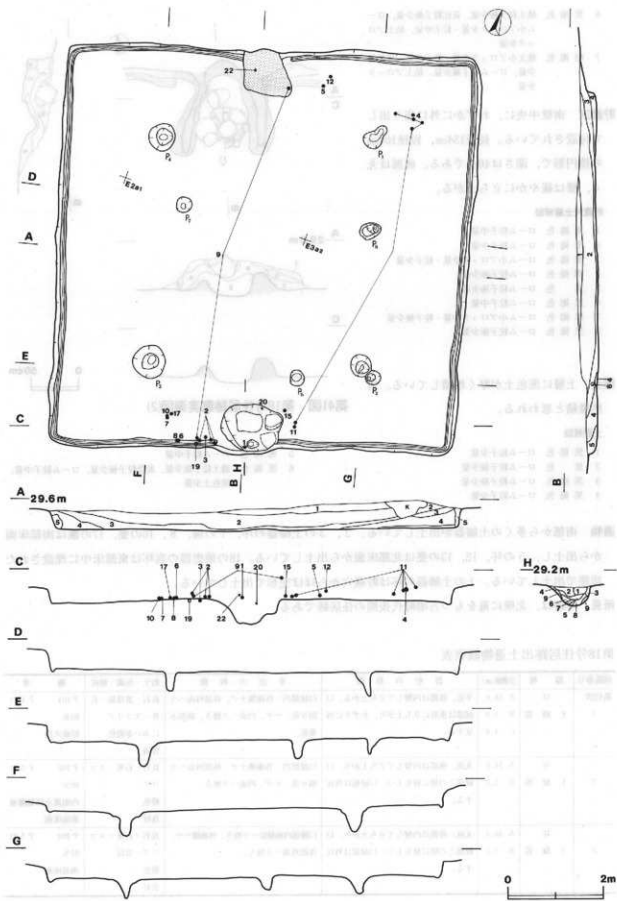
床 全面やや硬く、平坦である。遺構南側の出入り口周辺は、特に硬い。床面はロームに黒色土が混じっており、貼り床と思われる。

ピット 5か所 (P1-P5)。P1-P4は径44-86cmの円形で、深さが40-92cmの支柱穴である。P5は長径50cm, 短径40cmの楕円形で、深さは36cmの出入り口施設である。

竈 北壁中央部に、砂混じりの粘土で構築し、掘り方は、幅70cm, 奥行き10cmほど掘り込んでいる。両袖が残存し、火床部はやや北に傾斜している。煙道は約75°で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子極少量 | 4 黒褐色 焼土小ブロック中量・粒子極少量、ローム粒子極少量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子極少量、ローム粒子極少量 | 5 赤褐色 焼土粒子極少量 |
| 3 細暗褐色 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム粒子極少量 | |



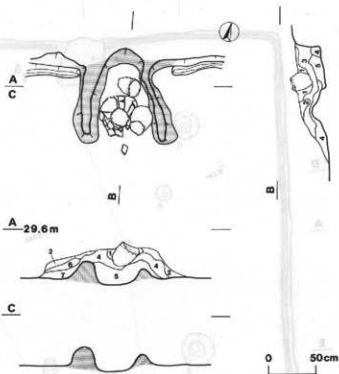
第40图 第18号住居跡実测图(1)

- 6 黒褐色 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム小ブロック少量・粒子中量、粘土ブロック少量
- 7 暗褐色 焼土小ブロック中量・粒子少量、炭化物少量、ローム粒子極少量、粘土ブロック少量

貯蔵穴 南壁中央に、わずかに外に張り出して付設されている。長径134cm、短径104cmの楕円形で、深さは40cmである。底部は丸く、壁は緩やかに立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
2 黒褐色 ローム粒子少量
3 黒褐色 ローム小ブロック中量・粒子少量
4 明褐色 ローム粒子極少量
5 黒色 ローム粒子極少量
6 黒褐色 ローム粒子中量
7 黒褐色 ローム小ブロック少量・粒子極少量
8 黒褐色 ローム粒子少量



第41図 第18号住居跡竈実測図(2)

覆土 上層に黒色土が厚く堆積している。自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
2 黒色 ローム粒子極少量
3 黒褐色 ローム粒子極少量
4 黒褐色 ローム粒子少量

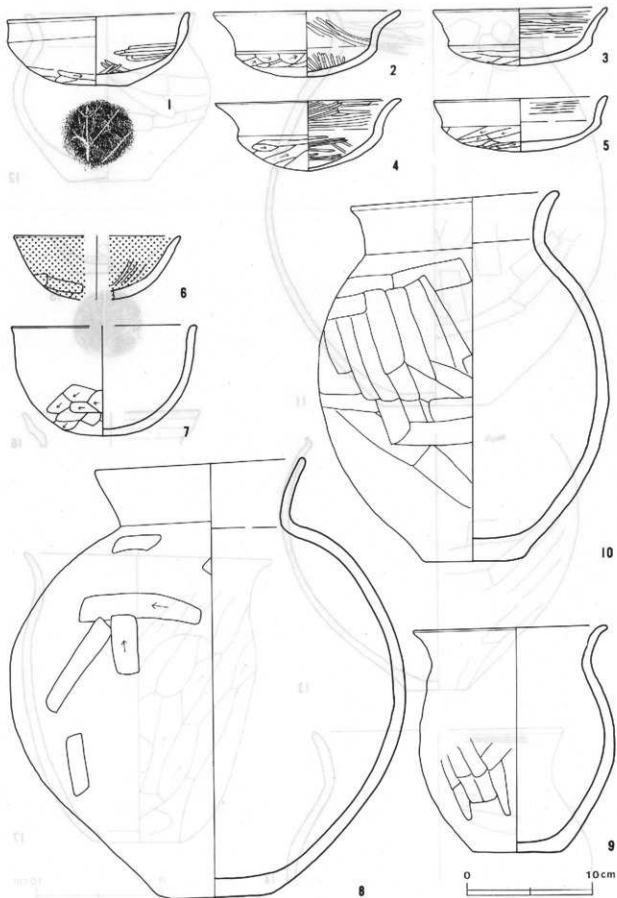
- 5 黒褐色 ローム粒子中量
6 黒褐色 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム粒子中量、黒色土少量

遺物 南部から多くの土師器が出土している。2, 3の土師器の坏, 7の埴, 8, 10の甕, 17の甗は南部床面から出土し, 5の坏, 12, 13の甕は北部床面から出土している。18の須恵器の高坏は東部床中に埋設された状態で出土している。1の土師器の坏は貯蔵穴からはほぼ完形で出土している。

所見 本跡は、北壁に竈をもつ古墳時代後期の住居跡である。

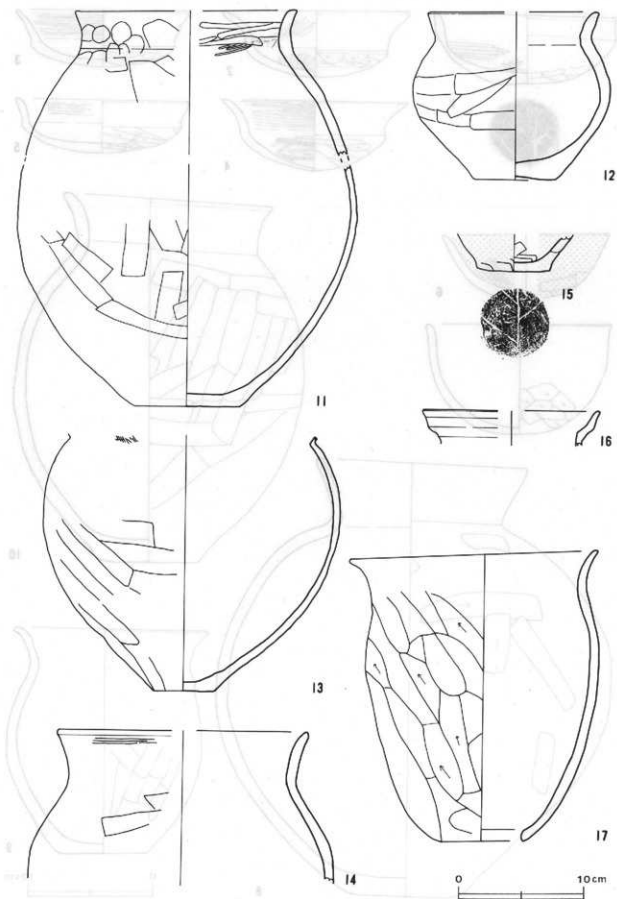
第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42回 1	土師器 坏	A 14.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は垂直に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へウ割り成。ナダ。内面へウ磨き。底部木炭痕。	長石・雲母・石英・スコリア にふい赤褐色	P101 P L21 90% 貯蔵穴内
		B 5.9				
		C 4.8				
2	土師器 坏	A 14.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に接をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナダ。体部外面へウ割り成。ナダ。内面へウ磨き。	長石・石英・スコリア 褐色 良好	P102 P L21 90% 内面斑点状剝離痕 南部床面
		B 5.2				
3	土師器 坏	A 15.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に接をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内面横位へウ磨き。外面横ナダ。体部外面へウ割り。	長石・石英・スコリア・雲母 褐色 良好	P104 P L21 85% 南部床面
		B 5.0				



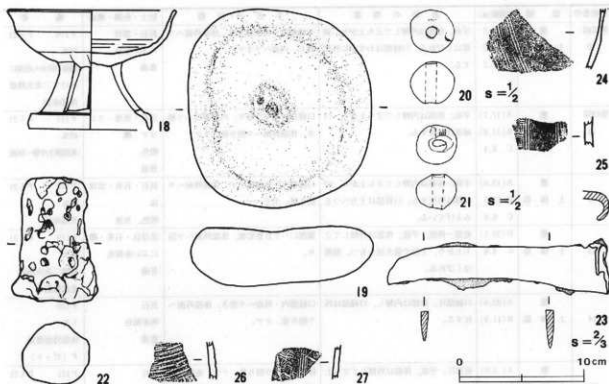
第42图 第18号住居跡出土遺物実測図(1)

上図集実測圖上出繪遺跡住居跡 國小原



第43图 第18号住居跡出土遺物実測图(2)

①国語学部の出土資料保存部 国語学



第44図 第18号住居跡出土遺物実測・拓影図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第44図 4	坏	A 14.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内面横位へつ磨き。外面横ナデ。体部外面へつ磨り後、ナデ。内面へつ磨き。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P105 P L21 90% 底部外面に厚着 北東部復土下層
	土師器	B 5.7				
5	坏	A 13.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面横位へつ磨き。外面横ナデ。体部外面へつ磨り後、ナデ。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P107 P L21 60% 内面頂点状刺種痕 北部床面
	土師器	B 4.3				
6	坏	A 13.2	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ磨り後、ナデ。内面斜位へつ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P109 P L21 40% 南部床面
	土師器	B 4.7				
		C 3.6				
7	碗	A[14.7]	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部はわずかに上方へつまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ磨り。	長石・雲母・スコリア 明褐色 普通	P112 P L21 65% 南部床面
	土師器	B 8.9				
8	壺	A 17.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。頸部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ磨り後、ナデ。内面厚減著しいため、調整不明。	長石 明赤褐色 普通	P114 P L21 60% 体部外面厚着 二次大熱痕 南部床面
	土師器	B 25.7				
		C 9.0				
9	壺	A 15.0	平底。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へつ磨り後、ナデ。内面へつナデ。	長石・雲母 赤色 普通	P115 P L21 90% 外面厚減著しい 北部粘土と南部床面 接合
	土師器	B 18.1				
		C 7.0				

図版番号	器 種	寸法(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第42図 10	甕 土 師 器	A 16.5 B 29.5 C 8.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくびれる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・雲母 にふい藍色 普通	P116 P L21 70% 胴部下位から底部にかけて二次火熱痕 南部床面
第43図 11	甕 土 師 器	A(17.7) B(31.8) C 8.4	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部外面へラ削り。内面横穴へラ削り。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・雲母・スコ リア・輝 藍色 普通	P117 P L21 45% 北部埋土中層～床面
12	甕 土 師 器	A(13.6) B 13.5 C 6.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は上方へつまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英・雲母 緑 藍色、普通	P118 P L21 60% 北部床面
13	甕 土 師 器	B(20.5) C 4.8	底部一帯部。平底。体部は外傾して立ち上がり、上位で最大径をもつ。頸部はくびれる。	頸部にハケ目整形痕。体部外面へラ削り。	雲母・石英・輝 にふい赤褐色 普通	P119 P L21 25% 底部二次火熱痕 北部床面
14	甕 土 師 器	A(20.0) B(11.9)	口縁部片。体部は内彎し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面へラ削り。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石 明赤褐色 普通	P120 5% 体部外面磨滅 P(ピット)2
15	甕 土 師 器	A(3.0) B 5.8	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へラ削り後、ナデ。底部へラ磨き。体部と底部の境に輪縁み痕を削す。底部木裏痕。	長石 赤色 普通	P121 P L21 5% 底部僅付着 南部貯蔵穴横床面
16	甕 土 師 器	A(14.2) B(2.9)	口縁部片。口縁部の断面形は「S」字状で、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母状 にふい黄褐色 普通	P122 P L22 5% 埋土中
17	甕 土 師 器	A 20.9 B 23.1 C 6.6	無底片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P124 P L21 95% 体部に黒付着 南部床面
第44図 18	高 坏 須 忍 器	A 13.4 B 9.7 D 9.6 E 5.3	脚部は単純で、「ハ」の字状に開く。口縁部に長方形のスカシ窓が3か所開けられている。坏部はわずかに内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。坏部と口縁部の境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ナデ。内面磨滅著しいため、調整不明。脚部内・外面横ナデ。	砂粒 灰色 良好	P113 P L21 70% 東部床中

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第44図19	円 石	16.0	14.6	4.7	1,906.5	砂 岩	床面	Q24

図版番号	器 種	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第44図20	土 釜	3.4	3.5	—	0.9	38.8	床面	D P 4 P L32
21	土 玉	2.9	3.2	—	1.1	27.2	埋土中	D P 5 P L32
22	支 脚	10.1	6.8	5.0	—	391.2	窠内	D P26

図版番号	器 種	計 測 値				材 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第44図23	小 形 鏝	(8.9)	2.2	0.3	11.5	鉄	埋土中	M 2 P L33

第19号住居跡 (第45図)

位置 調査区南部, D3h1区。

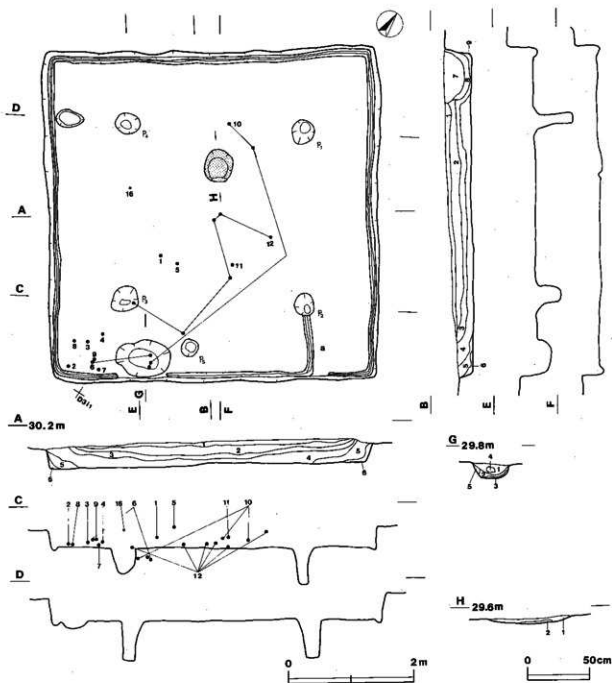
規模と平面形 長軸5.26m, 短軸5.22mの方形である。

主軸方向 N-34°-W

壁 壁高は30~50cmで, 垂直に立ち上がる。

壁溝 全周している。南東部の出入り口付近の壁下は上幅6cmで, 断面形は「V」字状である。その他は上幅10cm, 下幅6cm, 深さ8cmで, 断面形は「U」字状である。

間仕切り溝 南東壁東コーナー付近に1条 (a)。長さ90cm, 上幅12cm, 下幅4cmで, 断面形は「U」字状で



第45図 第19号住居跡実測図

ある。

床 平坦である。遺構南東側の出入り口周辺に、硬化面が確認できる。

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁~P₄は主柱穴である。長径36~48cm、短径30~40cmのほぼ円形で、深さは42~64cmである。P₅は長径30cm、短径25cmの円形で、深さ18cmの出入り口施設である。P₆は長径44cm、短径28cmの楕円形で、深さは10cmである。性格は不明である。

炉 主軸線上やや北西寄りに1か所。平面形は長径56cm、短径46cmの楕円形で、床を12cm掘り込んだ地床炉である。炉の端から炉石が出土している。

炉土層解説

- | | |
|--|-------------------------------|
| 1 極暗褐色 焼土小ブロック・粒子少量、炭化粒子少量、ローム小ブロック・粒子少量 | 3 暗褐色 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム粒子多量 |
| 2 暗赤褐色 焼土大ブロック・粒子少量、炭化粒子少量、ローム粒子少量 | |

貯蔵穴 南コーナー付近に付設されている。長径88cm、短径60cmの楕円形で、深さは26cmである。底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量 | 4 褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 5 褐色 ローム中ブロック・小ブロック多量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量 | |

覆土 黒褐色土が厚く堆積した上に黒色土が堆積している。自然堆積と思われる。1層の黒色土には黒みの強い直径7~8mmのブロックが多量に含まれている。

土層解説

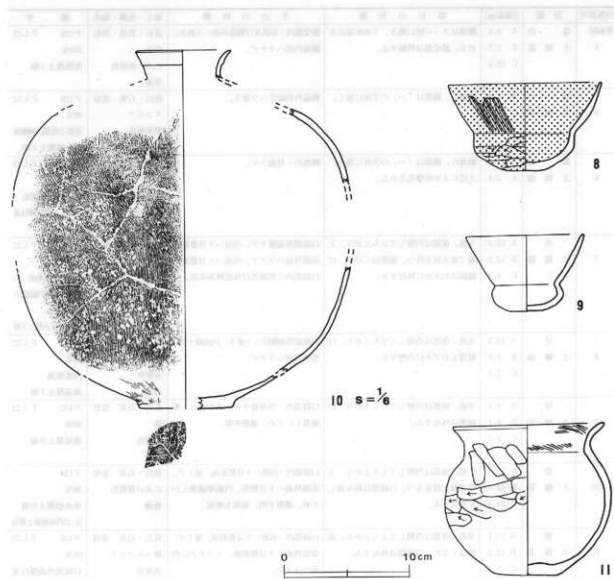
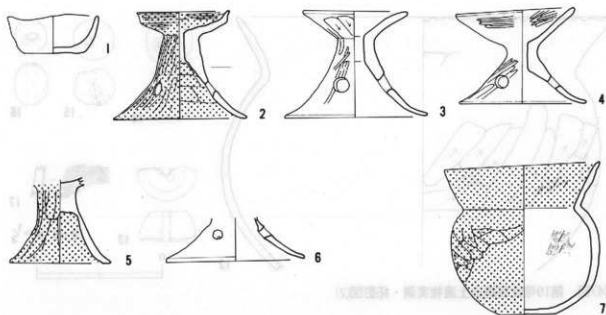
- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 黒色 ローム粒子極少量、一辺が8mm程度の黒色で方形の粗い小ブロックを多量に含む。 | 6 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量 | 7 暗褐色 焼土粒子極少量、炭化粒子少量、ローム粒子少量 |
| 3 黒色 ローム粒子微量 | 8 褐色 焼土粒子少量、炭化粒子少量、ローム粒子中量、粘土粒子少量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量 | 9 灰褐色 ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子少量 | |

遺物 2, 3, 4の土師器の器台, 7, 8の埴は南部覆土下層からほぼ完形で出土している。10の壺は、第2号住居跡から出土した底部と接合した。11の甕は、中央部の覆土中層からほぼ完形で出土している。6の器台は貯蔵穴から出土している。

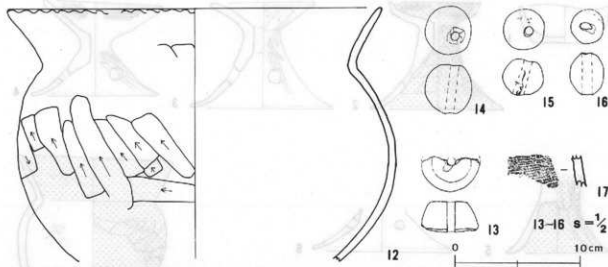
所見 本跡は、出土遺物から、古墳時代前期の住居跡である。

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・装成	備考
第46図 1	埴 土師器	A 7.2	平底。体部は内押しして立ち上がり、口縁部内・外面へウ磨き。体部内・外面へウ磨き。	口縁部内・外面へウ磨き。体部内・外面へウ磨き。	赤・紫母 にぶい橙色 良好	P125 P L21 98% 底縁から体部にかけて張り着 口縁部内外面直点状刺線痕 中央部覆土中層
		B 3.0	縁部は外粗する。体部と口縁部の境はわずかにくびれる。			
		C 4.8				
2	器台 土師器	A 7.3	脚部はラップ状に磨き、下位に3か所穿孔される。器受部は内押しして立ち上がり、口縁部は上方につまみ上げ、外粗する。器受部と口縁部の境に弱い横をもつ。	口縁部内・外面縦位へウ磨き。器受部内・外面ナデ。脚部外面縦位へウ磨き。内面へウ磨り。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤・紫母 橙色 普通	P126 P L21 90% 底縁から口縁部にかけて張り着 南部覆土下層
		B 8.6				
		D 10.6				
		E 6.6				
3	器台 土師器	A 8.1	脚部はラップ状に磨き、中位に3か所穿孔される。器受部中央から脚部に向けて穿孔される。器受部は外反する。	器受部外面ヘラナデ後、磨き。内面ナデ。脚部外面ヘラナデ後、磨き。内面ナデ。	長石・石英・雲母 スコリア 明赤褐色 普通	P127 P L22 98% 南部覆土下層
		B 8.4				
		C 11.3				



第46图 第19号住居跡出土遺物実測図(1)



第47図 第19号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第46図 4	器台 土師器	A 9.4 B 7.7 C 10.0	脚部はランナ状に開き、3か所穿孔される。器受部は外傾する。	器受部内・外面及び脚部外面へツ磨き。 脚部内面へフナデ。	長石・雲母・黒色 にぶい黄褐色 普通	F128 P L22 100% 南部覆土下層
5	器台 土師器	B(6.8) C 8.1	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部外面縦位へツ磨き。	長石・石英・雲母 スコリア 明赤褐色 普通	F129 P L22 40% 体部と底部に割離痕 中央部覆土上層
6	器台 土師器	D 11.2 E 3.4	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開き、上位に3か所穿孔される。	脚部内・外面ナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	F130 P L22 20% 体部内面割離痕 体部、口縁部隣付着 貯蔵穴内
7	埴 土師器	A 12.3 B 12.2 C 4.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、上端で最大径を持つ。肩部はくびれ、口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面横ナデ。内面ハケ目整形。 体部外面へラナデ。内面ハケ目整形。 口縁部内・外面及び体部外面赤彩。	長石・石英・雲母 ・スコリア 暗赤色 普通	F131 P L22 95% 底部二次火熱面 口 縁部、体部内面接点 状割離痕 南部隣付近覆土下層
8	埴 土師器	A 12.3 B 7.0 C 2.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部もわずかに内彎する。	口縁部外面縦位へツ磨き。内面横ナデ。 体部外面へラナデ。	長石・石英・雲母 ・スコリア 赤褐色 普通	F132 P L22 95% 内面帯減 南部覆土下層
9	埴 土師器	A 9.4 B 6.1 C 2.7	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。その他は、磨減著しいため、調整不明。	長石・石英・雲母 ・珪 赤褐色 普通	F133 P L22 90% 南部覆土中層
10	壺 土師器	A 15.1 B(64.0) C(14.4)	平底。体部は内彎して立ち上がり、上位で最大径をもつ。口縁部は折り返して外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形後、横ナデ。 体部外面ハケ目整形。内面磨減著しいため、調整不明。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	F134 30% 中央部覆土中層 SI-23P66底部と接合
11	壺 土師器	A 12.1 B 12.2 C 5.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、肩部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形後、横ナデ。 体部外面ハケ目整形後、へラナデ。内面へラナデ。	長石・石英・雲母 ・スコリア 淡黄色 普通	F135 P L22 95% 口縁部外面隣付着 底部二次火熱面 中央部覆土中層

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第47図 12	甕 土師器	A(29.9)	体部~口縁部。体部は内彎し、口縁部は外反する。口唇部は波状である。	口唇部棒状工具による押付整形。口縁部外面斜位ヘラナデ。内面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	灰石・石英・雲母 明褐色 普通	P136 P L22 40% 外面煤付着 中央部腹土下層

図版番号	器種	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第47図13	紡錘車	(2.9)	4.7	2.5	0.6	31.2	覆土中	D P 6 P L32
14	土 玉	3.9	3.8	—	0.6	57.1	覆土中	D P 7 P L32
15	土 玉	2.9	3.3	—	0.7	27.7	覆土中	D P 8 P L32
16	土 玉	3.3	2.7	—	0.9	23.4	覆土中	D P 9 P L32

第20号住居跡（第48図）

位置 調査区南部，D3h3区。

規模と平面形 長軸4.63m，短軸3.94mの長方形である。

主軸方向 N-75°-E

壁 壁高は12~20cmで，緩やかに立ち上がる。

壁溝 南東，南西，北西コーナー部の壁下にだけ見られる。上幅14cm，下幅4cm，深さ4cmで，断面形は「U」字状である。

床 全面に小さな凹凸があり，北から南にやや傾斜している。

ピット 1か所（P1）。長径28cm，短径24cmの楕円形で，深さは18cmである。性格は不明である。

貯蔵穴 南東コーナー南壁付近に付設されている。平面形は，径60cmの円形で，深さは12cmである。底は中央部が高く，壁は緩やかに立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム小ブロック少量・粒子極少量 | 4 暗褐色 焼土粒子極少量，炭化粒子極少量，ローム粒子極少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 5 褐色 ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 炭化粒子極少量，ローム小ブロック中量・粒子少量 | 6 褐色 ローム粒子中量 |

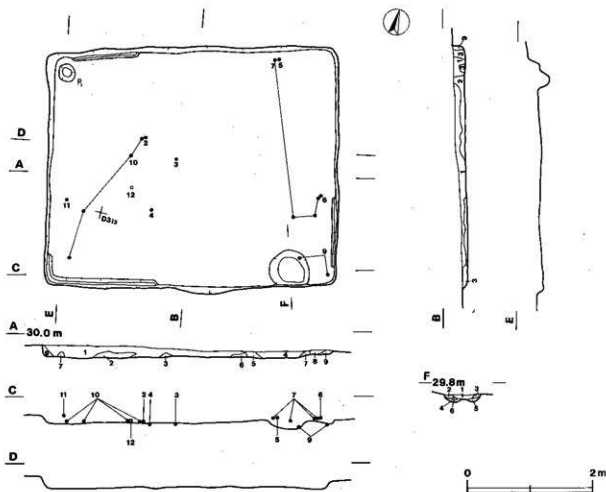
覆土 黒褐色土が主に堆積し，覆土中にロームブロックを含む。人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子極少量，ローム粒子少量 | 6 暗褐色 ローム小ブロック中量・粒子極少量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック・粒子極少量 | 7 じら暗褐色 ローム小ブロック・粒子極少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | 8 黒褐色 焼土粒子極少量，ローム粒子少量，黒色土少量 |
| 4 黒褐色 ローム小ブロック極少量・粒子少量 | 9 黒褐色 ローム小ブロック・粒子中量 |
| 5 黒褐色 ローム小ブロック極少量・粒子極少量 | |

遺物 2の土師器の高坏，3の埴は中央部床面から出土し，9の甕は南東部床面から出土している。

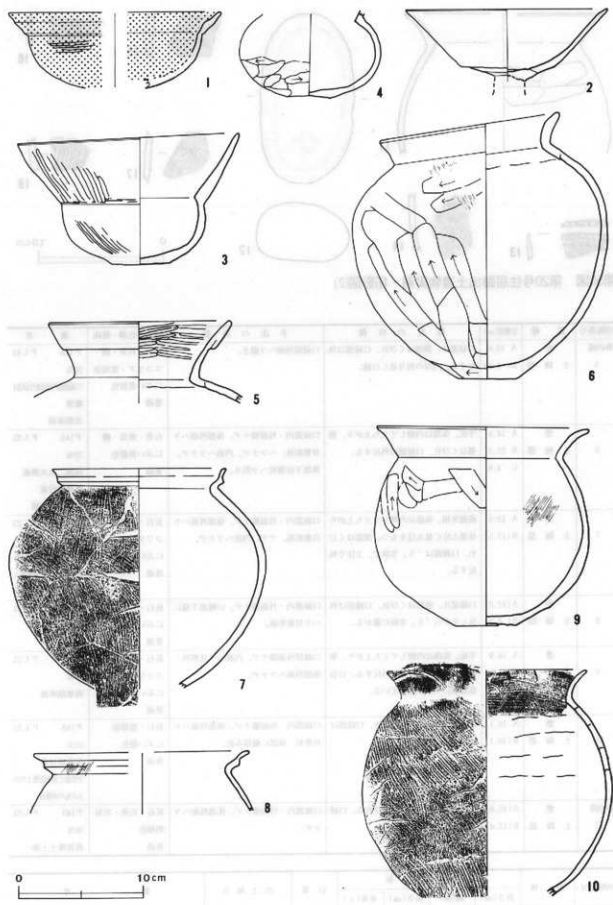
所見 本跡は，出土遺物から，古墳時代前期の住居跡である。



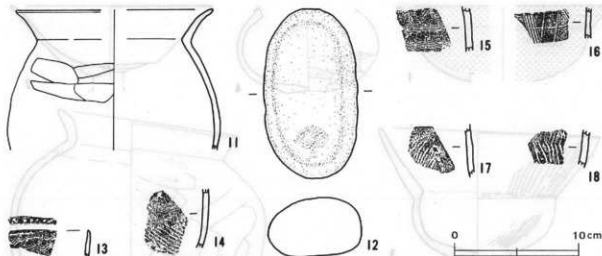
第48図 第20号住居跡実測図

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第48図 1	坏 土 師 器	A(17.0) B(6.1)	体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾し、中央に深い轡をもつ。体部と口縁部の境はわずかにくびれる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位へツ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア 15% 赤色 普通	P139 P L22 内面割離痕 覆土中
2	高 坏 土 師 器	A 16.1 B(5.9)	脚部欠損。口部は外傾して立ち上がる。	坏部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 抹 にぶい橙色 普通	P140 P L23 40% 中央部床面
3	埴 土 師 器	A 18.2 B 10.5	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部外面横位へツ磨き。内面横ナデ。体部外面斜位へツ磨き。	長石・石英・雲母 抹・スコリア にぶい橙色 普通	P141 P L23 95% 内面直立状割離痕 中央部床面
4	埴 土 師 器	B(7.1) C 3.3	口縁部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面上端横ナデ。下端へツ磨り後ナデ。	長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P142 P L23 60% 内面割離痕 中央部床面



第49图 第20号住居跡出土遺物実測図(1)



第50図 第20号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 5	壺 土師器	A 15.6 B(6.6)	口縁部片。頸部はくびれ、口縁部は外反する。肉厚の折り返し口縁。	口縁部外面ヘラ磨き。	長石・石英・礫・スコリア・雲母状にふい黄褐色 普通	P145 P.L23 20% 口縁部内面凹凸状刷痕 底面 北部底面
6	壺 土師器	A 14.4 B 21.3 C 4.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形後、ヘラナデ。内面ヘラナデ。体部下位横位ヘラ削り。	石英・雲母・礫にふい黄褐色 普通	P143 P.L23 70% 底面二次火焼痕 外面磨付着 東部覆土下部
7	壺 土師器	A 13.8 B(17.5)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり体部上位に最大径をもつ。頸部はくびれ、口縁部は「S」字状で、上位で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形後、ナデ。内面ヘラナデ。	長石・雲母・スコリアにふい褐色 普通	P144 P.L23 45% 体部 口縁部磨付着 北東部土下層と東部土下層のものが接合
8	壺 土師器	A(17.2) B(4.8)	口縁部片。頸部はくびれ、口縁部は外反しながら「S」字状に曲がる。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部下端にハケ目整形痕。	長石・石英・雲母にふい黄褐色 普通	P146 P.L23 5% 覆土中
9	壺 土師器	A 16.9 B 16.1 C 4.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくびれ、口縁部は外反する。口唇部は横につまみ出している。	口縁部外面横ナデ。内面ハケ目整形。体部外面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリアにふい黄褐色 普通	P147 P.L23 75% 南東部底面
10	壺 土師器	A 16.1 B(18.1)	体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。頸部はくびれる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形。体部に輪痕み痕。	長石・雲母・礫にふい褐色 普通	P148 P.L23 30% 体部磨付着 中央部と南西部覆土出土のもの接合
第50図 11	壺 土師器	A(15.8) B(11.4)	体部は内彎し、頸部はくびれる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	P149 P.L23 30% 西部覆土上層

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第50図12	甌 石	13.7	8.5	4.8	986.8	砂岩	床面	Q33

第21号住居跡 (第51図)

位置 調査区南部, D3hs区。

規模と平面形 長軸3.48m, 短軸(1.60m)。遺構の約3分の2が調査区外である。

主軸方向 N-0°

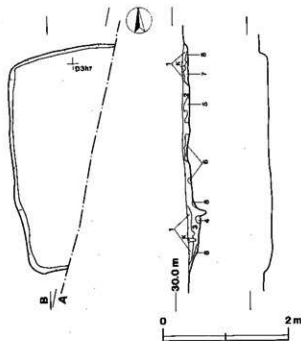
壁 壁高は8~10cmで, 北壁はほぼ垂直に, 南壁は緩やかに立ち上がる。

床 凹凸があり, 木の根による攪乱のため, 床に黒色土が混じった部分が多く見られる。

覆土 暗褐色土が主に堆積し, 覆土中にロームブロックを含む。人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子極少量, ローム小ブロック中量・粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 極暗褐色 | 焼土粒子極少量, ローム中ブロック中量・ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子極少量 |
| 5 明褐色 | ローム小ブロック中量・粒子極少量, 黒色土少量 |
| 6 明褐色 | ローム粒子少量 |
| 7 明褐色 | 黒色土少量 |
| 8 黒褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子中量 |



第51図 第21号住居跡実測図

所見 遺物は出土していないが, 当遺跡の古墳時代

前期の住居跡と規模や内部構造が類似しているため, 古墳 時代前期の住居跡と思われる。

第22号住居跡 (第52図)

位置 調査区中央よりやや南部, D3fs区。

規模と平面形 長軸7.07m, 短軸6.92mの隅丸方形である。

主軸方向 N-58°-W

壁 壁高は25~32cmで, 垂直に立ち上がる。

壁溝 貯蔵穴付近を除き, 周囲している。上幅16cm, 下幅4cm, 深さ6cmで, 断面形は「U」字状である。

床 中央部がやや低く, 南東側の出入り口周辺に硬化面が確認できる。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は主柱穴である。長径28~32cm, 短径22~28cmのほぼ円形で, 深さは88~106cmである。P5は長径26cm, 短径18cmの楕円形で, 深さは58cmの出入り口施設と思われる。

炉 主軸線上やや北西寄りに確認し, 平面形は長径92cm, 短径72cmの楕円形で, 床を8cm掘り込んだ地床炉である。炉の端から炉石が出土している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|------|---|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子極少量, ローム粒子少量, 小石少量 | 4 褐色 | 焼土粒子極少量, 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量・粒子少量, 黒色土少量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子極少量, ローム粒子少量 | | |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子極少量, 炭化粒子極少量, ローム粒子極少量 | | |

貯蔵穴 南コーナー南東壁付近に付設されている。平面形は長径80cm, 短径58cmの長方形で, 深さは38cmである。土層は黒褐色土が主で, 底付近は締まりが強い。断面形は台形状である。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|----------------------------|
| 1 褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子極少量, ローム粒子中量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子極少量, ローム粒子極少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子極少量, 炭化物中量・粒子極少量, ローム小ブロック中量・粒子中量 | 5 暗褐色 | 焼土粒子極少量, 炭化粒子極少量, ローム粒子極少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土小ブロック少量・粒子極少量, 炭化物極少量・粒子少量, ローム粒子中量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子極少量, ローム小ブロック少量・粒子極少量 |
| | | 7 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子極少量, 黒色土少量 |

覆土 黒褐色土が厚く堆積した上に黒色土が堆積しており, 覆土中にはロームブロックが含まれる。中央部は攪乱されている。人為堆積と思われる。

土層解説

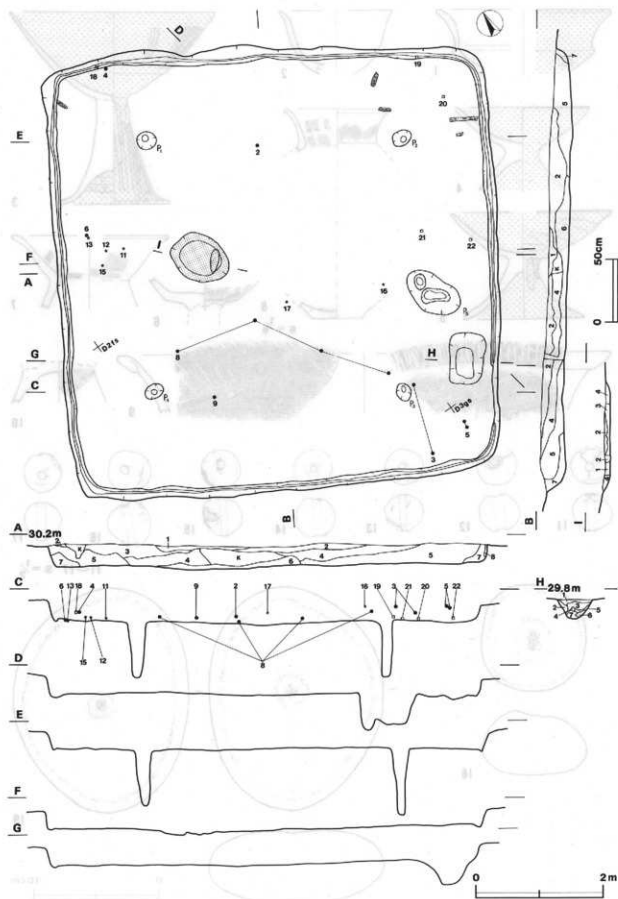
- | | | | |
|--------|--------------------------------|-------|------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子極少量, ローム中ブロック・粒子中量, 黒色粒子少量 | 5 暗褐色 | 焼土粒子極少量, 炭化粒子極少量, ローム小ブロック少量・粒子極少量 |
| 2 黒色 | ローム粒子極少量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム小ブロック中量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子極少量, ローム粒子極少量, 黒色粒子 | 7 黒褐色 | 焼土粒子極少量, ローム小ブロック・粒子中量, 黒色土少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子極少量, ローム粒子中量 | 8 明褐色 | ローム大ブロック多量, 黒色土少量 |

遺物 6の土師器の高坏の坏部片は北西部床面から出土し, 8, 9の甕は覆土下層から出土している。25は十王台式土器の頸部から胴部上位にかけての破片と思われる。

所見 本跡は, 出土遺物から, 古墳時代前期の住居跡である。

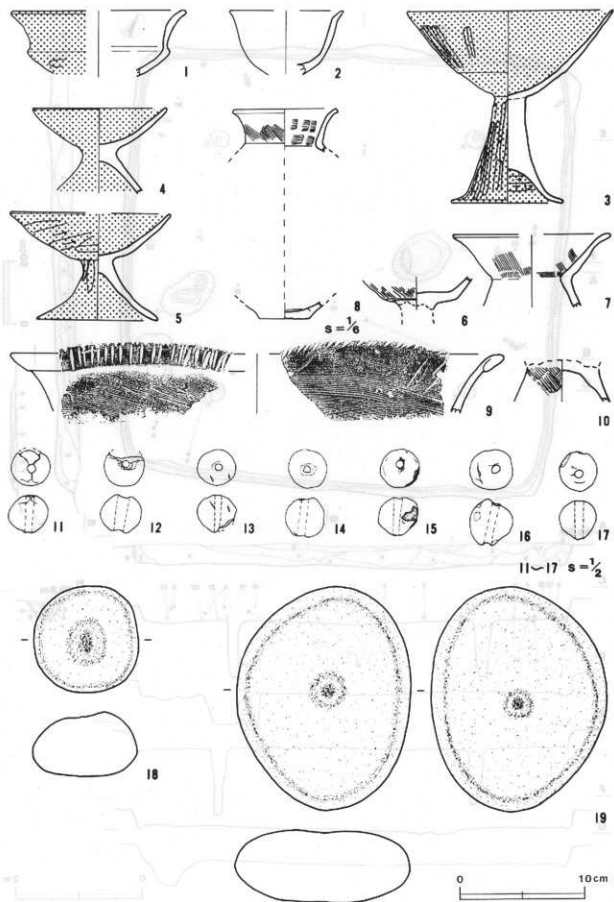
第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(mm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第53図 1	坏 土 師 器	A(14.0) B(5.3)	体部は内脜して立ち上がり, 口縁部は外反する。体部と口縁部の境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 緑・スコリア 褐色 普通	P150 P.L23 15% 西部覆土中
2	坏 土 師 器	A(9.0) B(5.1)	底部欠損。体部は内脜して立ち上がり口縁部は外傾する。	体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 緑 黄色 普通	P151 P.L23 15% 北部覆土中層
3	高 坏 土 師 器	A 16.5 B 15.5 D 9.0 E 8.5	脚部はラップ状に開く。坏部は外傾して立ち上がり, 坏底部と坏部の境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面斜位ヘラ磨き。脚部外面縦位ヘラ磨き。内面ヘラ磨り。内・外面赤彩。	石英・雲母・スコリア 赤色 普通	P152 P.L23 85% 内面斑点状刺蝟痕 南部覆土中層
4	高 坏 土 師 器	A 10.9 B(6.8)	脚部は「ハ」の字状に開く。坏部は外傾して立ち上がる。	坏部内面横ナデ。坏部外面磨減者しいため, 調整不明。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 淡黄色 普通	P153 P.L23 80% 北部覆土中層
5	高 坏 土 師 器	A(12.8) B 18.5 C 9.6	脚部は「ハ」の字状に開く。坏部はわずかに内脜して立ち上がる。	坏部外面ヘラナデ。坏部内面磨減者しいため, 調整不明。脚部外面縦位ヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石・雲母 淡黄色 普通	P154 P.L23 85% 南部覆土上層
6	高 坏 土 師 器	B(2.6)	坏部片。坏部は外傾する。	坏部外面ハケ目整形後, 斜位ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 緑 にぶい褐色 普通	P155 P.L23 20% 坏底部煤付者 北西部床面
7	甕 土 師 器	A(12.6) B(5.8)	口縁部片。頸部はくびれ, 口縁部は外反する。口縁部下縁はわずかに外脜へ膨らむ。	口縁部外面ハケ目整形後, 横ナデ。内面ハケ目整形。	長石・スコリア・雲母 緑 にぶい黄褐色 普通	P156 P.L23 20% 口縁部内面刺蝟痕 東部覆土中
8	甕 土 師 器	A 16.9 B(7.1)	口縁部及び底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。頸部はくびれ, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形後, 横ナデ。	長石・石英・雲母 緑 明赤褐色 普通	P157 P.L24 15% 口縁部内・外面煤付者 西部覆土下層



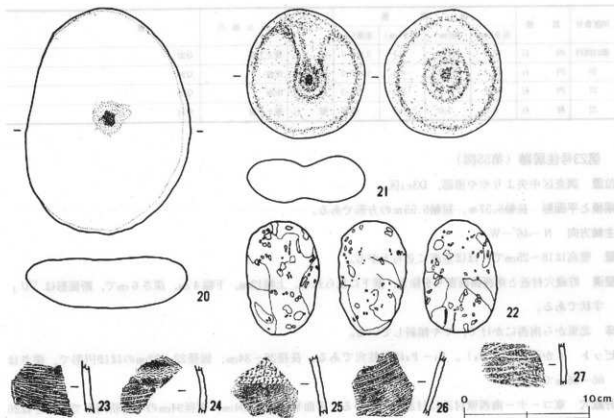
第52图 第22号住居跡实测图

（按国家测绘局《土地测量规范》第二版 图例第



第53图 第22号住居跡出土遺物実測図(1)

國立中央研究院 考古研究所



第54図 第22号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・地成	備考
第53図 9	土師器	A(39.6) B(4.8)	口縁部片。口縁部は上端で折り返し、 外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形。折り返し 部にキザミ目が施されている。	長石・雲母様・ス コリア 灰赤色 普通	P158 P L24 5% 南西部覆土下層
10	台付 土師器	E(3.4)	脚台部片。脚台は「ハ」の字状に開く。	脚台部外面ハケ目整形後、ナデにより 一部ハケ目が消えている。	長石・雲母・スコ リア にぶい黄褐色 普通	P160 P L23 5% 南部覆土中

図版番号	器種	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)	孔径(cm)		
第53図11	土玉	3.1	3.1	-	21.6	0.7	床面	D P13 P L32
12	土玉	3.1	3.3	-	22.1	0.9	床面	D P14 P L32
13	土玉	3.0	3.1	-	22.2	0.6	床面	D P15 P L32
14	土玉	3.2	3.1	-	28.1	0.6	覆土中	D P10 P L32
15	土玉	3.0	3.1	-	24.8	0.6	覆土下層	D P11 P L32
16	土玉	3.7	3.4	-	33.8	0.7	覆土上層	D P12 P L32
17	土玉	3.1	3.0	-	24.7	0.7	覆土上層	D P16 P L32

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第53図18	門石	8.6	8.4	5.2	486.0	砂岩	覆土中層	Q35

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第53回19	四石	17.9	14.0	5.7	2,050.7	砂岩	覆土下層	Q37
20	四石	17.7	13.3	4.0	1,670.2	砂岩	床面	Q38
21	四石	10.3	9.5	3.8	521.3	砂岩	床面	Q39
22	軽石	9.0	7.0	5.5	66.8	軽石	覆土下層	Q41

第23号住居跡 (第55回)

位置 調査区中央よりやや南部, D3e1区。

規模と平面形 長軸5.57m, 短軸5.55mの方形である。

主軸方向 N-46°-W

壁 壁高は18~25cmで, ほゞ垂直に立ち上がる。

壁溝 貯蔵穴付近と南西側西寄りを除き, 壁下に見られる。上幅12cm, 下幅4cm, 深さ6cmで, 断面形は「U」字状である。

床 北東から南西にかけて, やや傾斜している。

ピット 4か所 (P1~P4)。P1~P4は主柱穴である。長径26~34cm, 短径22~32cmのほぼ円形で, 深さは66~86cmである。

貯蔵穴 東コーナー南西壁付近に付設されている。平面形は長径104cm, 短径94cmの不整楕円形で, 深さは26cmである。黒褐色土が主として堆積している。底は凹凸があり, 壁は緩やかに立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子極少量, ローム粒子中量 | 5 暗褐色 焼土粒子極少量, 炭化粒子極少量, ローム粒子極少量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量, 白色粒子少量 | 6 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 炭化粒子極少量, ローム粒子少量 | 7 褐色 ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子中量 | 8 褐色 炭化粒子極少量, ローム粒中量 |

覆土 黒褐色土層の間に黒褐色土が厚く堆積しており, 黒褐色土中には白色粒子が含まれている。自然堆積である。

土層解説

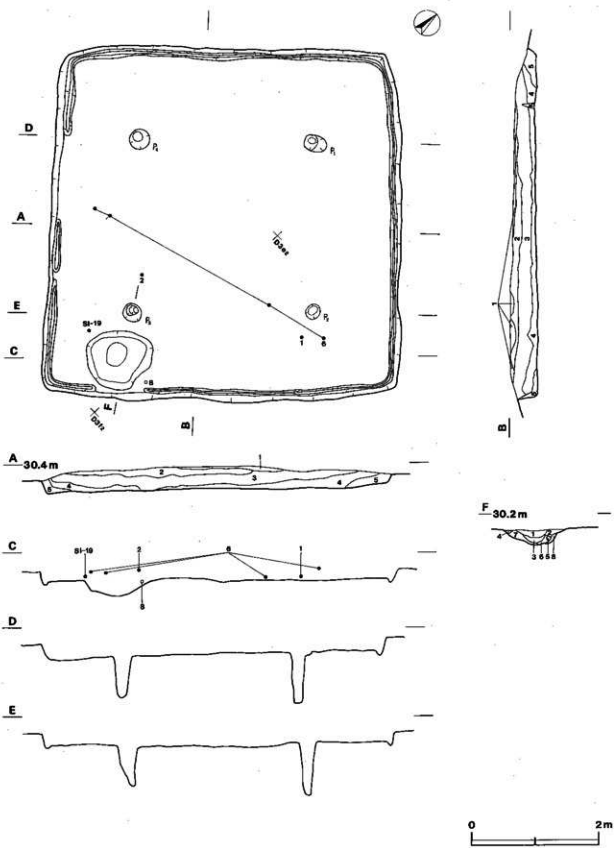
- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量 | 4 黒褐色 焼土粒子極少量, 炭化粒子極少量, ローム中ブロック |
| 2 黒褐色 焼土粒子極少量, ローム粒子極少量, 白色粒子少量 | 中量・粒子少量, 白色粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子極少量, ローム中ブロック・小ブロック・粒 | 5 黒褐色 炭化粒子極少量, ローム小ブロック極少量・粒子中量 |
| 少量 | |

遺物 貯蔵穴から土師器片が出土している。他の遺物はすべて覆土中からの出土である。2の坏は南部から出土している。

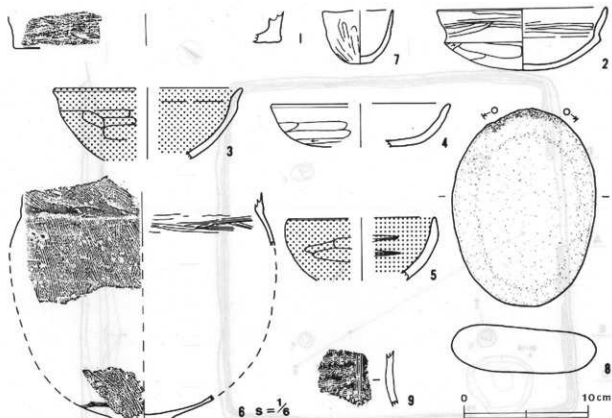
所見 本跡は, 出土遺物から, 古墳時代前期の住居跡である。

第23住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56回 1	広口甕 弥生式土器	B(14.2) C(21.4)	底面片。底面外面に, 胴体が附加条2條(附加1条)の縄文が施される。内面 摩滅著しいため, 調整不明。	赤褐色 良好	P275 P L24 5% 南部覆土下層



第55图 第23号住居跡実測图



第56図 第23号住居跡出土遺物実測・拓影図

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56図 2	坏 土師器	A 13.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部と頸部に明瞭な稜をもち、口縁部は内彎しながら外傾する。	口縁部内・外面横位へラ磨き。体部外面へラナデ。	石英・雲母 赤褐色 普通	P 161 P L 24 65% 内・外面制繩痕 南部覆土上層
		B 5.0				
3	坏 土師器	A [15.2]	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P 162 P L 24 35% 覆土中
		B (5.8)				
4	坏 土師器	A [14.4]	体部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部上端へラナデ。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P 163 P L 24 20% 覆土中
		B 3.5				
5	坏 土師器	A [11.6]	体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ後、横位へラ磨き。内面横位へラ磨き。内・外面赤彩。	長石・雲母・礫 明赤褐色 普通	P 164 P L 24 15% 覆土中
		B (5.0)				
6	嬰 土師器	B [36.6]	底部、体部。体部は内彎し、頸部はくびれる。	口縁部内・外面及び体部外面ハケ目整形。内面ナデ。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P 165 P L 24 10% 内面斑点状制繩痕 南部と西部覆土中特設土 のもの整合
		A [5.7] B 4.3 C 2.1	平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横ナデ。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P 167 P L 24 60% 埋付着 覆土中

図版番号	器種	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第56図8	磨石	15.8	11.7	3.9	1,032.8	砂岩 体面	Q42 P L 32	

第24号住居跡（第57図）

位置 調査区はほぼ中央部，D3b2区。

規模と平面形 長軸5.12m，短軸5.05mの方形である。

主軸方向 N-50°-W

壁 壁高は25~54cmで，垂直に立ち上がる。

壁溝 貯蔵穴付近を除き，壁下に見られる。上幅12cm，下幅3cm，深さ6cmで，断面形は「V」字状である。

床 南東側入り口ピット付近がやや高くなっているが，あとは平坦で，全面硬い。

ピット 5か所（P₁~P₅）。P₁~P₄は柱穴である。長径24~30cm，短径20~28cmのほぼ円形で，深さは50~70cmである。P₅は径26cmの円形で，深さ18cmの出入り口施設である。

炉 主軸線上やや北西寄りに確認し，平面形は長径76cm，短径42cmの不整形円形で，床を4cm掘り込んだ地床炉である。炉の中央から炉石が出土している。

炉土層解説

- | | |
|--------------------------------------|--|
| 1 暗赤褐色 焼土小ブロック少量・粒子中量，炭化粒子微量，ローム粒子少量 | 2 暗赤褐色 焼土大ブロック少量・中ブロック少量・粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子少量 |
| | 3 明褐色 ローム粒子多量 |

貯蔵穴 南コーナー南東壁付近に付設されている。平面形は長径74cm，短径60cmの長方形で，深さは12cmである。土層は褐色土の上に黒色土が堆積している。底は丸く，壁は緩やかに立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子極少量，ローム小ブロック極少量・粒子少量，白色粒子少量 | 3 暗褐色 ローム小ブロック極少量，黒色土少量 |
| 2 褐色 ローム粒子極少量，黒色土少量 | 4 褐色 ローム粒子中量，黒色土粒子少量 |

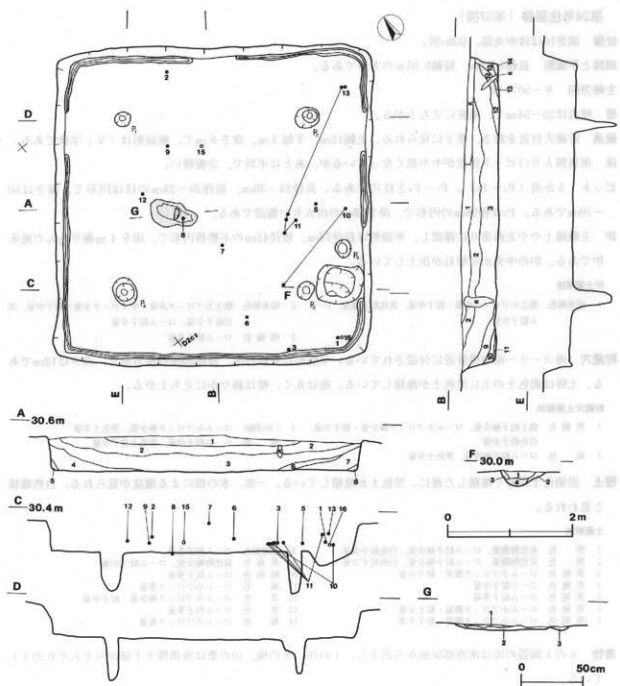
覆土 黒褐色土が厚く堆積した後に，黒色土が堆積している。一部，木の根による攪乱が見られる。自然堆積と思われる。

土層解説

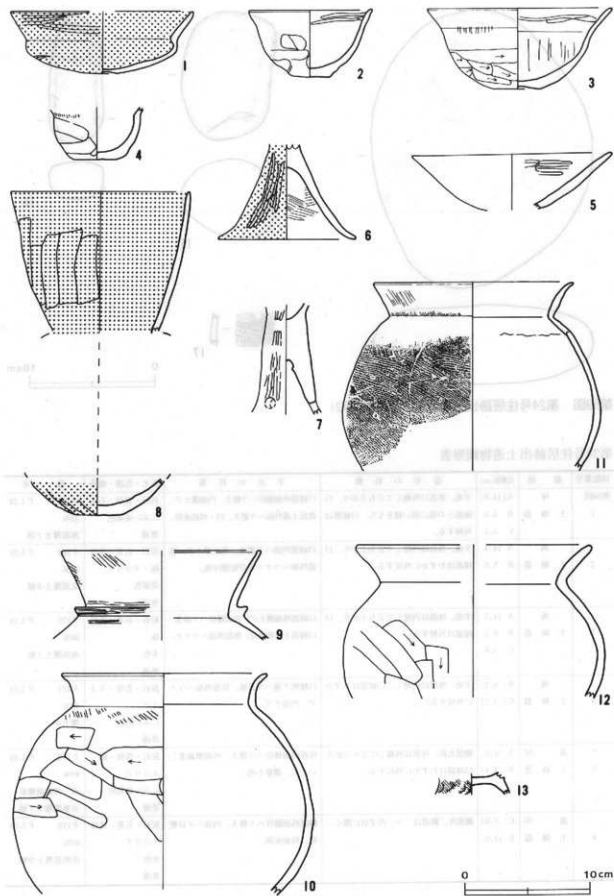
- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1 黒色 炭化物微量，ローム粒子極少量，白色粒子少量 | 8 極暗褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒色 炭化物微量，ローム粒子極少量，白色粒子少量 | 9 黒褐色 炭化物極少量，ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 ローム小ブロック微量・粒子中量 | 10 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子中量 | 11 褐色 ローム小ブロック多量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子多量 | 12 黒色 ローム少ブロック極少量・粒子中量 |
| 6 黒褐色 ローム小ブロック微量・粒子少量 | 13 黒色 ローム粒子多量 |
| 7 黒褐色 ローム小ブロック微量・粒子少量 | 14 褐色 ローム小ブロック多量 |

遺物 8の土師器の埴は南西部床面から出土し，1の坏，3の埴，10の甕は南部覆土下層からそれぞれ出土している。

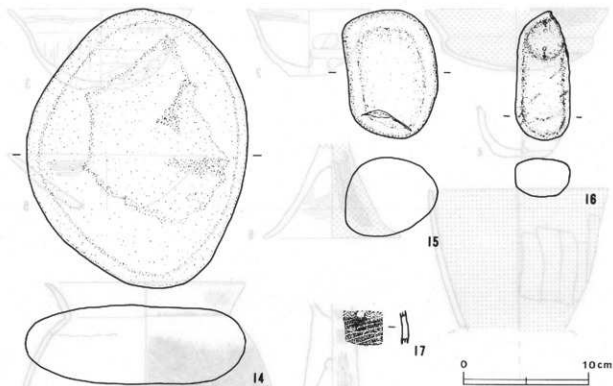
所見 本跡は，出土遺物から，古墳時代前期の住居跡である。



第57图 第24号住居跡実測図



第58图 第24号住居跡出土遺物実測図(1)



第59図 第24号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第58回 1	土師器	A [14.6]	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもち、口縁部は外傾する。	口縁部外面横位へう巻き。内面横ナデ。体部上端外面へう巻き。内・外面赤彩。	長石・雲母・石英 にぶい赤褐色 普通	P168 P L 24 45% 南西部土下層
		B 5.0				
		C 2.2				
2	土師器	A 14.4	平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面へう巻き。外面横ナデ。体部外面へう巻き及び指頭圧痕。	長石・石英・雲母 漆・スコリア 淡黄色 普通	P169 P L 24 80% 北部覆土中層
		B 5.0				
3	土師器	A 14.7	平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部外面横ナデ。内面横位へう巻き。口縁部下端指目痕。体部外面へう巻き。	長石・石英・雲母 漆 赤色 普通	P170 P L 24 80% 南西部土下層
		B 6.5				
		C 3.8				
4	土師器	B [4.2]	平底。体部は内傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部下端ハケ目痕。体部外面へう巻き。内面ナデ。	長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P171 P L 24 40% 覆土中
		C [3.2]				
5	高土師器	A 16.0	脚部欠損。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	坏部内面横位へう巻き。外面摩滅甚しいため、調整不明。	長石・雲母・礫・スコリア にぶい黄褐色 普通	P172 P L 24 40% 内・外面割離痕 南西部覆土下層
		B [4.4]				
6	高土師器	C [7.6]	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部外面横位へう巻き。内面ハケ目整形。外面赤彩。	長石・石英・雲母 スコリア 赤色 普通	P173 P L 24 40% 南西部覆土中層
		E 11.0				

図版番号	器 種	計測値(m)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第58図 7	高 坏 土 師 器	E(8.9)	胴部片。胴部は中位でわずかに内彎気味に下方に広がる。下位に3か所穿孔。	胴部外面縦位ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P174 P L24 30% 二次火熱痕 中央部覆土下層
8	埴 土 師 器	A 14.4 B(25.8) C 3.4	口縁部及び底部。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は中位から上位にかけて内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面縦位磨き。口縁部上端内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。口縁部内・外面及び体部外面ホヤ。	長石・石英・雲母 赤・スコリア 明赤褐色 普通	P180 P L24 60% 南西部床面
9	甕 土 師 器	A 16.0 B(7.1)	口縁部片。頸部に段をもち、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形後、横ナデ。体部上端外面ハケ目整形後、ナデ。	長石・雲母・長石 にふい褐色 普通	P175 P L24 5% 中央部覆土下層
10	甕 土 師 器	A 16.5 B 17.7	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり頸部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。体部上端にハケ目整形痕。	長石・石英・雲母 赤・スコリア 赤褐色 不具	P176 P L24 65% 体部外面煤付着 南部覆土下層
11	甕 土 師 器	A 15.9 B(15.1)	頸部はくびれ、口縁部は外反する。体部は内彎する。	口縁部内外面横ナデ。口縁部外面ハケ目整形後、横ナデ。体部外面ハケ目整形。	長石・雲母 にふい褐色 普通	P177 P L24 30% 南部覆土下層
12	甕 土 師 器	A(18.4) B(12.3)	口縁部一休部。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P178 P L25 15% 中央部覆土下層
13	台 付 甕 土 師 器	B(1.9)	胴部片。胴部は「ハ」の字状に開く。	胴部外面ハケ目整形。	長石・雲母 にふい褐色 普通	P179 P L24 5% 二次火熱痕 東部覆土下層

図版番号	器 種	計 測 値				石質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第59図14	石 重	22.5	17.6	6.4	3,479.9	砂 岩	貯蔵穴	Q67
15	磨 石	10.3	7.3	6.4	726.3	キルツェルス	覆土中層	Q76
16	磨 石	10.3	4.4	3.0	208.5	砂 岩	覆土下層	Q77

第25号住居跡 (第60図)

位置 調査区中央よりやや南東部、D3d7区。

規模と平面形 長軸5.15m、短軸5.12mの隅丸方形で、壁がやや外側へ影らんでいる。

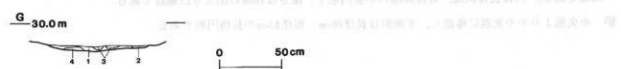
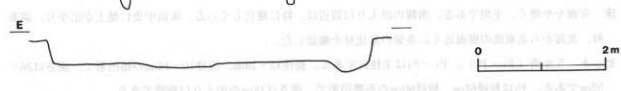
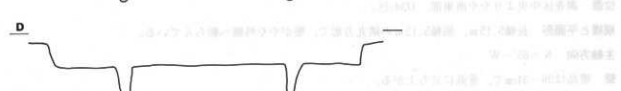
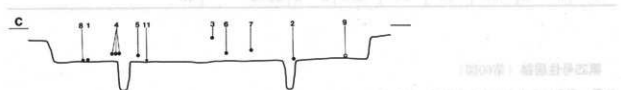
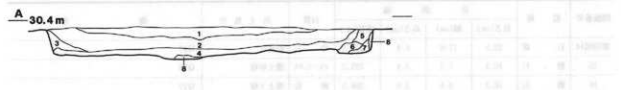
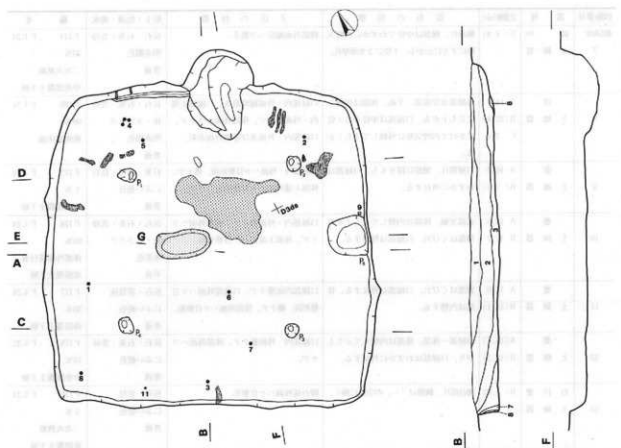
主軸方向 N-65°-W

壁 壁高は26-34cmで、垂直に立ち上がる。

床 全面やや硬く、平坦である。南側の出入り口周辺は、特に硬化している。床面中央に焼土が広がり、調査時、北部から北東部の壁面近くに多量の炭化材を確認した。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は主柱穴である。長径12-18cm、短径10-12cmの楕円形で、深さは26-52cmである。P₅は長径64cm、短径60cmの不整円形で、深さは18cmの出入り口施設である。

炉 中央部よりやや北西に確認し、平面形は長径86cm、短径43cmの長楕円形である。



第60图 第25号住居跡実測图

伊土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子極少量
 2 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子少量、ローム粒子中量
 3 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子極少量
 4 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量

覆土 黒褐色土が厚く堆積し、堆積状態から自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子極少量
 2 暗褐色 焼土粒子極少量、ローム粒子少量、白色火山灰粒子中量
 3 黒褐色 ローム粒子極少量、白色火山灰粒子少量
 4 黒色 焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子少量
 5 黒褐色 炭化粒子極少量、ローム粒子極少量、白色火山灰粒子微量
 6 黒褐色 焼土粒子極少量、ローム粒子少量
 7 黒褐色 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム粒子中量
 8 褐色 ローム粒子中量

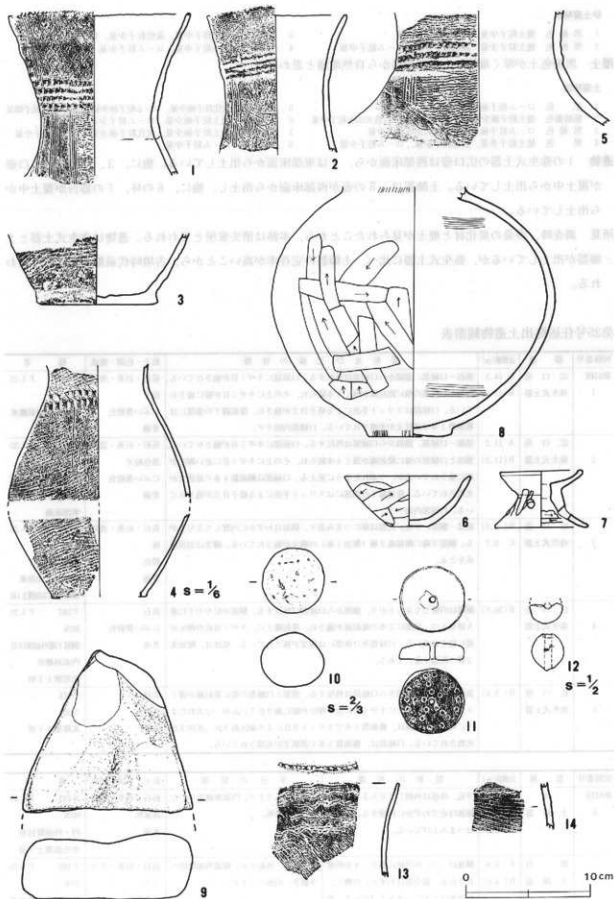
遺物 1の弥生式土器の広口壺は西部床面から、2は東部床面から出土している。他に、3、4、5の広口壺が覆土中から出土している。土師器は、8の壺が西部床面から出土し、他に、6の坏、7の器台が覆土中から出土している。

所見 調査時、多量の炭化材と焼土が見られたことから、本跡は消失家屋と思われる。遺物は弥生式土器と土師器が出土しているが、弥生式土器に比べ、土師器の完存率が高いことから、古墳時代前期の住居跡と思われる。

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第61図 1	広口壺 弥生式土器	A 14.5 B (13.0)	頸部一口縁部。頸部から口縁部は外反する。口唇部にキザミ目が施されている。頸部と口縁部の境に隆起線が薄く4本貼られ、その上にキザミ目が縦に施されている。口縁部はスリット手法による格子目文が施され、隆起線下の頸部には横歯数3本で波状文が充填されている。口縁部内面ナデ。	灰石・石英・黒色 粒子 にふい黄褐色 普通	P184 P.L.25 35% 口縁部内面斜線状 西部床面
2	広口壺 弥生式土器	A 11.2 B (11.2)	頸部一口縁部。頸部から口縁部は外反する。口唇部にキザミ目が施されている。頸部と口縁部の境に隆起線が薄く4本貼られ、その上にキザミ目に近い押圧が縦に施されているが、つぶれたように見える。口縁部は横歯数4本で波状文が充填されている。隆起線下の頸部にはスリット手法による格子目文が施されている。口縁部内面ナデ。	灰石・石英・雲母 黒色粒子 にふい黄褐色 普通	P185 P.L.25 35% 口縁部内面斜線状 外側付着 二次火熱痕 東部床面
3	広口壺 弥生式土器	B (5.6) C 9.7	頸部一口縁部。平底。底部は横につまみ出す。頸部はわずかに内彎して立ち上がる。胴部下縁に附加条2種(附加1条)の縄文が施されている。縄文は羽状構成をとる。	灰石・石英・雲母 赤 褐色 普通	P186 P.L.25 10% 内面斜線状 外面二次火熱痕 前面入り状覆土層
4	広口壺 弥生式土器	B (36.5)	頸部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。胴部中位やや下に最大径をもつ。頸部に2本の隆起線が施され、隆起線の上に、キザミ目状の押圧が縦に施されている。口縁部及び体部には縄文が施されている。原体は、附加条2種(附加1条)である。	灰石 にふい黄褐色 普通	P187 P.L.25 30% 胴部下端外縁附着 内面斜線状 北部覆土下層
5	広口壺 弥生式土器	B (9.4)	頸部一口縁部。頸部から口縁部は外反する。頸部と口縁部の境に隆起線が薄く3本貼られ、その上にキザミ目に近い押圧が縦に施されているが、つぶれたように見える。頸部は、横歯数5本でスリット手法により縦区画され、波状文が充填されている。口縁部は、横歯数5本で波状文が充填されている。	雲母 灰白色 普通	P276 5% 北部覆土下層

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第61図 6	坏 土師器	A 10.2 B 4.0 C 3.0	平底。体部は外彎して立ち上がり、口縁部付着でわずかに内彎する。口唇部はつまみ上げている。	体部外側ヘラナデ。内面磨滅著しいため、調整不明。	灰石・石英・雲母 淡黄色 普通	P181 P.L.25 60% 内・外面付着 中央部覆土下層
7	器台 土師器	A 6.6 B (4.6)	脚部は「ハ」の字状に開き、4か所穿孔される。器受部はわずかに内彎し、口唇部は上方につまみ上げている。器受部底部は縦に穿孔される。	器受部内・外面ナデ。脚部外側縦位ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	灰石・石英・スコリア 浅黄褐色 普通	P182 P.L.25 70% 器受部内面磨滅付着 中央部覆土中層



第61图 第25号住居跡出土遺物実測・拓影图

図版番号	器 種	寸法(m)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第61図 8	土 師 器	B(20.1) C 6.3	平底。体部は内脣して立ち上がり、中に最大径をもつ。	口唇部にハケ目整形痕。体部外面ハケ目整形痕。ヘラナデ。内面ハケ目調整。底部側面にハケ目整形痕。	長石・雲母 にふい黄褐色 普通	P 183 P L 25 80% 外面斜線痕 西側床面

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第61図9 10	石 皿 不明石製品	13.0 2.7	13.5 2.5	5.3 2.2	1,340.4 18.8	砂 岩 砂 岩	床面 覆土中	Q68 Q69

図版番号	器 種	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第61図11 12	紡 錘 車 土 玉	5.1 3.0	5.3 2.1	1.4 -	0.5 0.5	42.0 8.7	床面 覆土中	D P 17 P L 32 D P 18 P L 32

第26号住居跡 (第62図)

位置 調査区中央部, C3j1区。

規模と平面形 長軸5.06m, 短軸4.91mの隅丸方形で, 南東コーナーがやや外へ影らんでいる。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は8~30cmで, 垂直に立ち上がる。

壁溝 貯蔵穴から出入り口施設ピット付近は擾乱のため確認できないが, 北西コーナー部を除き, 壁下に見られる。上幅12cm, 下幅4cm, 深さ6cmで, 断面形は「U」字状である。

床 全面やや硬く, 平坦である。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は主柱穴である。長径24~34cm, 短径24~30cmの円形で, 深さは44~58cmである。P5は長径74cm, 短径60cmの不整楕円形で, 深さは21cmの出入り口施設である。

貯蔵穴 南西コーナー付近に付設されている。長径130cm, 短径100cmで, 深さは36cmである。底部中央が深く壁はコーナー付近が垂直に立ち上がり, 他は緩やかに立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1 極暗褐色 焼土粒子極少量, ローム粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量 | 5 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | 6 褐色 ローム粒子少量 |

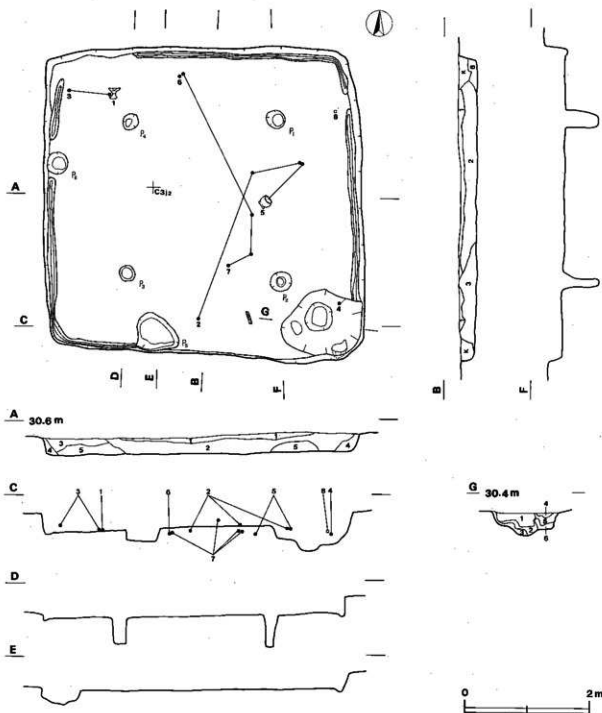
覆土 黒褐色土の上に黒色土が堆積し, 覆土中にロームブロックを含む。人為堆積である。

土層解説

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1 黒色 ローム粒子極少量, 白色粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子極少量, 黒色土, 白色粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子極少量, ローム小ブロック中量・粒子中量, 白色粒子少量 | 5 極暗褐色 ローム中ブロック中量 |
| 3 極暗褐色 焼土粒子極少量, 炭化粒子極少量, ローム小ブロック極少量・粒子中量, 白色粒子少量 | 6 黒褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム小ブロック中量・粒子中量 |

遺物 5, 6, 7の土師器の甕はそれぞれ床面から出土している。他には, 1, 2の高坏, 3の塔が覆土下層から出土している。4の壺は貯蔵穴からはほぼ完形で出土している。

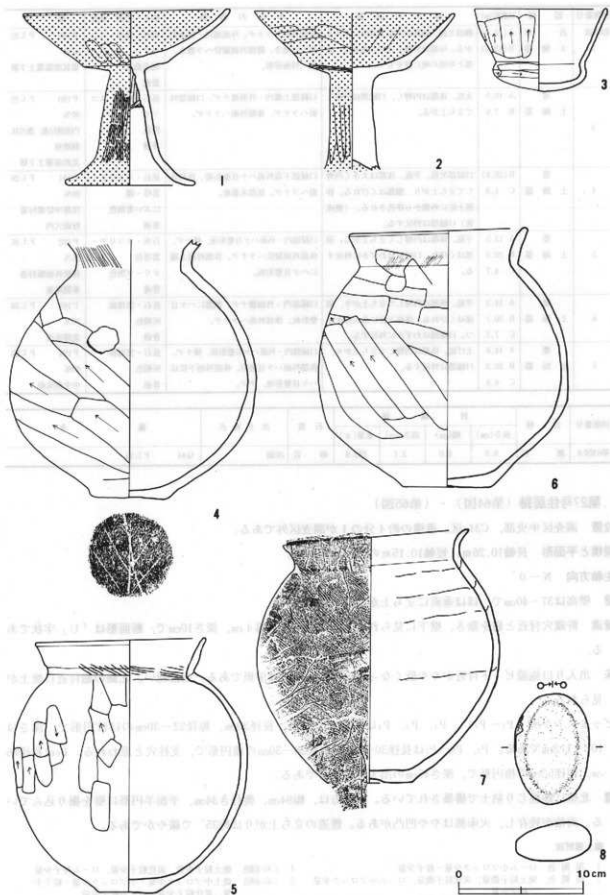
所見 本跡は, 出土遺物から, 古墳時代前期の住居跡である。



第62図 第26号住居跡実測図

第26号住居跡出土物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第63図 I	高 土 師 器	A 16.4	胴部は中空で、ワッパ状に筒き、坏部に稜をもつ。口縁部はわずかに内彎する。	坏部下縁外面ヘラナゲ後、横位ヘラ磨き。胴部外面ハケ目整形後、ナゲ。裾部外面ハケ目整形後、縦位ヘラナゲ。内・外面赤彩。	灰石・雲母沫・ス コリア 明赤褐色 良好	P188 P L25 90 % 北西部覆土下層
		B 14.3				
		C 10.3				
		E 9.2				



第63图 第26号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第64図 2	高坏 土師器	A(16.0) B(12.6)	頸部欠損。頸部は中央で垂直に立ち上がる。坏部は外傾して立ち上がり、底部と坏部の境に段をもつ。	坏部外面ヘラナデ。坏底部内・外面位ヘラナデ。坏部外面位ヘラナデ。坏部内・外面赤彩。	灰石・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P189 P L25 60% 東部南部覆土下層
3	埴 土師器	A 10.5 B 7.6	丸底。体部は内彎し、口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部上端内・外面横ナデ。口縁部外面ヘラナデ。体部外面ヘラナデ。	灰石・石英・スコリア リリア 褐色 普通	P190 P L25 90% 内面附付着、斑点状 剥離痕 北西部覆土下層
4	壺 土師器	B(20.8) C 4.9	口縁部欠損。平底。体部は大きく内彎して立ち上がり、頸部はくびれる。体部上位に外側から穿孔される。(焼成後)口縁部は外反する。	口縁部下端外面ハケ目整形痕。体部外面ヘラナデ。底部木炭痕。	灰石・スコリア・ 雲母・糠 にぶい黄褐色 普通	P191 P L26 90% 体部中位煤付着 貯蔵穴内
5	壺 土師器	A 13.5 B 20.3 C 4.7	平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくびれ、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形痕。横ナデ。体部外面位ヘラナデ。体部外面上位にハケ目整形痕。	石英・スコリア・ 雲母 オリーブ黒色 普通	P192 P L26 95% 体部外面煤付着 東部床面
6	壺 土師器	A 14.3 B 20.7 C 7.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくびれる。体部下に最大径をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部にハケ目整形痕。体部外面ヘラナデ。	灰石・雲母 灰褐色 普通	P193 P L26 70% 北東部床面
7	壺 土師器	A 14.8 B 20.3 C 6.8	上唇隆。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形痕。横ナデ。体部外面ハケ目整形。体部外面下位はハケ目整形痕、ナデ。	灰石・雲母 灰褐色 普通	P194 P L26 40% 中央部床面

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	重量(g)			
第63図8	磨石	8.9	6.0	3.1	233.8	砂岩	床面	Q44 P L31

第27号住居跡(第64図)・(第65図)

位置 調査区中央部、C3f1区。遺構の約4分の1が調査区外である。

規模と平面形 長軸10.26m, 短軸10.15mの方形状である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は37~40cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 貯蔵穴付近と竈を除き、壁下に見られる。上幅12cm, 下幅4cm, 深さ10cmで、断面形は「U」字状である。

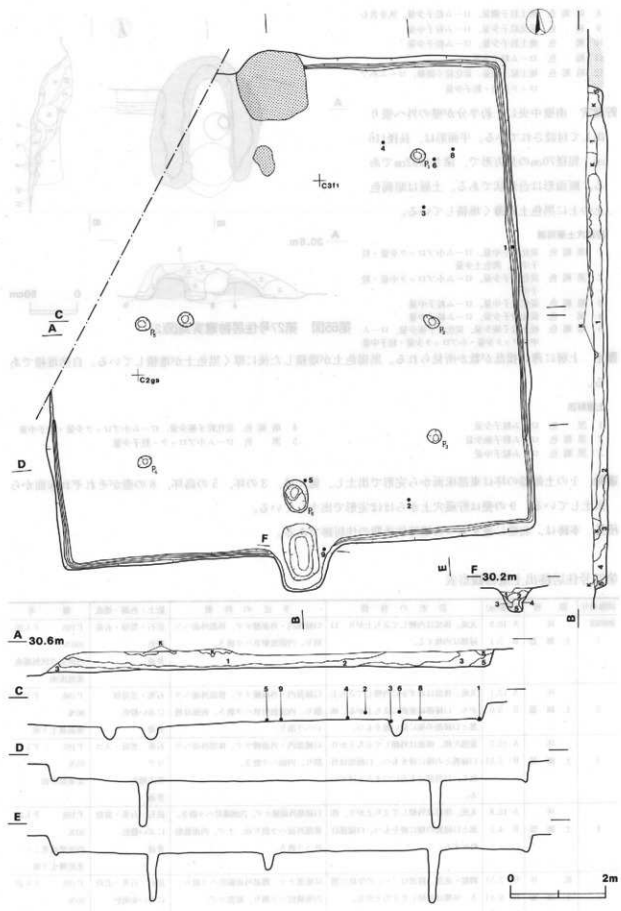
床 出入口口施設ピット付近がやや低くなっているが、あとは平坦である。全面硬い。北側の竈付近に焼土が見られる。

ピット 7か所(P1~P7)。P1, P3, P4は主柱穴である。長径30cm, 短径22~30cmのほぼ円形で、深さは102~112cmである。P2, P5, P7は長径30~36cm, 短径26~30cmの楕円形で、支柱穴と思われる。P6は長径66cm, 短径52cmの楕円形で、深さ45cmの出入口口施設である。

竈 北壁に砂混じり粘土で構築されている。掘り方は、幅94cm, 奥行き34cm, 平面半円形に壁を掘り込んでい。両袖が残存し、火床部はやや凹凸がある。煙道の立ち上がりは約35°で緩やかである。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|---------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量・粒子少量 | 4 濃い赤褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子少量、ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子微量、炭化粒子微量、ローム小ブロック少量・粒子少量 | 5 濃い赤褐色 | 焼土中ブロック少量・小ブロック少量・粒子少量、炭化粒子少量、ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子微量、炭化粒子微量、ローム小ブロック少量・粒子少量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子少量 |
| | | 7 赤褐色 | 焼土粒子多量、ローム粒子微量 |



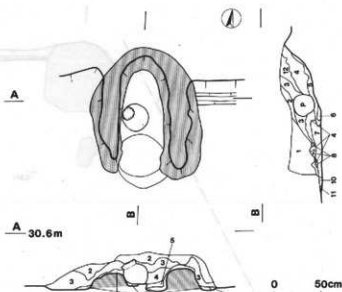
第64図 第27号住居跡実測図(1)

- 8 暗褐色 焼土粒子微量, ローム粒子少量, 灰を含む
 9 褐色 炭化粒子少量, ローム粒子中量
 10 褐色 焼土粒子少量, ローム粒子少量
 11 褐色 ローム粒子少量
 12 暗褐色 焼土粒子微量, 炭化粒子微量, ローム小ブロック少量・粒子少量

貯蔵穴 南壁中央に、約半分が壁の外へ張り出して付設されている。平面形は、長径116cm、短径70cmの長方形で、深さは52cmである。断面形は台形状である。土層は暗褐色土の上に黒色土が薄く堆積している。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量・粒子中量, 黒色土少量
 2 黒褐色 炭化粒子少量, ローム小ブロック中量・粒子中量
 3 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子中量
 4 褐色 炭化粒子少量, ローム粒子中量
 5 暗褐色 焼土粒子極少量, 炭化粒子極少量, ローム小ブロック少量・小ブロック少量・粒子中量



第65図 第27号住居跡電実測図(2)

覆土 上層に薄い擾乱が数か所見られる。黒褐色土が堆積した後には厚く黒色土が堆積している。自然堆積である。

土層解説

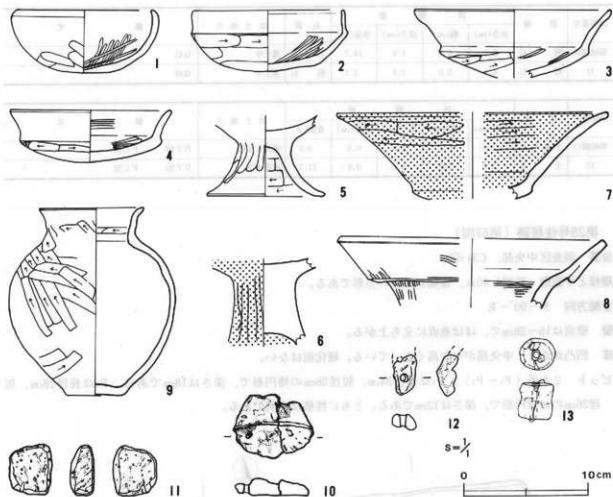
- 1 黒色 ローム粒子少量
 2 黒褐色 ローム粒子極少量
 3 黒褐色 ローム粒子中量
 4 暗褐色 炭化粒子極少量, ローム小ブロック少量・粒子中量
 5 黒色 ローム小ブロック・粒子少量

遺物 1の土師器の坏は東部床面から完形で出土し, 他には, 3の坏, 5の高坏, 8の甕がそれぞれ床面から出土している。9の甕は貯蔵穴上からは完形で出土している。

所見 本跡は、北壁に竈をもつ古墳時代後期の住居跡である。

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第66図 1	土師器	A 10.9	丸底。体部は内脣して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り。内面放射状へう巻き。	長石・雲母・石英 褐色 普通	P195 P L26 100% 内面頂点状剝離痕 東部床面
		B 5.1				
2	土師器	A 12.1	丸底。体部はわずかに内脣して立ち上がり、口縁部は垂直に立ち上がる。体部と口縁部の境に縦い線をもち。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り。内面放射状へう巻き。底部は軽いへう割り。	石英・雲母 にぶい褐色 普通	P196 P L26 80% 南部履土下層
		B 5.0				
3	土師器	A 15.7	底面欠損。体部は外脣して立ち上がり口縁部との境に横をもつ。口縁部は外反し、口脣部は上方につまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう割り。内面へう巻き。	石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P197 P L26 65% 北東部床面
		B(5.5)				
4	土師器	A 12.8	丸底。体部は外脣して立ち上がり、体部と口縁部の境に横をもつ。口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。内面横位へう巻き。体部外面へう割り後、ナデ。内面放射状へう巻き。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P198 P L26 50% 内面摩滅著しい 北部履土下層
		B 4.2				
5	高土師器	B(7.5)	脚部一底面。脚部は「ハ」の字状に囲き、坏部は外脣して立ち上がる。	坏底部ナデ。脚部外面横位へう割り。内面横位へう割り。帯部ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P199 P L26 60% 南部床面
		D(9.4)				
		E 4.5				



第66図 第27号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	口径(φ)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第66図 6	高土師器	B(6.9)	頸部片。頸部は中央で、わずかに開いて下がる。	坯底部ナデ。頸部外面縦位ヘラ削り。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	P200 P L26 25% 北東部覆土中層
7	高土師器	A 21.6 B(6.9)	口縁部片。坯部と口縁部の境に稜をもち、口縁部は外反する。口唇部は折り返す。	口縁部外面横位ヘラナデ。内面横位ヘラ削り。内・外面赤彩。	長石・雲母・スコリア 赤色 普通	P202 P L26 25% 覆土上層
8	土師器	B(7.5) C(8.0)	口縁部片。口縁部は折り返し、断面形は「S」字状で、上位でわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内・外面下端にハケ目整形痕。	長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P203 P L26 10% 外面に煤付着 北東部床面
9	壺	A 15.9 B 30.2 C 9.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、中位で最大径をもち、頸部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。内面横位ヘラ削り。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・石英・スコリア・礫 にぶい赤褐色 普通	P201 P L26 90% 体部から底部に煤付着 口縁部、体部内面剥離痕 野島穴上

図版番号	器種	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第66図10	軽石	5.1	6.5	1.4	14.7	石灰岩	覆土中	Q45
11	軽石	4.0	3.5	1.8	4.1	軽石	覆土中	Q46

図版番号	器種	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第66図12	土製与玉	(1.6)	0.9	0.6	0.3	0.9	電覆土層	DP19 F.L32
13	土玉	2.4	2.9	3.4	0.6	21.3	電覆土中	DP20 F.L32

第28号住居跡（第67図）

位置 調査区中央部，C3i7区。

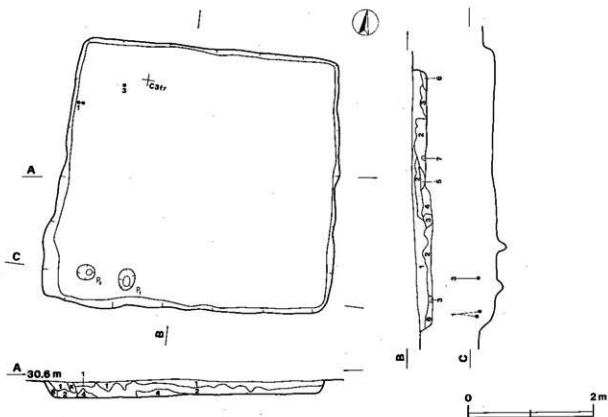
規模と平面形 長軸4.40m，短軸4.18mの方形である。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は15-28cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 凹凸があり，中央部がやや高くなっている。硬化面はない。

ピット 2か所（P₁-P₂）。P₁は長径34cm，短径26cmの楕円形で，深さは18cmである。P₂は長径28cm，短径26cmのほぼ円形で，深さは12cmである。ともに性格は不明である。



第67図 第28号住居跡実測図

覆土 3、7層以外に焼土粒子を含む。人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|---------|-----------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック少量 | 4 褐色 | 焼土粒子極少量、ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子少量、白色粒子少量 | 5 にぶい褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子少量 |
| 3 褐色 | 焼土粒子極少量、ローム粒子中量、白色粒子少量 | 6 褐色 | 焼土粒子極少量、ローム粒子中量 |
| | 炭化粒子極少量、ローム粒子極少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物 遺物はすべて覆土中からの出土である。1の土師器の埴と3の甕は北西部から出土している。

所見 本跡は、古墳時代前期の住居跡である。



第68図 第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第68図 1	埴 土師器	A(17.0)	口縁部片。口縁部は外反し、中位に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	灰石・雲母抹	P204 P.L26
		B(6.2)			赤褐色 普通	25% 北西部覆土上層
2	壺 土師器	A 9.2	口縁部片。口縁部は外反し、口唇部を稜につまみ出している。	口縁部外面斜位ハケ目整形。内面横位ハケ目整形。	灰褐色	P.205 P.L26
		B(3.0)			普通	25% 覆土中
3	甕 土師器	A(16.0)	口縁部片。頸部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘクナデ。	石英・雲母・礫	P.206 P.L26
		B(4.8)			黒褐色 普通	5% 北西部覆土上層

第29号住居跡 (第69図)

位置 調査区中央部、C3gs区。

規模と平面形 長軸6.39m、短軸6.25mの方形である。

主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は20~28cmで、ゆるやかに立ち上がる。

壁溝 北西コーナー部を除き、壁下に見られる。上幅14cm、下幅6cm、深さ6cmで、断面形は「U」字状である。

間仕切り溝 西壁南西コーナー付近に1条(a)。長さ96cm、上幅14cm、下幅8cmで、断面形は「U」字状である。

床 平坦である。主柱穴を結ぶ線はほぼ正方形になり、内側は硬い。

ピット 6か所(P1~P6)。P1~P4は主柱穴である。長径34~42cm、短径22~40cmの楕円形で、深さは90~102cmである。P5は長径50cm、短径46cmの楕円形で、深さは26cmの出入り口施設である。P6は径30cmの円形で、性格は不明である。

炉 主軸線上中央部よりやや北側に炉1が、南東側に炉2を確認した。炉1は長径80cm、短径46cmの楕円形で、

床を6cm掘り込んだ地床炉である。炉₁は長径66cm、短径60cmの楕円形で、床を10cm掘り込んだ地床炉である。炉₁を主に利用したものと思われる。

炉₁土層解説

- | | | | |
|------|--------------------------------|---------|-------------------------|
| 1 褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、白色粒子少量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子少量、炭化物少量、ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | 焼土小ブロック少量・粒子極少量、ローム粒子少量、白色粒子少量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子極少量、ローム粒子極少量、白色粒子少量 |
| 3 褐色 | 焼土粒子極少量、ローム粒子少量、白色粒子少量 | 6 濃い赤褐色 | 焼土小ブロック・粒子中量 |

炉₂土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|-------|---------------------|
| 1 褐色 | 焼土小ブロック・粒子中量、ローム粒子中量、白色粒子少量 | 3 黒褐色 | 焼土粒子少量、炭化物少量、白色粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム小ブロック・粒子中量、白色粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子極少量 |

貯蔵穴 南西コーナー南壁付近に付設されている。平面形は長径94cm、短径64cmの楕円形で、深さは40cmである。底は丸く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子極少量、白色粒子少量 | 4 暗褐色 | 炭化物極少量、ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子極少量、白色粒子少量 | 5 黒褐色 | 炭化物極少量、ローム小ブロック・粒子極少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物極少量、ローム小ブロック極少量・粒子中量、白色粒子少量 | 6 濃い赤褐色 | ローム粒子少量 |

覆土 上層に黒色土が薄く堆積している。自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|-----------------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量、白色粒子少量 | 3 黒褐色 | 焼土粒子極少量、ローム中ブロック中量・小ブロック少量 |
| 2 赤褐色 | 焼土粒子極少量、炭化物極少量、ローム小ブロック極少量・粒子少量、白色粒子少量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子極少量、ローム小ブロック中量・粒子中量、白色粒子少量、小石 |

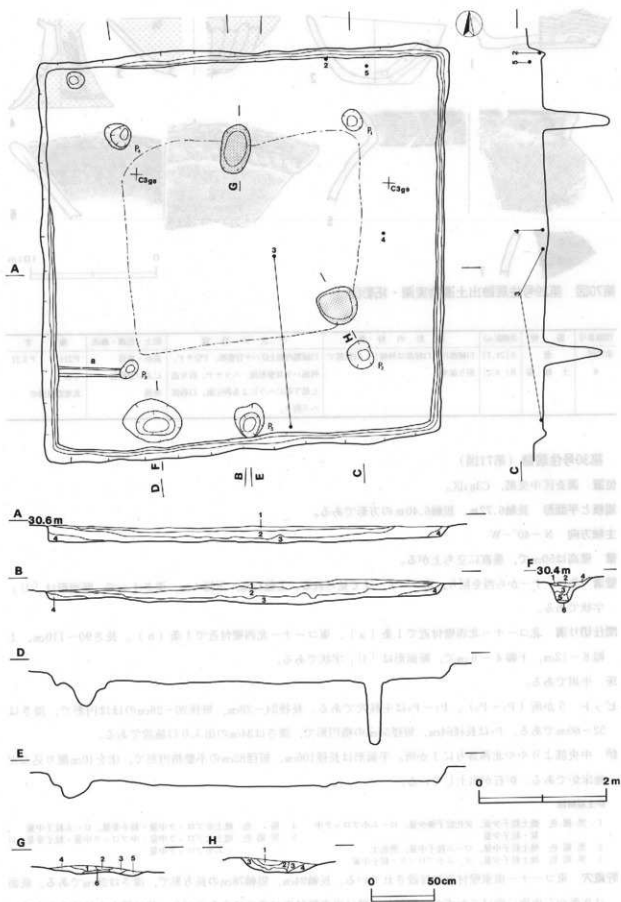
遺物 7は弥生式土器の胴部上位の破片と思われ、南関東系である。外面が赤彩され横にヘラ磨きが施されている。6の壺の口縁部片は北東部の壁溝の中から出土し、2の壺は北部覆土下層からほぼ完形で出土している。

所見 本跡は、出土遺物から、古墳時代前期の住居跡である。

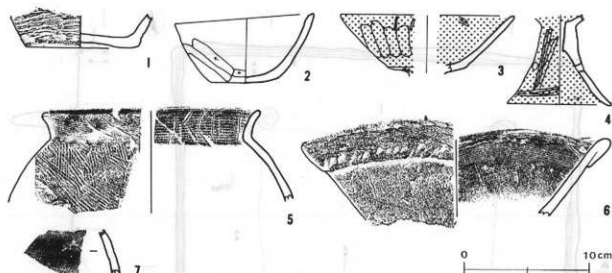
第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第70回 1	広口壺 弥生式土器	B(2.8) C(9.2)	底部平。上け底。底部に、胴体が附加条2種(附加1条)の縄文が施されている。	礫・石英・雲母・石英 赤褐色 良好	F277 P L27 5% 内・外面煤付着 覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第70回 2	埴 土師器	A 11.0 B 5.6 C 5.2	平底。胴部は外傾して立ち上がり、口部は上方につまみ出している。	口縁部内面横ナデ。胴部外面ヘラナデ。	長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	F207 P L26 90% 内面斑点状剥離痕 北部覆土下層
3	高杯 土師器	A(13.8) B(4.7)	杯底部と杯部の境に線をもち、口縁部は外傾する。	口縁部内面ナデ。杯部外面ヘラナデ。杯底部外面ヘラナデ。内・外面赤彩。	石英・雲母 赤色 普通	F208 P L26 10% 中央部と南部覆土下層
4	器台 土師器	B(7.2) C 8.2	脚部片。脚部はワッパ状に窪く。脚部に3か所穿孔。器受部底部から脚部にかけて穿孔されている。	脚部外面ヘラ磨き。内面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤色 普通	F209 P L26 50% 東部覆土中層
5	壺 土師器	A(17.4) B(7.2)	胴部一口縁部。胴部は内傾し、頸部はくびれる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形。胴部外面ハケ目整形。内面ナデ。	石英・雲母・スコリア オリーブ黒色 普通	F210 P L26 10% 北東部覆土上層



第69図 第29号住居跡実測図



第70図 第29号住居跡出土遺物実測・拓影図

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第70図	壺	A(24.7)	口縁部片。口縁部は外傾し、口唇部で	口縁部内面上位ハケ目整形。下位ナデ。	長石・雲母	P 211 P L 27
6	土 器	B(6.2)	折り返す。	外面ハケ目整形後、ヘラナデ。折り返し部下端にヘラによる押圧痕。口唇部ヘラ削り。	青褐色 普通	5 % 北東部壁溝中

第30号住居跡 (第71図)

位置 調査区中央部, C3gs区。

規模と平面形 長軸6.72m, 短軸6.40mの方形である。

主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は50cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 北コーナーから西を回り、南コーナーまで見られる。上幅12cm, 下幅4cm, 深さ4cmで、断面形は「U」字状である。

間仕切り溝 北コーナー北西壁付近で1条(a), 東コーナー北西壁付近で1条(b)。長さ90~110cm, 上幅8~12cm, 下幅4~6cmで、断面形は「U」字状である。

床 平坦である。

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は支柱穴である。長径24~28cm, 短径20~26cmのはほぼ円形で、深さは52~60cmである。P₅は長径64cm, 短径54cmの楕円形で、深さは34cmの出入り口施設である。

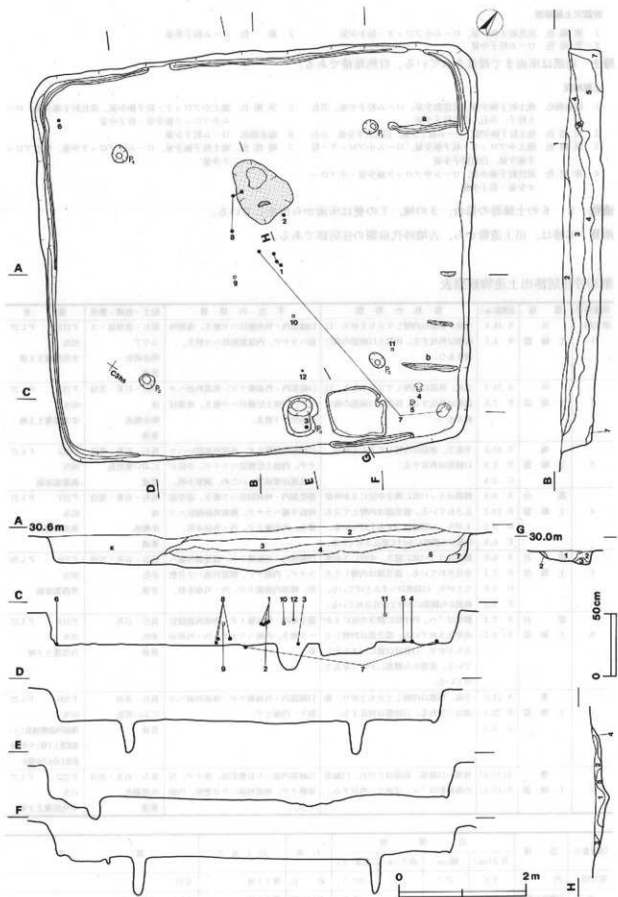
炉 中央部よりやや北西寄り1か所。平面形は長径106cm, 短径82cmの不整形楕円形で、床を10cm掘り込んだ地床炉である。炉石が出土している。

炉土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子極少量, ローム小ブロック中量・粒子少量 | 4 黒褐色 焼土中ブロック中量・粒子多量, ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子中量, ローム粒子中量, 黒色土 | 5 黒褐色 焼土大ブロック中量・中ブロック中量・粒子多量, ローム小ブロック中量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子少量, ローム小ブロック・粒子中量 | |

貯蔵穴 東コーナー南東壁付近に付設されている。長軸94cm, 短軸78cmの長方形で、深さは20cmである。底面は北西から南東に向けてわずかに傾斜し、壁は南東壁付近は垂直に立ち上がり、他は緩やかに立ち上がる。

図版実測資料集 第70巻



第71图 第30号住居跡実測図

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子極少量、ローム小ブロック・粒子少量 3 褐色 ローム粒子多量
 2 黒褐色 ローム粒子中量

覆土 南部は床面まで攪乱されている。自然堆積である。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子極少量、炭化物少量、ローム粒子少量、黒色土粒子、小石、白色粒子少量 5 黒褐色 焼土小ブロック・粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム小ブロック極少量・粒子中量
 2 黒褐色 焼土粒子極少量、ローム粒子少許、白色粒子少許、小石 6 暗赤褐色 ローム粒子少量
 3 黒褐色 焼土小ブロック・粒子極少量、ローム小ブロック・粒子極少量、白色粒子少量 7 暗褐色 焼土粒子極少量、ローム小ブロック中量、粘土ブロック少量
 4 赤褐色 炭化粒子極少量、ローム中ブロック極少量・小ブロック少量・粒子少量

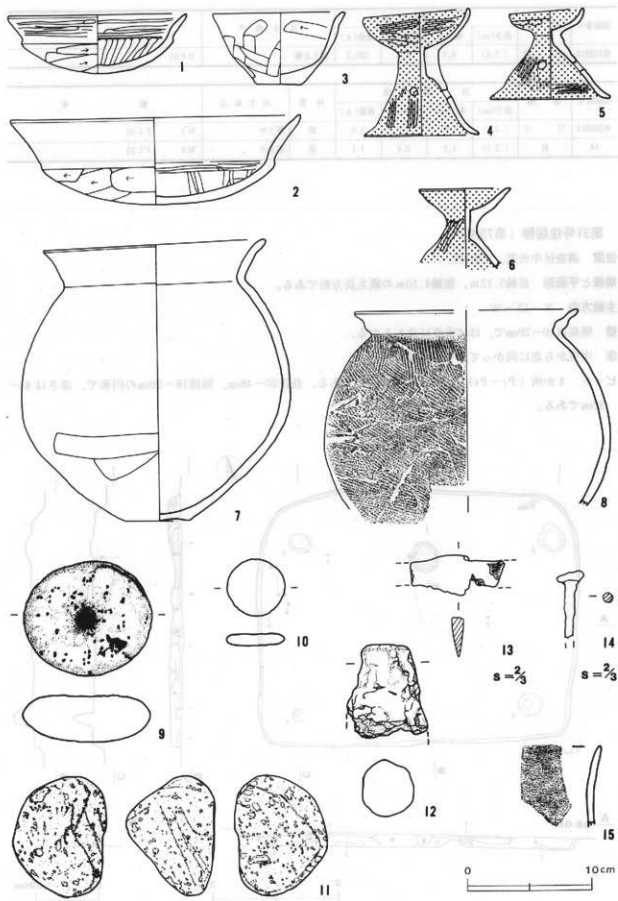
遺物 5, 6の土師器の器台, 3の塊, 7の甕は床面から出土している。

所見 本跡は, 出土遺物から, 古墳時代前期の住居跡である。

第30号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計画面積(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72図 1	土師器 坏	A 14.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。体部と口縁部の境に接をもつ。	口縁部内・外面横位ヘラ磨き。体部外面ヘラナデ。内面放射状ヘラ磨き。	長石・雲母粒・スコリア 明赤褐色 普通	P 212 P L 27 95% 中央部覆土上層
		B 4.7				
2	土師器 坏	A 23.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。体部と口縁部の境に接をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内面上位横位ヘラ磨き。底部斜斜位ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 抹 明赤褐色 普通	P 213 P L 27 85% 中央部覆土上層
		B 7.0				
3	土師器 塊	A 10.5	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ。体部外面粗いヘラナデ。内面上位横位ヘラナデ。中位から底部は磨滅着しいため、面整不明。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 215 P L 27 90% 南東部床面
		B 5.9				
		C 3.4				
4	土師器 器台	A 8.4	脚部はラップ状に置き、中位に3か所穿孔されている。器受部は内彎して立ち上がり、口唇部はつまみ上げている。底部から脚部にかけて穿孔されている。	器受部内・外面斜位ヘラ磨き。器受部外面下縁ヘラナデ。脚部外面位ヘラ磨き。内面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 抹 赤褐色 普通	P 217 P L 27 90% 85% 東部床面
		B 10.3				
		D 9.2				
		E 6.9				
		A 6.0				
5	土師器 器台	A 6.0	脚部はラップ状に置き、中位に3か所穿孔されている。器受部は内彎して立ち上がり、口唇部はつまみ上げている。底部から脚部にかけて穿孔されている。	口縁部内・外面横ナデ。器受部外面ヘラナデ。内面ナデ。脚部外面ハケ目整形。脚部内面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P 218 P L 26 90% 90% 南西部床面
		B 7.3				
		D 9.6				
		E 5.2				
		A 7.3				
6	土師器 器台	A 7.3	脚部は「ハ」の字状に置き中位に4か所穿孔されている。器受部は内彎して立ち上がり、口唇部は横につまみ出している。底部から脚部にかけて穿孔されている。	器受部内・外面横ナデ。脚部外面粗位ヘラ磨き。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P 219 P L 27 70% 70% 西部覆土下層
		B (6.1)				
7	土師器 甕	A 17.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくびれる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・雲母 にぶい黄色 普通	P 220 P L 27 80% 80% 体部は面割成りしい東部覆土下層と中央部炭化土のものが混合
		B 23.3				
		C 5.2				
8	土師器 甕	A (17.8)	体部～口縁部。頸部はくびれ、口縁部の断面形は「S」字状で、外反する。	口縁部内面ハケ目整形後、横ナデ。外面横ナデ。体部外面ハケ目整形。内面ナデ。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P 222 P L 27 15% 15% 中央部覆土下層
		B (15.8)				

図版番号	器種	計画面積				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第72図9	凹石	9.6	10.1	3.9	492.5	砂	覆土上層	Q49
10	内磨状石製品	4.5	4.7	1.0	25.7	安山岩	覆土上層	Q50 P L 32
11	軽石	9.6	7.5	7.0	53.7	軽石	覆土上層	Q48



第72図 第30号住居跡出土遺物実測・拓影図

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)		
第72012	支脚	(7.4)	6.3	4.5	223.3	覆土上層	D P 21

図版番号	器種	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第72013	刀子	(3.8)	1.6	0.5	3.0	鉄	覆土中	M 3 P L 33
14	釘	(2.7)	1.1	0.4	1.1	鉄	覆土中	M 4 P L 33

第31号住居跡 (第73図)

位置 調査区中央部, C3h₂区。

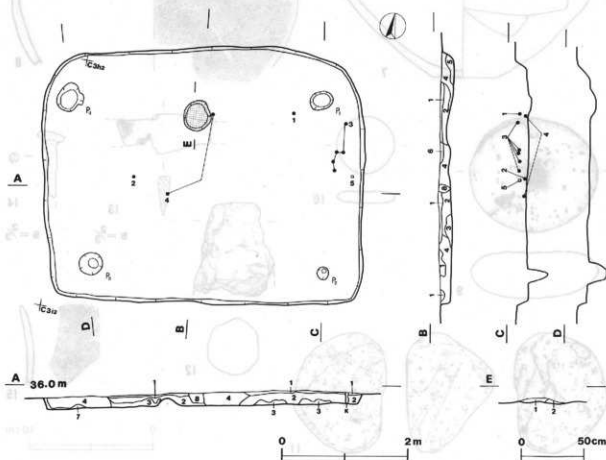
規模と平面形 長軸5.12m, 短軸4.10mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-13°-W

壁 壁高は10~20cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 中央から北に向かって, やや傾斜している。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₄は主柱穴である。長径20~46cm, 短径18~30cmの円形で, 深さは8~32cmである。



第73図 第31号住居跡実測図

図版11・築美御土上層出土陶器群の図解 図版12

炉 中央部よりやや北側で確認した。平面形は長径46cm、短径44cmの円形で、地床炉である。古墳期前半前半

伊土層解説	土層	色	成分	特徴
1	暗褐色	焼土粒子極少量、ローム粒子少量		

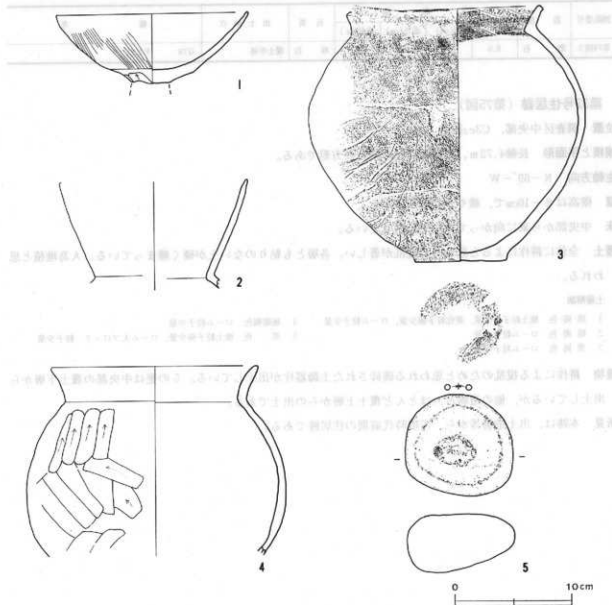
覆土 黒褐色土と黒色土が主に堆積している。全体に粘りなく、締まりは強い。各層にロームブロックが混じっている。人為堆積である。

土層解説

1	黒色	焼土粒子微量、ローム中ブロック・粒子極少量	5	褐色	ローム大ブロック中量・粒子少量、小石少量
2	黒色	ローム粒子少量	6	黒褐色	焼土粒子少量、炭化材多量、ローム粒子少量
3	暗褐色	ローム中ブロック少量・ローム粒子中量	7	黒色	ローム中ブロック・粒子少量
4	黒褐色	ローム大ブロック中量・粒子少量、小石少量	8	黒色	ローム粒子極少量

遺物 遺物はすべて覆土中からの出土である。3の土師器の甕は東部覆土中層から出土している。

所見 本跡は、当遺跡の古墳時代前期の住居跡と規模や内部構造が類似していることから、古墳時代前期の住居跡と思われる。



第74図 第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	目録別(m)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第74図 1	高 坏 土 師 器	A 16.4	脚部欠損。坏底部に破れもち、坏部はわずかに内彎して立ち上がる。口唇部は上方につまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ハケ目整形後、ナデ。底部外面ハケ目整形後、ヘラナデ。	石英・長石・雲母 赤 にぶい黄褐色 普通	P 223 P L 27 35% 北東部覆土中層
		B 5.9				
2	増 土 師 器	A(16.0)	口縁部片。頸部はくびれ、口縁部は外傾する。口唇部は上方につまみ上げている。	口縁部外面縦区へラ磨き。内面横ナデ。	長石・石英 褐色 普通	P 224 P L 27 10% 中央部覆土下層
		B(9.3)				
3	甕 土 師 器	A 16.0	平底。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくびれ、口縁部は外反する。口唇部は横へつまみ出している。	口縁部外面ハケ目整形後、横ナデ。内面ハケ目整形。体部外面ハケ目整形。下位はハケ目整形後、ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 225 P L 27 75% 東部覆土中層
		B 21.8				
		C 7.8				
4	甕 土 師 器	A 17.6	体部は内彎し、頸部はくびれ、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	石英・雲母・スコリア・塵 褐色 普通	P 227 P L 27 40% 中央部覆土下層
		B(16.2)				

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第74図5	甕 石	8.6	5.0	9.1	526.2	砂 岩	覆土中層	Q78 P L 31

第32号住居跡 (第75図)

位置 調査区中央部、C3e2区。

規模と平面形 長軸4.72m、短軸4.00mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-69°-W

壁 壁高は8-10cmで、緩やかに立ち上がる。

床 中央部から東に向かって、やや傾斜している。

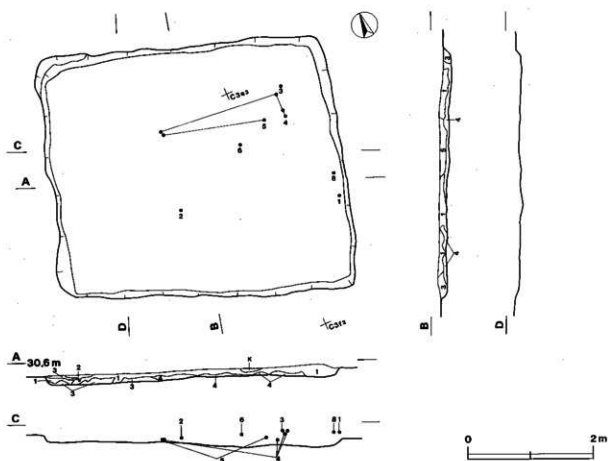
覆土 全体に耕作によると思われる攪乱が著しい。各層とも粘りのない土が硬く締まっている。人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム粒子少量 | 4 極暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 5 黒色 焼土粒子極少量、ローム大ブロック・粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子多量 | |

遺物 耕作による攪乱のためと思われる破砕された土師器片が出土している。5の甕は中央部の覆土下層から出土しているが、他の遺物は、ほとんど覆土上層からの出土である。

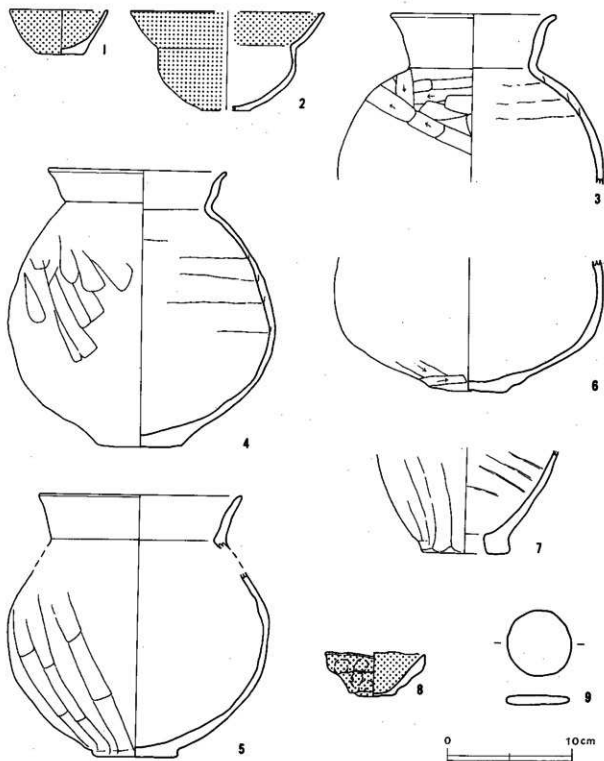
所見 本跡は、出土遺物等から、古墳時代前期の住居跡である。



第75図 第32号住居跡実測図

第32号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第75図 1	土 鉢	A 7.9 B 3.6 C 4.0	平底。体部下位から外傾して立ち上がる。	口縁内・外面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石・雲母 赤褐色 普通	F228 P L27 90% 東部覆土上層
2	土 罎	A(15.6) B 8.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくびれる。口縁部は内彎気味に外傾する。	口縁部内・外面及び体部外面磨き。口縁部内・外面及び体部外面赤彩。	長石・石英・雲母 抹 明赤褐色 普通	F231 P L27 25% 中央部覆土上層
3	土 罎	A 13.3 B(13.7)	体部一口縁部。体部は内彎し、頸部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。体部上位に輪積痕。	長石・雲母抹・磨 明褐色 普通	F232 P L27 20% 口縁部二次火熱痕 東部覆土上層
4	土 罎	A 14.3 B 22.3 C 6.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、中に最大径をもつ。頸部はくびれ口縁部の断面形は「S」字状で、外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	石英・雲母抹・ス コリア 黒褐色 普通	F233 P L27 70% 東部覆土上層と中央部覆土下層出土のものが集合
5	土 罎	A 16.4 B(21.0)	平底。体部は内彎して立ち上がり、中に最大径をもつ。頸部はくびれ、口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内面摩滅著しいため、調整不明。	石英・雲母・磨 にぶい黄褐色 普通	F234 30% 底部二次火熱痕 中央部覆土下層



第76図 第32号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	寸法(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第76図 6	壺 土 師 器	B (10.7) C 6.0	平底。体部は内脣して立ち上がる。	体部外面ヘラナゲ。	石英・長石・礫 にふい褐色 普通	P 23S P L 27 10% 底部二次火焼痕 中央部覆土土層

図版番号	器 種	計測値(m)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第76図 7	甌 土 師 器	B(8.5) C 7.0	底部一休部。甲孔式。体部はわずかに内傾して立ち上がる。	体部内・外面ヘラナダ。	灰石・石英・礫 にびい黄褐色 普通	P236 P L28 20% 覆土中
8	手捏土器 土 師 器	A 8.0 B 3.5 C 3.7	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は上方につまみ上げている。	口縁部内面ナダ。外面指頭圧痕。体部外面ヘラナダ。内面指ナダ。内・外筒赤影。	石英・灰石・炭母 状 にびい赤褐色 普通	P237 95% 東部覆土上層

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	用 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第76図9	円盤状石製品	5.4	5.1	0.7	29.3	緑泥片岩	覆土中	Q51 P L32

第33号住居跡 (第77図)

位置 調査区中央部よりやや北部、C3b3区。遺構の約4分の1が調査区外である。

規模と平面形 長軸10.90m、短軸10.43mの(方形)である。

主軸方向 N-70°-E

壁 壁高は30~42cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 貯蔵穴付近と竈、南東コーナーを除き、壁下に見られる。上幅12cm、下幅6cm、深さ6~10cmで、断面形は「U」字状である。

間仕切り溝 西壁北西コーナー付近に1条(a)。長さ160cm、上幅16cm、下幅6cmで、断面形は「U」字状である。

床 出入口ピット付近がやや低くなっているが、あとは平坦である。全面硬い。北側の竈付近に焼土が見られる。

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₃は主柱穴である。長径24~34cm、短径22~30cmのはほぼ円形で、深さは76~80cmである。P₄は長径36cm、短径30cm、深さは44cmの楕円形で、出入口施設と思われる。P₅は長径26cm、短径22cmの楕円形で、支柱穴と思われる。

貯蔵穴 南壁中央に、半分が壁の外へ張り出して付設されている。平面形は、長径120cm、短径100cmの楕円形で、深さは40cmである。土層は暗褐色土の上に黒色土が薄く堆積している。底はほぼ平坦で、壁は、張り出し部分は垂直に、住居内は緩やかに立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

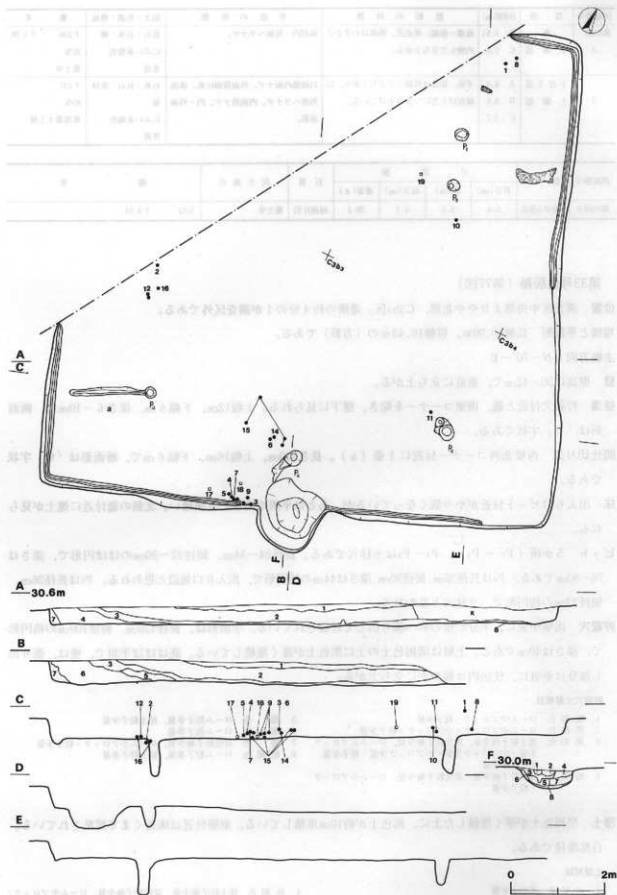
- | | |
|--|----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム中ブロック・粒子少量 | 5 褐色 ローム粒子多量、粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量 | 6 褐色 ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム大ブロック少量・中ブロック少量・小ブロック少量・粒子少量、粘土粒子少量 | 7 褐色 炭化粒子極少量、ローム小ブロック・粒子多量 |
| 4 暗褐色 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム小ブロック・粒子少量 | 8 暗褐色 ローム粒子多量、粘土粒子多量 |

覆土 黒褐色土が厚く堆積した上に、褐色土が約10cm堆積している。東壁付近は床近くまで攪乱されている。

自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|--|
| 1 暗褐色 黒色土少量 | 4 灰褐色 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム中ブロック・粒子中量、白色粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子極少量、白色粒子少量 | |
| 3 黒褐色 焼土粒子極少量、ローム小ブロック少量・粒子極少量 | |



第77図 第33号住居跡実測図

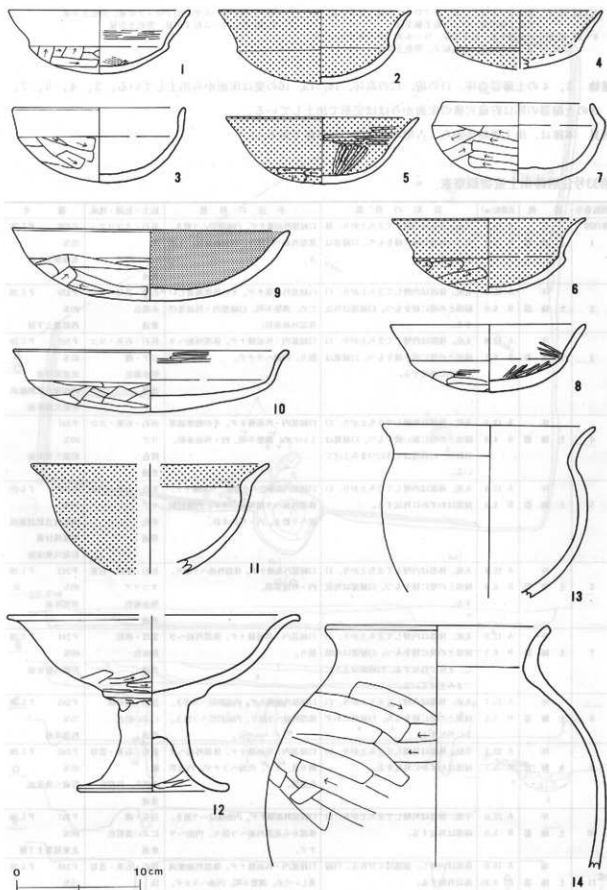
- 5 暗褐色 焼土中ブロック中量・小ブロック少量・粒中量、炭
化粒子極少量、ローム粒子極少量
6 暗褐色 炭化材少量・粒中量、ローム大・中・小ブロック中
量・粒中量、白色粒子、黒色土少量
7 黒色 ローム中・小ブロック中量、黒色土少量
8 黒褐色 ローム粒中量、黒色土少量

遺物 3, 4の土師器の坏, 11の埴, 12の高坏, 14, 15, 16の甕は床面から出土している。3, 4, 5, 7,
9の土師器の坏は貯蔵穴横の床面からは完全形で出土している。

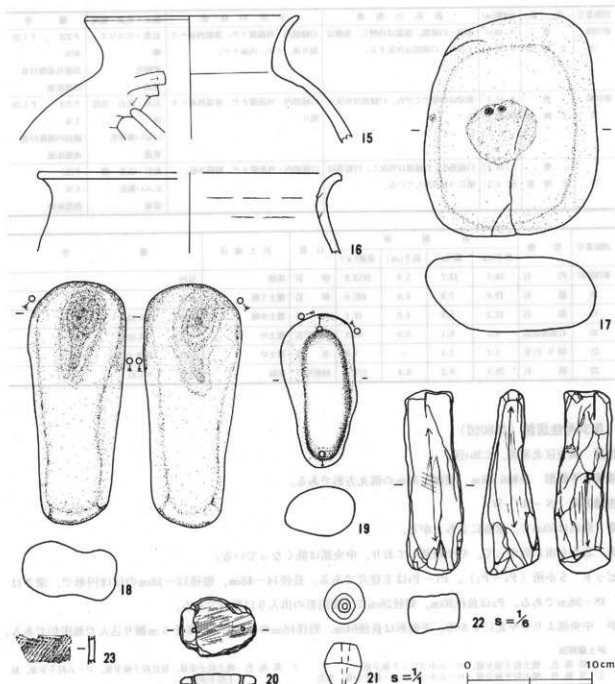
所見 本跡は、出土遺物等から、古墳時代後期の住居跡である。

第33号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・地味	備考
第72図 1	土師器 坏	A 14.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に段をもつ。口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。内面傾位へう磨き。体部外面へう削り。内面放射状へう磨き。	長石・スコリア・礫 にふい橙色 普通	P238 P L28 95% 北部覆土下層
		B 5.2				
2	土師器 坏	A 15.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に段をもつ。口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。その他磨減著しいため、調整不明。口縁部内・外面及び体部外面赤彩。	石英・雲母 赤褐色 普通	P239 P L28 90% 西部覆土下層
		B 6.0				
3	土師器 坏	A 13.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い段をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう削り。内面へうナデ。	長石・石英・スコリア・礫 明赤褐色 普通	P240 P L28 85% 底部塚付着 内面斑点状磨減痕 貯蔵穴横床面
		B 6.1				
4	土師器 坏	A 13.3	丸底。体部は外彎して立ち上がり、口縁部との境に強い段をもつ。口縁部は外傾し、口唇部は上方につまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。その他磨減著しいため、調整不明。内・外面赤彩。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P241 80% 貯蔵穴横床面
		B 4.8				
5	土師器 坏	A 15.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面横位へう磨き。外面横ナデ。体部外面へう削り後、ナデ。内面放射状へう磨き。内・外面赤彩。	雲母・石英・スコリア 赤色 普通	P242 P L28 90% 内面斑点状磨減痕 底部塚付着 貯蔵穴横床面
		B 5.4				
6	土師器 坏	A 15.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に段をもつ。口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。体部外面へう削り。内・外面赤彩。	長石・雲母・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P243 P L28 80% 南部床面
		B 6.0				
7	土師器 坏	A 12.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に段をもつ。口縁部は内傾し、上位で外反する。口唇部は上方につまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう削り。	雲母・砂粒 褐色 普通	P244 P L28 60% 貯蔵穴横床面
		B 6.5				
8	土師器 坏	A 15.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に段をもち、口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面横ナデ。内面傾位へう磨き。体部外面へう削り。内面傾位へう磨き。	長石・雲母・珪 にふい橙色 普通	P245 P L28 70% 西部床面
		B 5.5				
9	土師器 坏	A 22.1	平底。体部は外彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう削り後、ナデ。内面へうナデ。内面黒色地肌。	長石・石英・雲母 内黒色・外橙色 普通	P246 P L28 95% 貯蔵穴横床面
		B 5.7				
10	土師器 坏	A 22.0	平底。体部は外彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。内面傾位へう磨き。体部から底部外面へう削り。内面へうナデ。	石英・礫 にふい黄褐色 普通	P247 P L28 80% 北東部覆土下層
		B 5.0				
11	土師器 埴	A 19.0	体部は内彎し、頸部はくびれる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面磨減著しいため、調整不明。内面へうナデ。口縁部内・外面及び体部外面赤彩。	長石・石英・雲母・珪 にふい黄褐色 普通	P248 P L28 15% 南東部床面
		B (8.8)				



第78图 第33号住居跡出土遺物実測図(1)



第79図 第33号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

図版番号	器種	計測値[cm]	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第79図 12	高 土 鉢 器	A 23.4	胴部はラッパ状に開き、底部と環部の	口縁部内・外面横ナテ。環底部外面粗	長石・雲母・スコ リア に灰・棕色 普通	P249 P L28 80% 環底部剝離痕 西部床面
		B 14.2	境に接をもつ。環部はわずかに内押し	いへう割り。胴部外面指ナテ。裾部内		
		C 12.2	口縁部は外反する。	・外面横ナテ。一部へうラナテ。		
		D 7.2				
13	壺 土 鉢 器	A 17.0	底部欠損。体部は内押し、口縁部は外	口縁部内・外面横ナテ。体部内・外面	長石・石英・スコ リア に灰・黄棕色 普通	P251 P L29 40% 覆土中
		B(13.3)	反する。	摩滅著しいため、形状不明。		

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第78図 14	甕 土師器	A 18.0 B(19.5)	腰部~口縁部。腰部は内押し、頸部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	石灰・スコリア・ 糠 明褐色 普通	P 252 P L 29 30% 腰部外面窯付着 南部床面
第79図 15	甕 土師器	A 17.1 B(10.0)	頸部は内厚でくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部外面へラ削り。	石灰・長石・雲母 抹 にぶい黄褐色 普通	P 253 P L 29 5% 縁部内面窯付着 南部床面
16	甕 土師器	A(24.4) B(6.5)	口縁部片。口縁部は外反し、口唇部は横につまみ出している。	口縁部内・外面横ナデ。輪轆み痕。	長石・石灰・糠 にぶい褐色 普通	P 254 5% 西部床面

図版番号	器種	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第79図17	凹 石	18.1	13.7	5.9	2413.9	砂 岩	床面	Q79
18	煎 石	19.6	7.9	4.6	492.6	砂 岩	覆土下層	Q70
19	煎 石	12.3	5.6	4.0	41.1	砂 岩	覆土中層	Q80 P L 32
20	石製煉成器	4.2	6.1	0.9	45.9	黒色片岩	覆土中	Q52 P L 32
21	切り子玉	1.1	1.1	—	1.8	水 晶	覆土中	Q81 孔径 0.3cm P L 32
22	甕 石	29.5	9.2	6.4	279.0	緑泥片岩	床面	Q55 P L 31

第34号住居跡(第80図)

位置 調査区北東部、C3b₂区。

規模と平面形 長軸6.48m、短軸6.30mの隅丸方形である。

主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は50cmで、垂直に立ち上がる。

床 北から南に向かって、やや傾斜しており、中央部は低くなっている。

ピット 5か所(P₁~P₂)。P₁~P₄は主柱穴である。長径14~48cm、短径12~38cmのはほぼ円形で、深さは48~98cmである。P₅は長径30cm、短径26cmで、楕円形の出入り口施設である。

炉 中央部よりやや北に1か所。平面形は長径64cm、短径48cmの楕円形で、床を6cm掘り込んだ地床炉である。

炉土層解説

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子極少量、ローム小ブロック極少量 | 3 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子極少量、ローム粒子少量、粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子極少量、ローム小ブロック・粒子少量、黒色土少量 | 4 にぶい褐色 ローム粒子極少量 |
| | 5 褐色 焼土中ブロック・粒子中量、ローム小ブロック・粒子中量 |

貯蔵穴 南壁入り口施設ピット左に付設されている。平面形は長径100cm、短径70cmの長方形で、深さは28cmである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。

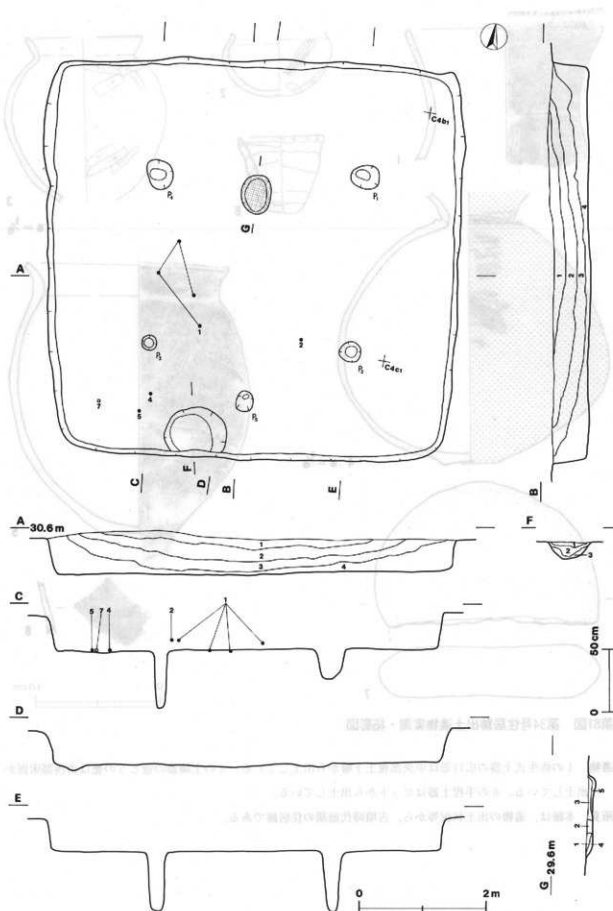
貯蔵穴土層解説

- | | |
|--|------------------------------------|
| 1 褐色 焼土粒子少量、炭化粒子少量、ローム中ブロック中量・小ブロック多量・粒子多量 | 2 黒褐色 焼土粒子少量、ローム大ブロック・中ブロック少量・粒子少量 |
| | 3 褐色 焼土粒子少量、ローム小ブロック・粒子多量 |

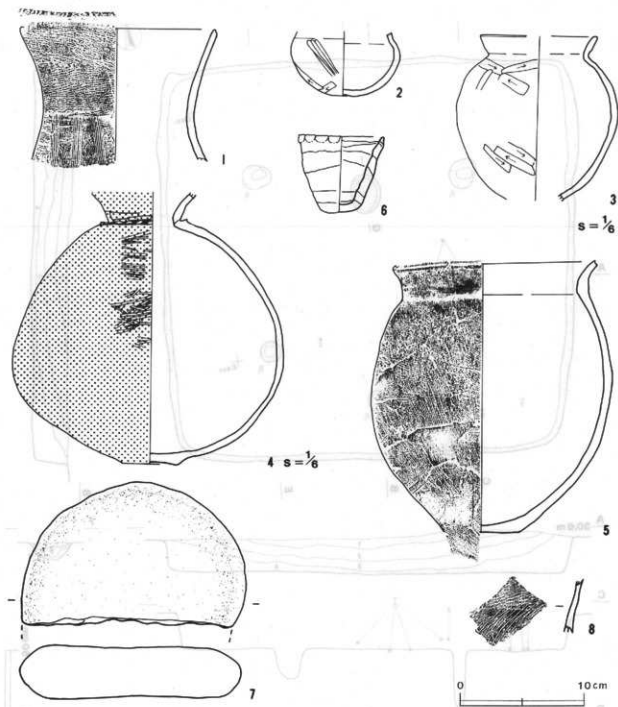
覆土 黒褐色土が厚く堆積しており、その上に、黒色土が中央部に約20cm堆積している。自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1 黒色 焼土粒子極少量、ローム粒子極少量 | 3 黒褐色 焼土粒子極少量、ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック極少量・粒子中量、白色粒子少量 | 4 にぶい褐色 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム小ブロック中量・粒子中量 |



第80图 第34号住居跡实测图



第81図 第34号住居跡出土遺物実測・拓影図

遺物 1の弥生式土器の広口壺は中央部覆土下層から出土している。4の土師器の壺と5の甕は南西部床面から出土している。6の手捏土器はピットから出土している。

所見 本跡は、遺物の出土状況等から、古墳時代前期の住居跡である。

第34号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形及び文様の特徴		胎土・色調・焼成	備考
			長さ(cm)	幅(cm)		
第81図 1	広口壺 赤土式土器	A 15.7 B (10.7)	頸部一線部。頸部から口縁部は外反する。口唇部は上方につまみ上げ、キザ目目が施されている。口縁部は、附加条2條(附加1条)の縄文が施され、縄文は渦状構成をとる。頸部は、磨面数4本で、スリット手法により縦区画された波状文が充填されている。口縁部内面ナデ。		長石 にぶい褐色 普通	P 256 P L 29 15% 口縁部外面窪付着 中央部覆土下層
第81図 2	埴 土 埴器	B (5.2) C 1.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、上位で外へ膨らむ。		体部外面ヘラナデ。体部外面上位は斜位ヘラ磨き。内面横ナデ。	P 255 P L 29 40% 中央部覆土下層
3	壺 土 埴器	A (18.4) B (26.5)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。頸部はくびれ、口縁部は折り返し、わずかに外反する。		口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内面は摩滅著しいため、調整不明。	P 257 P L 29 60% 体部外面窪付着。 下位二次火熱痕 覆土中
4	壺 土 埴器	B (43.5) C 9.2	上げ底。体部は内彎して立ち上がり、下位に最大径をもつ。頸部は段をもちくびれる。口縁部は外反する。		口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラナデ。体部との境は、つまみ上げた後指状工具による押し。体部上位にハケ目彫形痕。体部外面ヘラナデ後、ヘラ磨き。体部外面赤彩。	P 258 P L 29 70% 体部内面摩滅著しい 南西部床面
5	壺 土 埴器	A 16.0 B 21.7 C 5.9	平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくびれ、口縁部は外反する。口唇部は上方につまみ上げている。		口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目彫形。内面摩滅著しいため、調整不明。	P 259 P L 29 80% 外面窪付着。二次 火熱痕 南西部床面
6	手捏土器 土 埴器	A 6.8 B 6.2 C 2.2	平底。体部は外彎して立ち上がる。口縁部は折り返し、口唇部は波状で上方につまみ上げている。		口唇部指状痕。体部外面横ナデ。内面ヘラナデ。体部に輪痕の痕。	P 260 P L 29 80% 外面窪付着 柱穴内
第81図7	石 瓦	長さ(cm) 11.6 幅(cm) 17.9 高さ(cm) 4.3 重量(g) 1,510.9	材質	出土地点	備 考	砂 岩 床面 Q56

第35号住居跡(第82図)

位置 調査区北東部, B3f区。

規模と平面形 長軸5.00m, 短軸4.84mの方形である。

主軸方向 N-52°-W

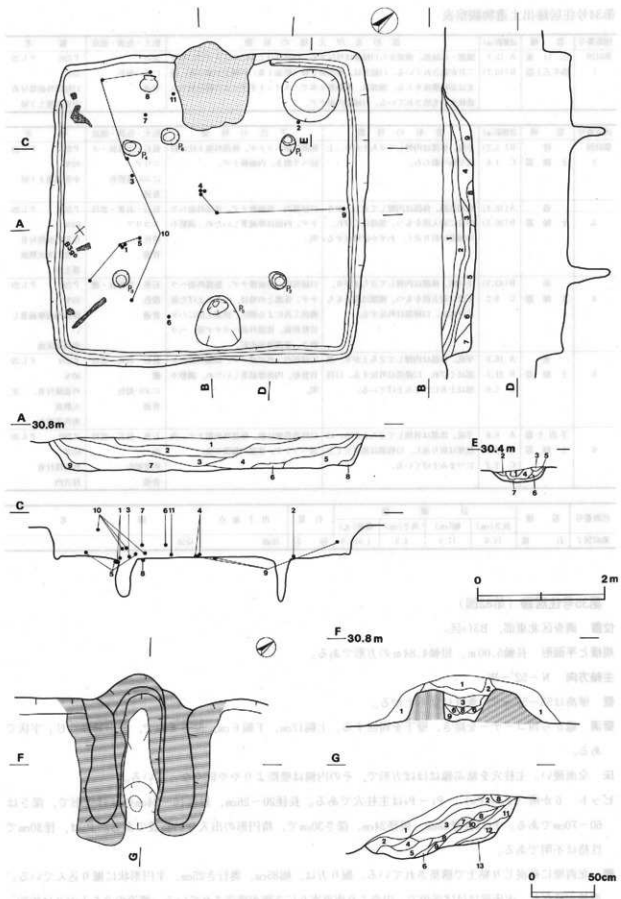
壁 壁高は55~58cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 竈から西コーナーを除き、壁下を周回する。上幅12cm, 下幅6cm, 深さ4cmで、断面形は「U」字状である。

床 全面硬い。主柱穴を結ぶ線はほぼ方形で、その内側は壁際よりやや低くなっている。

ピット 6か所(P1~P6)。P1~P4は主柱穴である。長径20~26cm, 短径16~24cmのほぼ円形で、深さは60~70cmである。P5は長径32cm, 短径24cm, 深さ30cmで、楕円形の出入り口施設である。P6は、径30cmで性格は不明である。

竈 北西壁に砂混じり粘土で構築されている。掘り方は、幅85cm, 奥行き25cm, 半円形状に掘り込んでいる。両袖が残存し、火床部はほぼ平坦で、中央より南東寄りに支脚が確認されている。煙道の立ち上がりは約70°で緩やかである。



第82図 第35号住跡実測・電実測図

覆土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------------|--------|---|
| 1 極暗褐色 | 焼土中ブロック・粒子極少量、炭化粒子極少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・粒子少量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム粒子少量、粘土粒子少量 | 8 暗赤褐色 | 炭化粒子極少量、ローム粒子少量、粘土粒子多量 |
| 3 黒褐色 | 焼土小ブロック・粒子少量、ローム粒子少量、粘土粒子少量 | 9 黒褐色 | 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・粒子少量、炭化粒子極少量、粘土粒子少量 | 10 暗褐色 | 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム粒子少量、砂粒少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム粒子多量 | 11 暗褐色 | 焼土大ブロック・小ブロック・粒子少量、炭化粒子極少量、ローム粒子少量、砂粒少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・中ブロック・粒子少量、炭化粒子極少量、ローム粒子少量 | 12 黒褐色 | 焼土中ブロック少量・粒子少量、炭化粒子極少量、ローム粒子少量 |

貯蔵穴 北コーナーに付設されている。長径90cm、短径82cmの楕円形で、深さは24cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化粒子微少、ローム粒子中量 | 5 暗褐色 | 焼土中ブロック極少量・粒子中量、炭化物少、ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 7 明褐色 | 焼土小ブロック極少量、ローム小ブロック・粒子中量 |
| 3 黒褐色 | 焼土小ブロック中量・粒子少量、炭化物少量、ローム大ブロック中量・粒子中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 極暗褐色 | ローム小ブロック極少量・粒子中量 | 9 褐色 | ローム粒子多量 |

覆土 中央部上層に黒色土が約20cm堆積している。自然堆積である。

土層解説

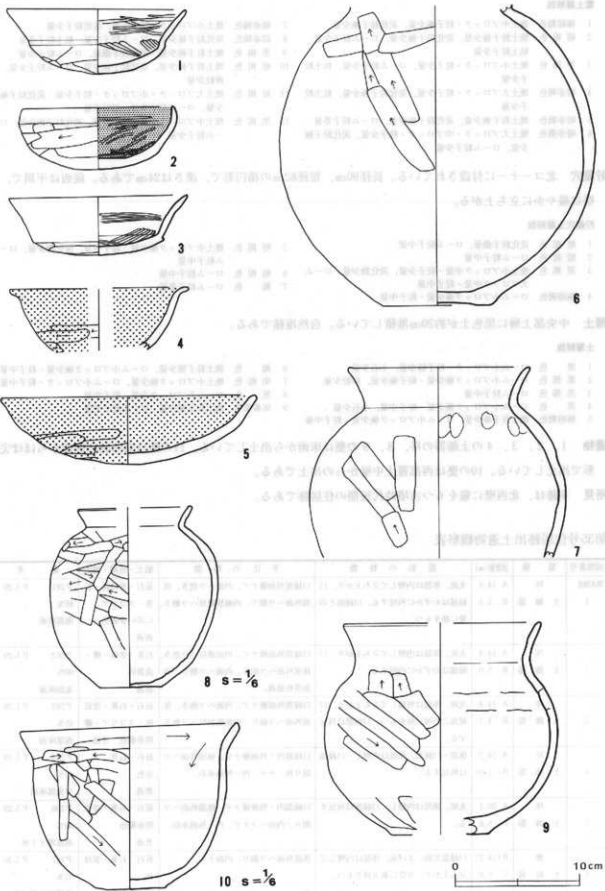
- | | | | |
|--------|--------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒色 | ローム小ブロック・粒子極少量、小石少量 | 6 褐色 | 焼土粒子極少量、ローム小ブロック極少量・粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック極少量・粒子極少量、砂粒少量 | 7 明褐色 | 焼土小ブロック極少量、ローム小ブロック・粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量 | 8 黒褐色 | ローム大ブロック少量・粒子少量 |
| 4 黒色 | ローム小ブロック極少量・粒子中量、小石少量 | 9 灰黄褐色 | 焼土粒子極少量、ローム粒子中量 |
| 5 極暗褐色 | 焼土粒子極少量、ローム小ブロック極少量・粒子中量 | | |

遺物 1, 2, 3, 4の土師器の坏, 8, 9の甕は床面から出土している。11の甕は竈西側の床面からほぼ完全形で出土している。10の甕は西部覆土中層からの出土である。

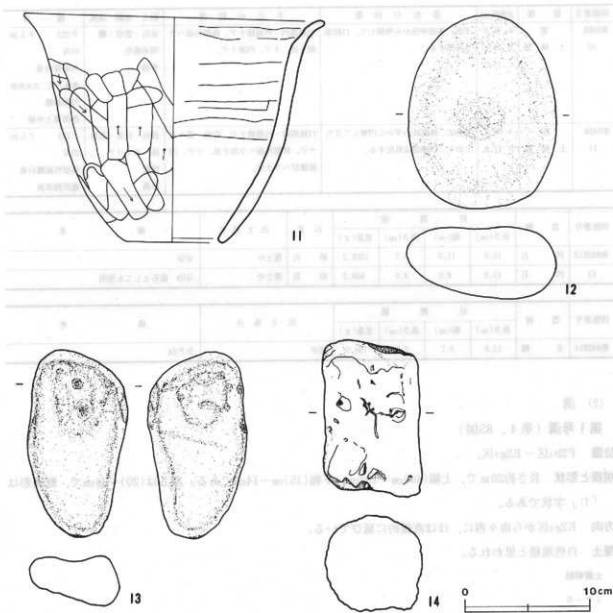
所見 本跡は、北西壁に竈をもつ古墳時代後期の住居跡である。

第35号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第33図 1	土師器 坏	A 14.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁部との境に線をもち。	口縁部外面横ナデ。内面へう磨き。体部外面へう削り。内面放射状へう磨き。	長石・雲母・石英・スコリア 85% 南部床面	P 261 P L 29
		B 5.2			にがい赤褐色 普通	
2	土師器 坏	A 14.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部外面横ナデ。内面横位へう磨き。体部外面へう削り。内面へう磨き。内面黒色焼成。	石英・雲母・燧 淡黄色 普通	P 262 P L 29 90% 北西部床面
		B 5.0				
3	土師器 坏	A 14.4	丸底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に線をもち。口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。内面へう磨き。体部外面へう削り。内面放射状へう磨き。	長石・石英・雲母・燧 淡黄色 普通	P 263 P L 29
		B 4.7			明赤褐色 普通	西部床面
4	土師器 坏	A 14.2	体部一口縁部。体部は内彎し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう削り。ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P 264 P L 29 10% 中央部床面
		B (5.0)				
5	土師器 坏	A 20.1	丸底。体部は内彎し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう削り。内面へうナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 266 P L 29 60% 南部覆土下層
		B 5.8				
6	土師器 甕	B (24.2)	口縁部欠損。上げ底。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。	体部外面へう削り。内面ナデ。	長石・石英・雲母 赤 にがい褐色 普通	P 267 P L 30 35% 体部外面塗付者 南部覆土中層
		C 9.0				



第83図 第35号住居跡出土遺物実測図(1)



第84図 第35号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第83図 7	土 師 器	A 14.5 B (15.4)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ脰り。体部上位内面に指頭圧痕。	長石・石英・雲母 抹・スコリア にぶい黄褐色 普通	P 268 P L 29 50% 体部外面煤付着 西部覆土中層
8	土 師 器	A (18.6) B 28.8 C 10.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ脰り。内面割離著しいため、調整不明。	石英・雲母・糠 にぶい褐色 普通	P 269 P L 29 40% 体部外面煤付着 西部床面
9	土 師 器	A (15.7) B 17.0 C (7.8)	体部は内彎して立ち上がり、頸部はくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へツ脰り後ナデ。内面ナデ。体部上位に輪積み痕。	石英・雲母 明赤褐色 普通	P 270 P L 30 35% 体部外面煤付着 中央部所産と北東部覆土 中層以上のものが混合

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第83図 10	栗 土 罎 器	A 35.2 B 26.8 C 11.0	平底。体部中位から外傾して、口縁部も外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へウ 張り後、ナデ。内面ナデ。	灰石・雲母・糠 明赤褐色 普通	P 272 P L 30 65% 外面灰付着 体部下位二次火焔質 外面斜線 西部埋土中層
第84図 11	瓶 土 罎 器	A 23.9 B 17.8	無底式。体部はわずかに内傾して立ち 上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内面一部へウ ナデ。体部外面へウ張り後、ナデ。内 面横位へウナデ。	灰石・石英・雲母 赤・スコリア 普通	P 273 P L 30 85% 体部外面灰付着 龍西側床面

図版番号	器種	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第84図12	凹 石	15.6	11.9	5.7	1566.2	砂 岩	覆土中	Q58
13	凹 石	15.0	8.0	4.0	648.2	砂 岩	覆土中	Q59 敷石としても使用

図版番号	器種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)		
第84図14	支 脚	12.6	9.7	7.7	798.9	磁 中	D P 24

(2) 溝

第1号溝(第4, 85図)

位置 F2b₃区~E2g₆区。

規模と形状 長さ約20mで、上幅(40)cm~102cm, 下幅(15)cm~14cmである。深さは(20)~34cmで、断面形は「U」字状である。

方向 E2g₆区から南々西に、ほぼ直線的に延びている。

覆土 自然堆積と思われる。

土層解説

S P-B

- | | |
|--|------------------------|
| 1 極暗褐色 焼土粒子極少量、炭化粒子極少量、ローム粒子少量、
砂粒極少量 | 4 極暗褐色 ローム中ブロック少量・粒子少量 |
| 2 黒 色 炭化粒子微量、ローム粒子少量 | 5 黒褐色 ローム小ブロック中量・粒子少量 |
| 3 暗褐色 炭化粒子微量、ローム大ブロック少量・中ブロック中
量・小ブロック中量・ローム粒子極中量 | 6 暗褐色 ローム粒子多量 |

S P-D

- | | |
|--|-------------------------|
| 1 黒 色 ローム小ブロック少量・粒子少量、砂粒少量 | 3 褐色 焼土粒子極少量、ローム大ブロック多量 |
| 2 黒褐色 ローム大ブロック極少量・中ブロック少量・小ブロッ
ク少量・粒子少量 | 4 明褐色 ローム粒子多量 |

所見 遺物が出土していないため、時期は不明である。

第2号溝 (第4, 85図)

位置 B4js区～B3as区。

規模と形状 長さ約45mで、上幅130cm～180cm、下幅20cm～30cm、深さは55～70cmである。底の断面形は逆台形である。

方向 北西から南東に向けて、ほぼ直線的に延びている。

覆土 7層からなり、覆土中にローム粒子・ブロックが含まれる。人為堆積である。

土層解説

S P - F

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量
- 3 黒色 ローム粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子極少量

S P - H

- 1 黒色 ローム粒子極少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック中量・粒子極少量
- 3 黒色 ローム粒子極少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック極少量・ローム粒子少量

- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子極少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子極少量

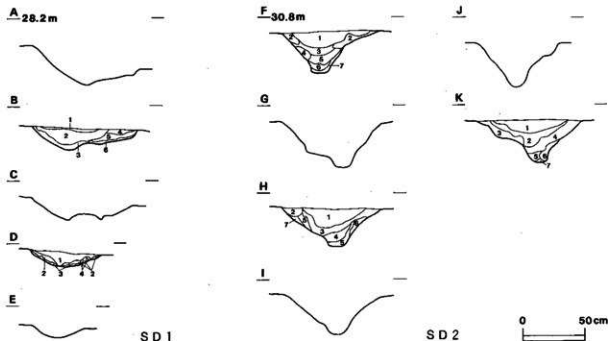
S P - K

- 1 黒色
- 2 黒褐色 ローム粒子極少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量・粒子中量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量

- 5 黒褐色 ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 7 明褐色 ローム小ブロック少量

遺物 溝中央部から土師器片が5点出土している。

所見 土師器片が溝の下層から出土しているが、外に時代を決定づける遺物がないことから時期は不明である。



第85図 第1・2号溝実測図

3 その他の遺構と遺物

(1) 土坑

第1号土坑(第86図)

位置 調査区南西部, E2ds区。

規模と平面形 長径1.33m, 短径0.72mの楕円形で, 深さは12~22cmである。

長径方向 N-14°-W

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 凹凸が見られる。

覆土 自然堆積である。

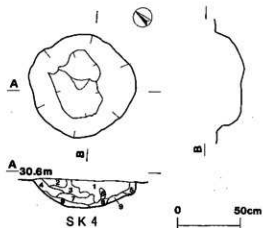
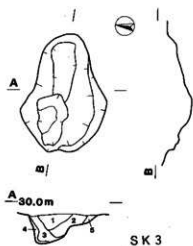
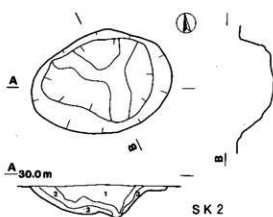
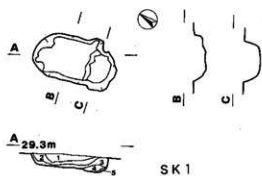
土層解説

- 1 褐色 焼土粒子極少量, ローム粒子中量
- 2 黒色 ローム粒子極少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量・粒子中量

- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量

遺物 覆土中から, 土師器片が5点出土している。

所見 時期や性格等は不明である。



第86図 第1・2・3・4号土坑実測図

第2号土坑 (第86図)

位置 調査区南部, D3g区。

規模と平面形 長径2.26m, 短径1.64mの楕円形で, 深さは50cmである。

長径方向 N-90°-W

壁面 緩やかに立ち上がる。

底面 皿状。

覆土 3層からなる。黒色土が厚く堆積している。人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|------|----------|-------|---------|
| 1 黒色 | ローム粒子極少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒色 | ローム粒子少量 | | |

所見 遺物が出土せず, 時期や性格等は不明である。

第3号土坑 (第86図)

位置 調査区南部, E2b区。

規模と平面形 長径1.93m, 短径1.30mの楕円形で, 深さは14cmである。

長径方向 N-90°-W

壁面 緩やかに立ち上がる。

底面 凹凸が見られる。

覆土 5層からなり, 黒色土が多く堆積している。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量, 白色粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム大ブロック多量 |
| 2 黒色 | ローム小ブロック・粒子極少量, 白色粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム大ブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 白色粒子少量 | | |

所見 遺物が出土せず, 時期や性格等は不明である。

第4号土坑 (第86図)

位置 調査区中央部, B4j区。

規模と平面形 長径1.72m, 短径1.67mのはほぼ円形で, 深さは36cmである。

長径方向 N-30°-W

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 擾乱されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子極少量, 白色粒子 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック・粒子中量 |
| 2 明褐色 | 焼土粒子極少量, ローム粒子極少量 | 7 灰褐色 | ローム小ブロック極少量・粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 黒色土 | 8 褐色 | ローム中ブロック・粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム中ブロック・粒子少量 | 9 褐色 | ローム粒子極少量, 黒色土 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子少量 | | |

所見 遺物が見られず, 覆土の堆積状況から木の根跡と思われる。

(2) 遺構外出土遺物

当遺跡からは、遺構に伴わない縄文時代、弥生時代及び古墳時代の土器片や石製品・石器等が出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて取り上げ、記載する。

① 拓本土器以外

土師器・石器・石製品・鉄器等の拓本土器以外については観察表により解説する。なお、遺構覆土中から出土の石蔵については、遺構出土遺物として扱わず、遺構外出土遺物として扱う。

② 拓本土器

拓影図で示した縄文式土器片及び弥生式土器片については、分類して類ごとに説明し、個々の土器片については適宜若干の説明を加える。

なお、遺構覆土中から出土の弥生式土器片については遺構内出土遺物とする。

縄文式土器

18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25は早期中葉の田戸下層式土器の破片である。18, 19, 20, 25, は平行沈線が横位に施されている。21, 22, 23は平行沈線の間にキザミや刺突文が施されている。124は沈線が横位あるいは斜位に施され、沈線間に斜位の貝殻腹縁文が施されている。

26は早期後葉の茅山式土器の破片である。キザミを有する隆帯が横位に貼付され、地文に条痕文が施されている。

27は前期後葉の浮島Ⅱ式土器の破片である。口唇部と口縁部は半截竹管により刺突文が施されている。

28は前期末葉から中期初頭の粟島台式土器の破片である。125は口縁部片で、縄文は羽状構成をとる。

29は中期後葉の加曾利Ⅱ式土器の口縁部片である。

30, 31, 32は後期前葉の堀之内Ⅰ式土器の破片である。31はキャリパー型器形の深鉢の口縁部片で、口唇部の無文帯に太い沈線が施されている。口縁部には突起を有し、そこから頸部に向けて隆帯が垂下している。突起部には5か所円形の刺突が施されている。30, 32は胴部片である。地文は縄文で、太い沈線が施されている。

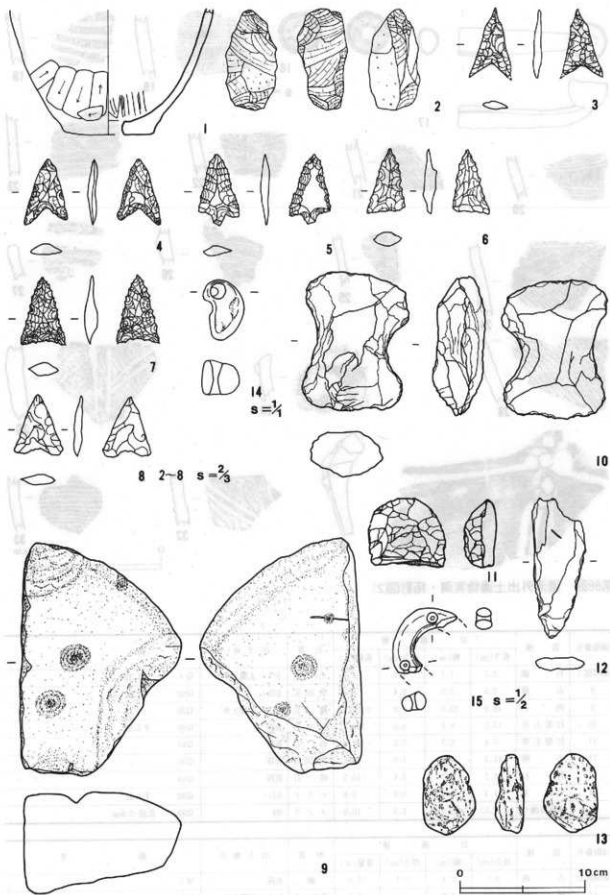
弥生式土器

33は附加条1種(附加2条)の縄文が施されている。弥生時代中期の土器片と思われる。

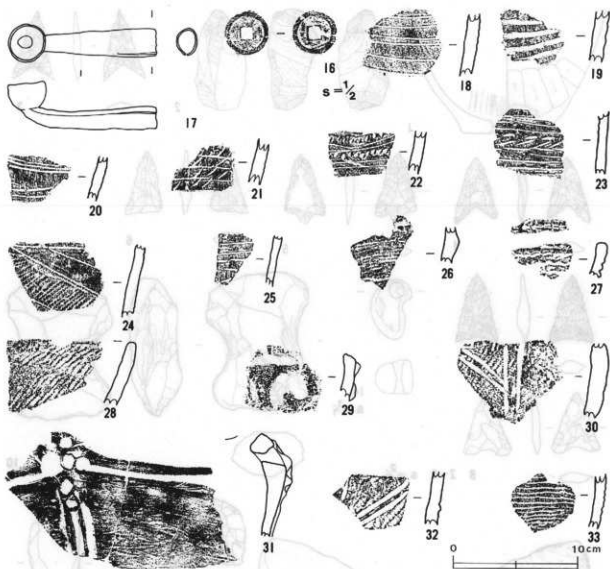
遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第87図 1	土師器	B 10.2 C 7.2	厚孔式。体部はわずかに内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラナダ。内面ナダ。	長石・石英・塵 にふい煙色 普通	P 274 P L 30 30% 外面厚付者 B3h+

図版番号	器種	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第87図2	刺片	4.1	2.1	—	15.3	石英	S 1-4 覆土中	Q31 P L 32
3	石蔵	2.9	1.7	0.3	0.9	チャート	S 1-33 覆土中	Q53 P L 32
4	石蔵	2.7	1.8	0.4	0.8	安山岩	S 1-33 覆土中	Q54 P L 32
5	石蔵	2.9	1.6	0.4	1.3	頁岩	S 1-34 覆土中	Q57 P L 32
6	石蔵	2.6	(1.5)	0.5	1.1	流紋岩	表探	Q63 P L 32



第87图 遼满外出土遺物実測図(1)



第88図 遺溝外出土遺物実測・拓影図(2)

図版番号	器種	計測値				材質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)				
第87図7	石 鏃	2.7	1.7	0.5	1.7	チャート	S1-4 覆土中	Q7	P.L.32
8	石 鏃	2.5	2.0	0.4	1.3	安山岩	E2b+	Q62	P.L.32
9	凹 石	18.9	13.0	7.9	2,240.0	礫 岩	S1-22 覆土中	Q36	
10	打製石斧	11.2	8.4	4.0	393.2	安山岩	表採	Q60	P.L.32
11	打製石斧	5.4	6.2	2.5	104.3	砂 岩	表採	Q61	
12	不 明	11.3	4.2	1.0	63.6	黒色片岩	表採	Q65	
13	榎 石	6.3	4.3	2.4	10.5	榎 石	表採	Q64	
14	勾 玉	1.3	1.1	0.9	2.8	ヒスイ	E2i+	Q82	P.L.32
15	缺状耳飾り	(3.5)	(3.5)	1.3	10.6	メノウ	B4	Q83	孔径 0.6cm

図版番号	器種	計測値				材質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第88図16	古 銭	3.1	2.4	0.4	17.0	銅	表採	M7	
17	煙 管	(5.5)	1.6	-	8.6	灰ちゆう	S1-33 覆土中	M5	

① 図版実測出土物実測 ② 拓影

第4節 まとめ

当遺跡で確認した遺構は、弥生時代後期の竪穴住居跡1軒、古墳時代前期の竪穴住居跡28軒、古墳時代後期の竪穴住居跡6軒及び土坑4基と溝2条である。

ここでは、各時代の特徴的な住居跡及び遺物について説明を加え、まとめとしたい。

1 弥生時代の住居跡

当遺跡では弥生時代の竪穴住居跡を1軒（第17号住居跡）確認している。住居跡の平面形はやや胴張りの隅丸方形で、遺物は十王台式土器の広口壺2点がほぼ完形で床面から出土している。土師器が覆土中から破片で226点出土しているが、いずれも覆土中層より上部からで中央部に集中しているため、当住居跡の廃棄後混入したものである。当遺跡出土の十王台式土器（P99, 100）は十王台2式で、（P100）は大洗町髭釜遺跡第23号住居跡出土の広口壺と器形、文様とも類似しており、部田野山崎遺跡の第8号住居跡から出土している十王台式土器と同時期と思われる。当遺跡西側の台地縁辺部に所在する鷹ノ巣遺跡と部田野山崎遺跡では隅丸方形の竪穴住居跡から十王台式土器と土師器が出土しているが、これらの住居跡の時期は古墳時代前期であり、十王台式土器が残存していたことを示したものと報告されている。

これらのことから当遺跡は弥生時代から古墳時代へ移行する時期に生活が営まれていたものと推測できる。

2 古墳時代前期の住居跡

古墳時代前期の住居跡は合計28軒確認している。住居跡の形態の特徴をみると、第4・19・29・30号住居跡から間仕切り溝を、また第2・4・10・19・22・24・25・29・30号住居跡の炉から炉石を確認している。25号住居跡出土の炉石は半割され炉側からの出土である。

遺物は、それぞれの住居跡から多種類の土師器が出土している。特に第14号住居跡からは当遺跡においては特殊な遺物が出土している。大型壺の有段口縁部（P90）は逆さの状態でも床面から出土していることから、器台に転用していたと思われる。この大型壺は静岡県大塚式の有段口縁壺と類似しているが、口縁部の棒状浮文の貼り方等整形の手法が異なることから、大塚式の壺を模倣したものと思われる。三連小形甕（P93）は長野県の石行遺跡、静岡県の野中向原遺跡、神奈川県の御所ヶ谷遺跡などに類似がみられるが、いずれも小形台付甕で報告されている。当遺跡出土の小形甕は底部欠損のため脚台の有無は確認できない。

第25号住居跡は平面形が胴張りの隅丸方形で、規模、平面形が第17号住居跡と似ている。北壁中央に半円形状の掘り込みがあり、その土層をみると、住居跡と掘り込みは同時に堆積したものと思われる。遺物は土師器と十王台式土器が床面から出土しているが、主体となる土器は土師器である。土師器は坏（P181）、器台（P182）、壺（P183）が出土しており、壺は外面はハケ目整形後、ナデを施してハケ目を消している。弥生式土器は十王台式土器の広口壺の口縁部2点が床面から出土し、他の3点は覆土中からである。他に土師器片658点と弥生式土器片27点が出土している。調査時、床面から多量の炭化材と焼土を確認したことから焼失家屋と思われる。

他にも古墳時代前期の住居跡の覆土から弥生時代後期の弥生式土器片（十王台式土器）が出土しているが、破片が小さく出土量も少ないことから、混入したものと思われる。

小型の器台は、第19号住居跡から5点、第30号住居跡から3点それぞれまとまって出土している。第30号住居跡出土の器台（P217）は器形、赤彩色ともに当遺跡出土の他の器台と異なり、会津坂下地方の出土遺物に

類似している。

当遺跡の出土遺物は、他地域との類似品や搬入品等が見られることから、他地域との交流が盛んに行われていたことを裏付けるものと思われる。

3 古墳時代後期の住居跡

古墳時代後期の住居跡は合計6軒確認している。第33号住居跡は北部が調査区外のため竈は確認できなかったが、住居跡の形態から竈をもつと思われる。第27・33号住居跡はともに一辺が10mを越え、それぞれ南側出入口付近の壁面から外側に張り出した貯蔵穴をもつ。この2軒は主軸方向、規模、出土遺物及び内部構造等共通性がある。

第18号住居跡も北に竈をもつ大型の住居跡である。主柱穴横の床面の凹から6世紀前葉の時期の須恵器の高坏が出土している。出土状況は脚部が一部欠損しているが、破片が確認できなかったことから、欠損したものを埋設したと思われる。この住居跡も南側中央壁面からわずかに外側に張り出した貯蔵穴をもつ。部田野山崎遺跡においても一辺約8mの同規模の大型住居跡が1軒報告され、入り口付近の壁中央にそって貯蔵穴が付設されているが、壁外への張り出しは見られない⁽¹⁾。

これら3軒の大型住居跡に共通することはいずれも壁面から外側へ張り出した貯蔵穴をもつことである。

第7号住居跡の竈西側の床面からは円窓土器(甕)がほぼ完形で出土している。

このように当遺跡では古墳時代後期においても大型住居跡を中心とする集落が存在したことがうかがえる。

4 石器について

当遺跡からは石器、石製品が多種類出土している。特に凹石は各時代の住居跡の床面及び覆土中から出土しており、住居跡11軒からの出土で、約30%の割合である。他に第24号住居跡の貯蔵穴から石皿が出土し、第14号住居跡の床面から約18kgの重さの台石が出土している。出土状況からみて、それぞれの住居跡において使用されていたと思われる。

注

(1) 那珂湊市山崎遺跡群発掘調査会 「那珂湊市部田野山崎遺跡」 1990年3月

参考文献

日立市教育委員会 「岩本前遺跡発掘調査報告書」 1995年3月

那珂湊市鷹ノ巣遺跡発掘調査会 「那珂湊市鷹ノ巣遺跡」 1994年3月

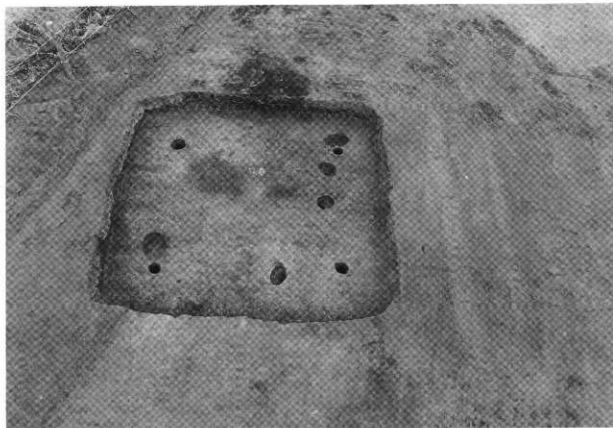
日立市史編さん委員会 「新修日立市史 上巻」 1994年9月

茨城県教育財団 「研究ノート」創刊号・2・3抜刷「十王台式土器について」 1991・1992・1993年

東京美術 玉田時雄、小金井靖著 「旧石器の知識」 1984年7月

写 真 图 版

山 崎 遺 跡



第17号住居跡全景

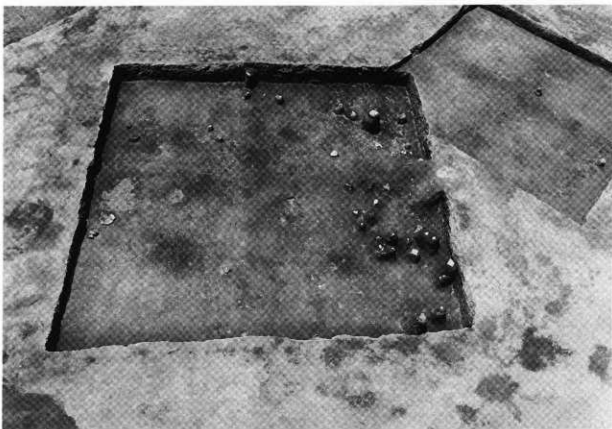


第17号住居跡遺物出土状況

PL 2

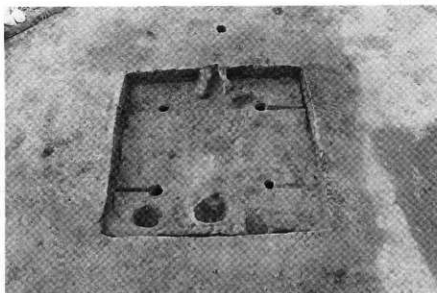


第3号住居跡全景

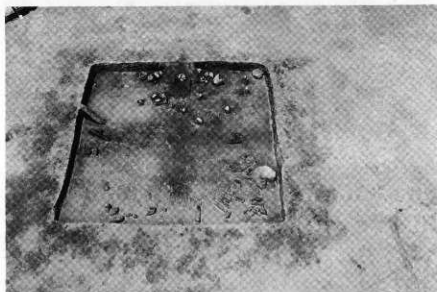


第3・4号住居跡遺物出土状況

第7号住居跡全景



第7号住居跡遺物出土状況



第7号住居跡遺物出土状況





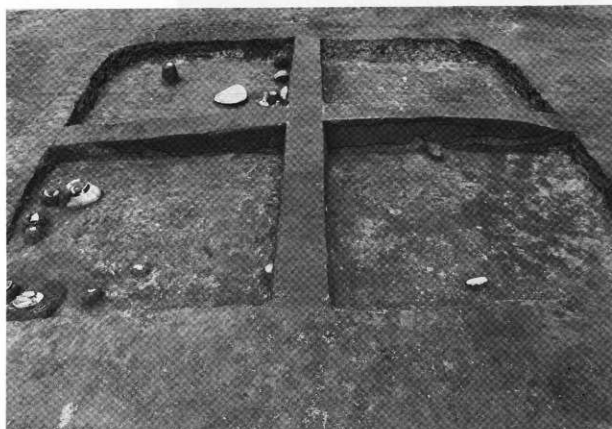
第10号住居跡全景



第10号住居跡遺物出土状況



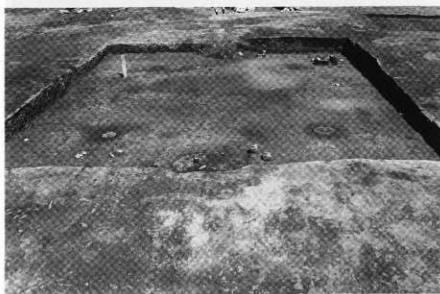
第14号住居跡遺物出土状況



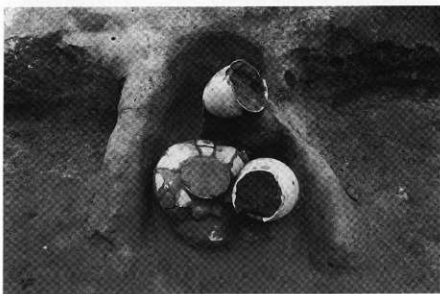
第14号住居跡土層セクション



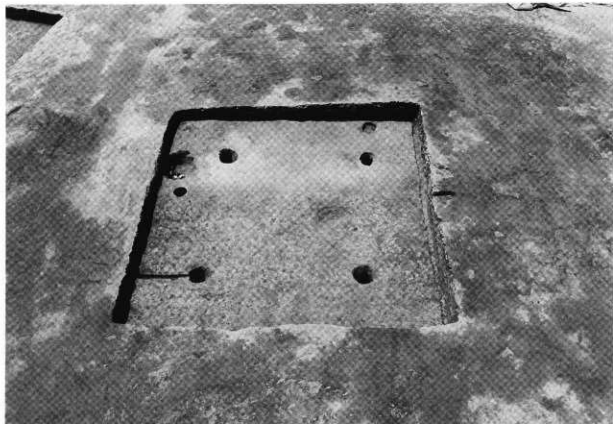
第18号住居跡全景



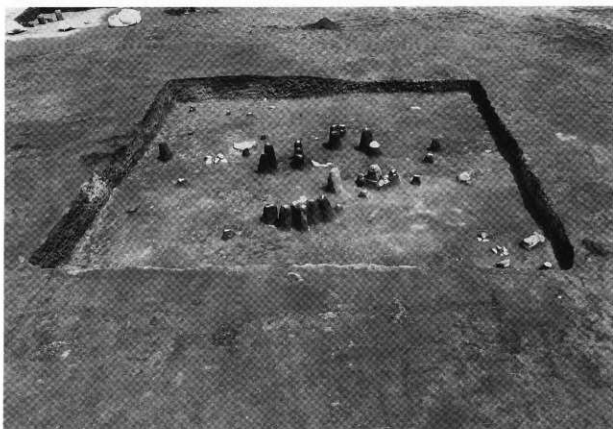
第18号住居跡遺物出土状況



第18号住居跡遺物全景



第19号住居跡全景



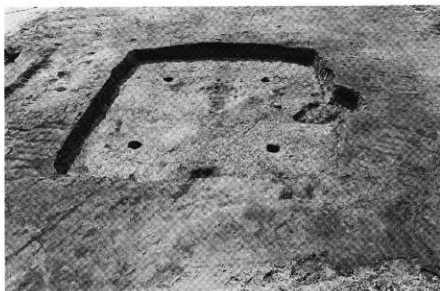
第19号住居跡遺物出土状況



第22号住居跡全景



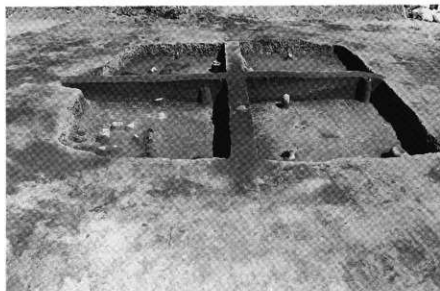
第22号住居跡遺物出土状況



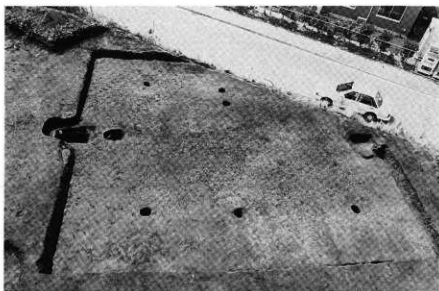
第25号住居跡全景



第25号住居跡遺物出土状況



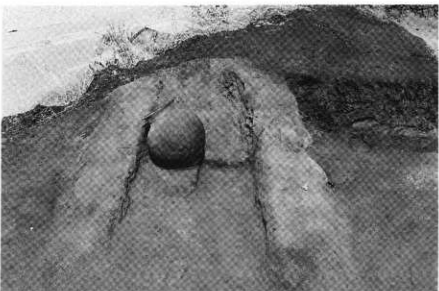
第25号住居跡土層セクション



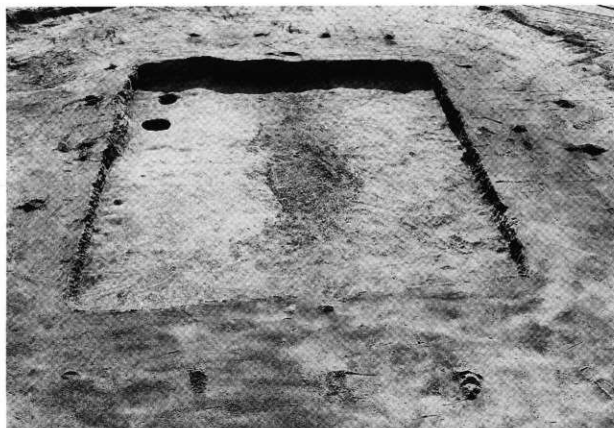
第27号住居跡全景



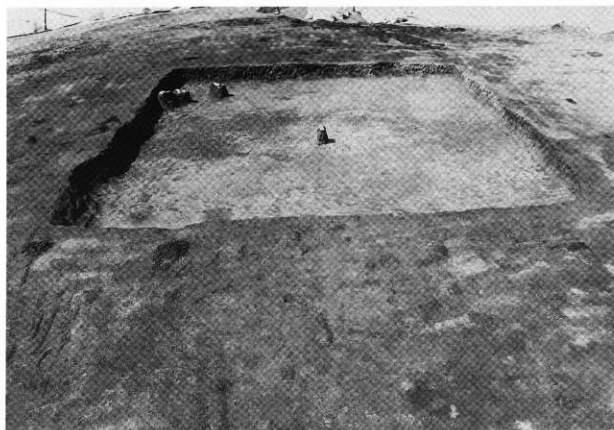
第27号住居跡遺物出土状況



第27号住居跡壺全景



第28号住居跡全景



第28号住居跡遺物出土狀況



第33号住居跡全景



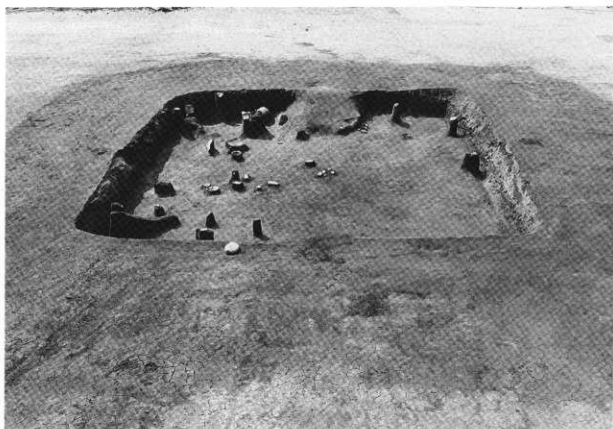
第33号住居跡遺物出土状況



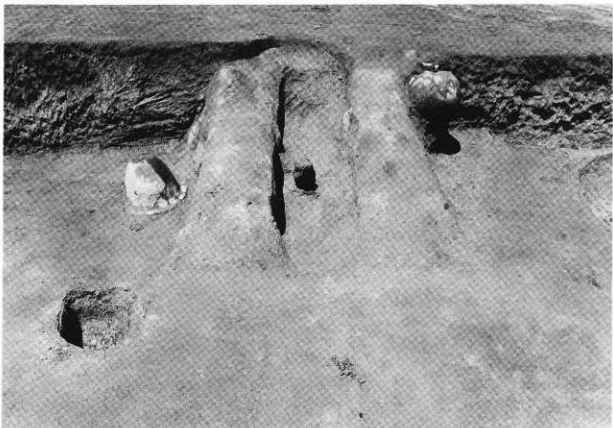
第34号住居跡全景



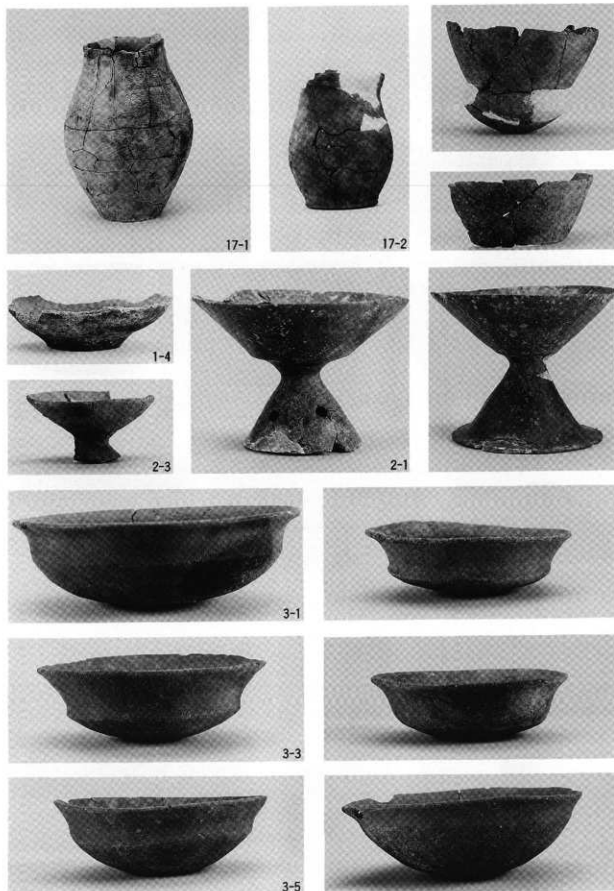
第34号住居跡遺物出土状況



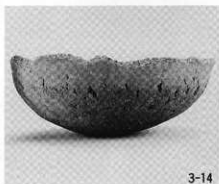
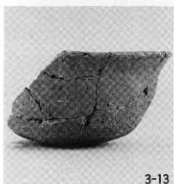
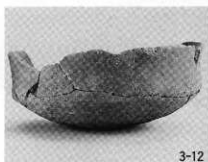
第35号住居跡遺物出土状況



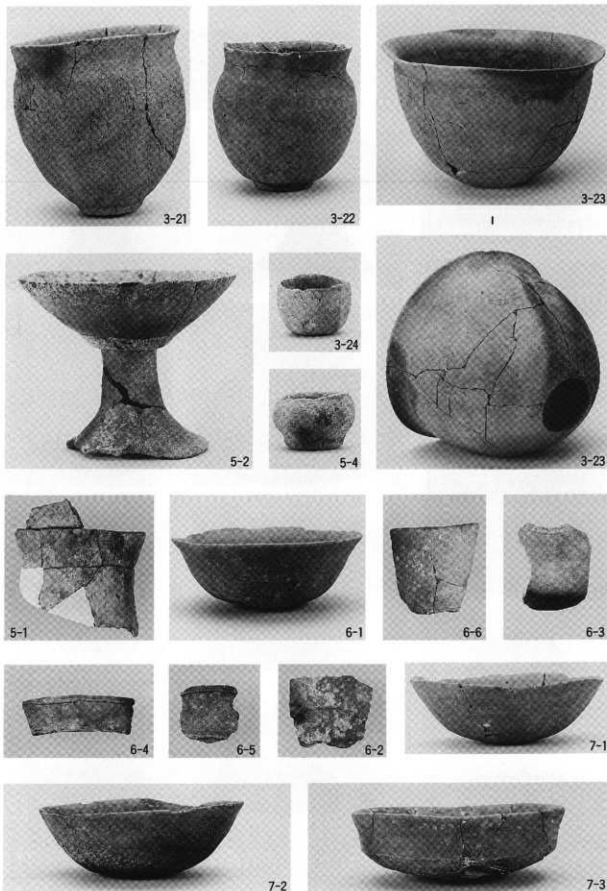
第35号住居跡遺物出土状況



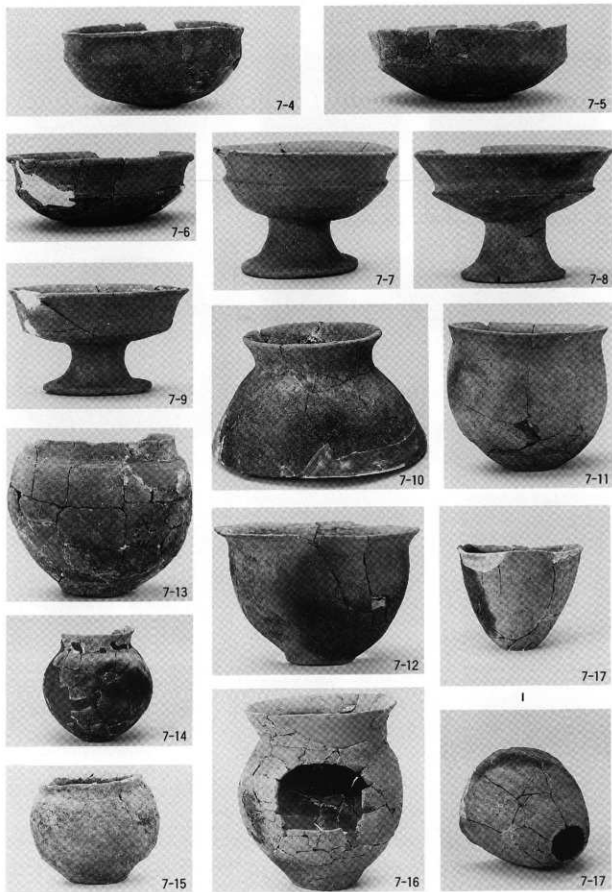
第17・1～3号住居跡出土遺物



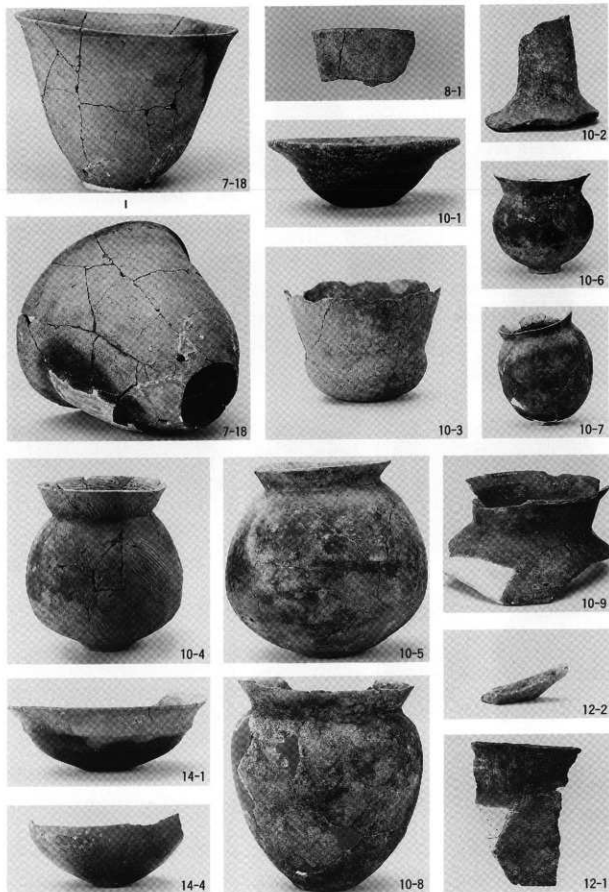
第3号住居跡出土遺物



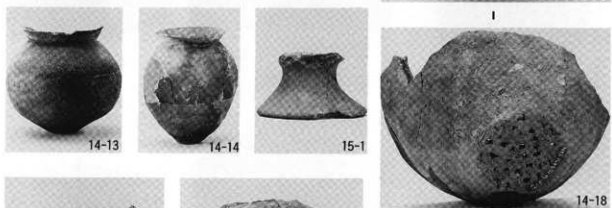
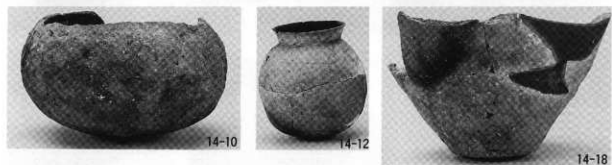
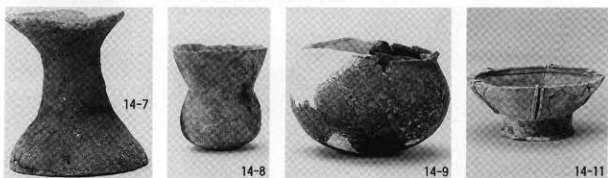
第3・5～7号住居跡出土遺物



第7号住居跡出土遺物



第7・8・10・12・14号住居跡出土遺物



第14・15号住居跡出土遺物





18-17

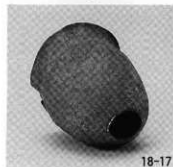
1



19-3



19-4



18-17



19-5



19-6



19-7



19-8



19-9



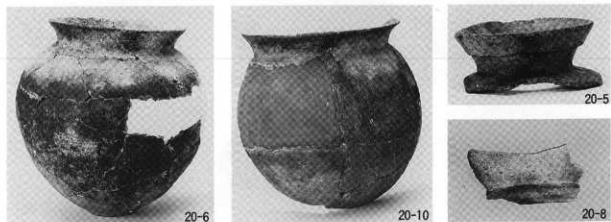
19-11



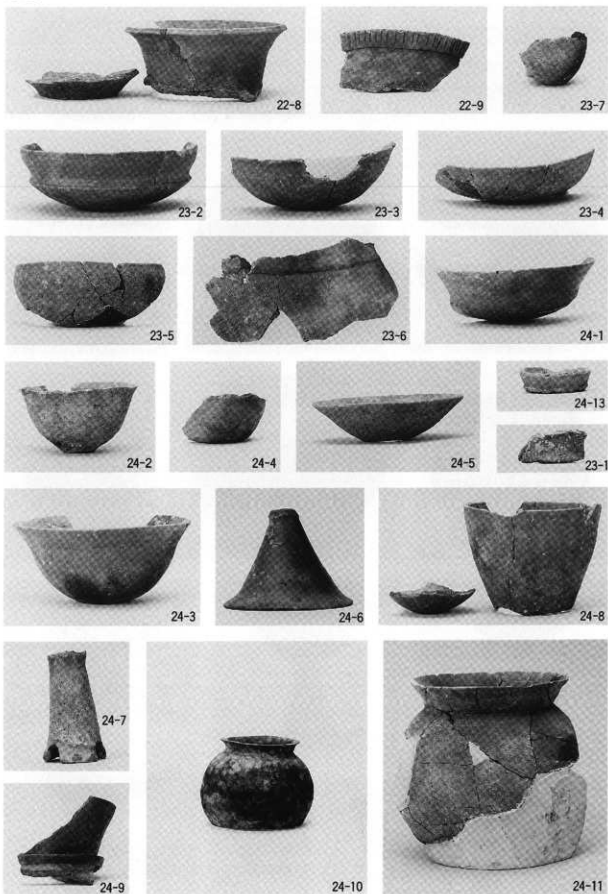
19-12



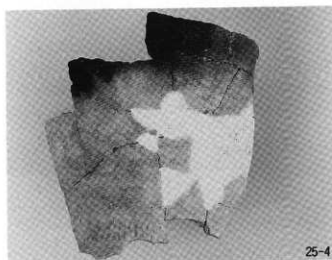
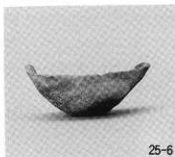
20-1

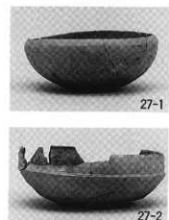


第20・22号住居跡出土遺物



第22～24号住居跡出土遺物

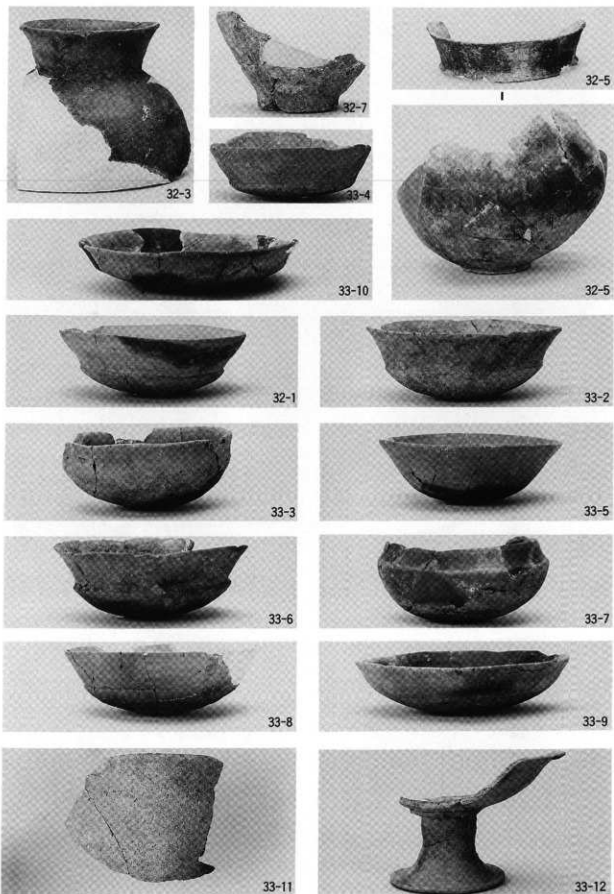




第26~30号住居跡出土遺物

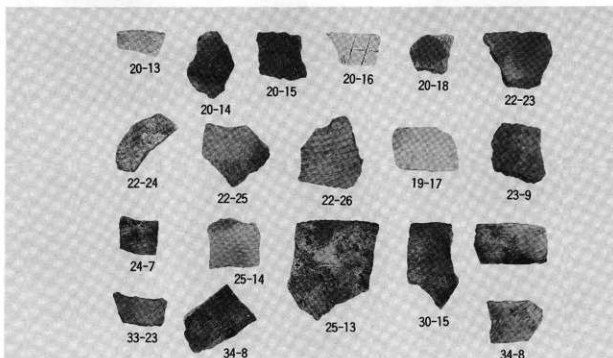
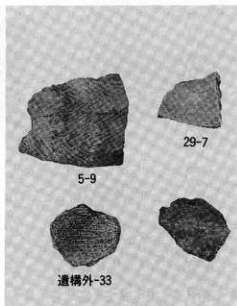


第29～32号住居跡出土遺物

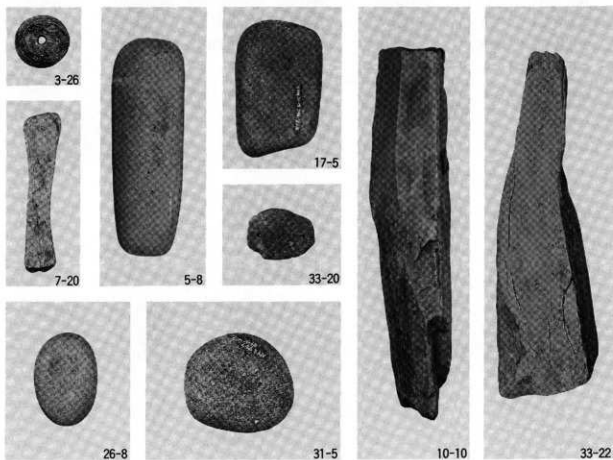
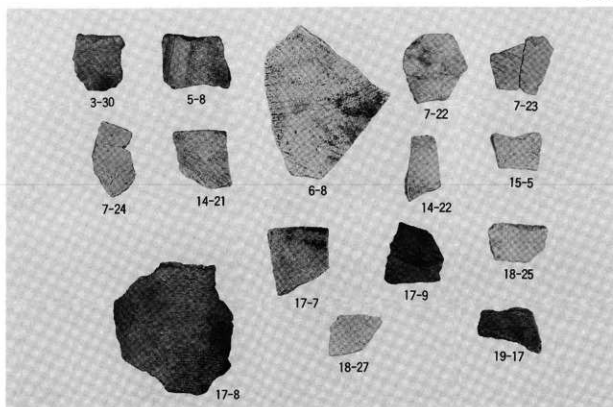


第32・33号住居跡出土遺物

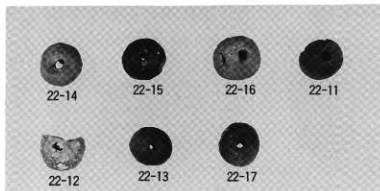
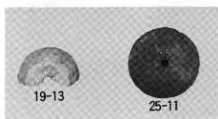
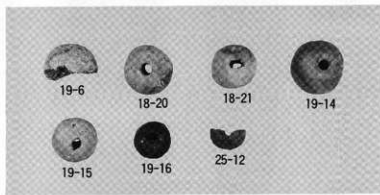
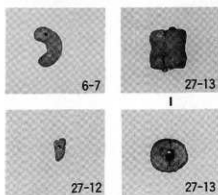
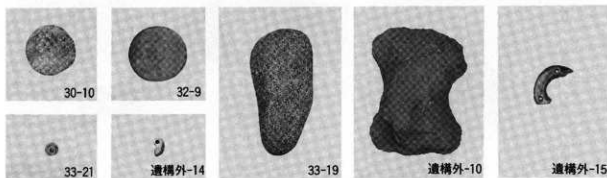
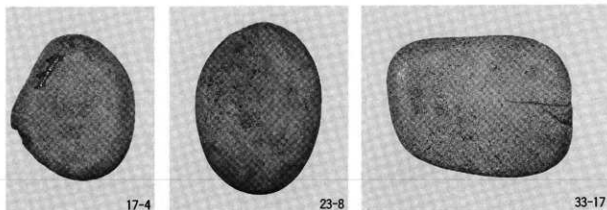


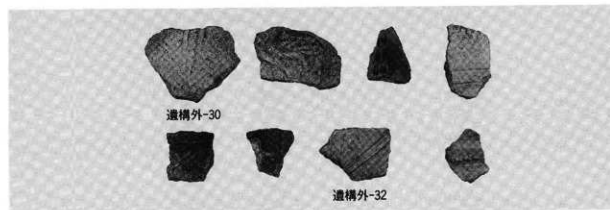
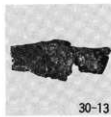
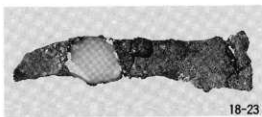


第35号住居跡・遺構出土遺物，出土土器



遺構出土土器・出土石製品





出土金屬製品・遺構外出土土器

茨城県教育財団文化財調査報告第105集

常陸那珂有料道路事業地内
埋蔵文化財調査報告書

山崎遺跡

平成7（1995）年9月25日印刷

平成7（1995）年9月30日発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 株式会社高野高速印刷